

**2020年度
教職・資格（市ヶ谷）
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覧

【発行日：2020/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

資格関係科目	【C6700】生涯学習入門Ⅰ	〔笹川 孝一〕	春学期	1
資格関係科目	【C6701】生涯学習入門Ⅰ	〔朝岡 幸彦〕	春学期	2
資格関係科目	【C6702】生涯学習入門Ⅱ	〔笹川 孝一〕	秋学期	3
資格関係科目	【C6703】生涯学習入門Ⅱ	〔朝岡 幸彦〕	秋学期	4
資格関係科目	【C6704】図書館情報学概論Ⅰ	〔原田 隆史〕	春学期	5
資格関係科目	【C6705】図書館情報学概論Ⅰ	〔村上 郷子〕	春学期	6
資格関係科目	【C6706】図書館情報学概論Ⅱ	〔原田 隆史〕	秋学期	7
資格関係科目	【C6707】図書館情報学概論Ⅱ	〔丹 一信〕	秋学期	8
資格関係科目	【C6708】図書館情報学概論Ⅱ	〔菅原 真悟〕	秋学期	9
資格関係科目	【C6709】図書館情報学概論Ⅱ	〔丹 一信〕	春学期	10
資格関係科目	【C6710】図書館サービス概論	〔丹 一信〕	春学期	11
資格関係科目	【C6711】情報サービス演習	〔田中 順子〕	年間	12
資格関係科目	【C6712】情報サービス演習	〔奥泉 和久〕	年間	13
資格関係科目	【C6713】情報サービス演習	〔菅原 真悟〕	年間	14
資格関係科目	【C6714】図書館情報資源概論	〔小黒 浩司〕	春学期	15
資格関係科目	【C6715】図書館情報資源概論	〔村上 郷子〕	春学期	16
資格関係科目	【C6716】図書館情報資源概論	〔村上 郷子〕	春学期	17
資格関係科目	【C6717】図書館情報資源特論	〔小黒 浩司〕	秋学期	18
資格関係科目	【C6718】図書館情報資源特論	〔村上 郷子〕	秋学期	19
資格関係科目	【C6719】図書館情報資源特論	〔村上 郷子〕	秋学期	20
資格関係科目	【C6720】図書館演習	〔有吉 末充〕	年間	21
資格関係科目	【C6721】図書館演習	〔村上 郷子〕	年間	22
資格関係科目	【C6722】図書館演習	〔丹 一信〕	年間	23
資格関係科目	【C6723】図書館演習	〔丹 一信〕	年間	24
資格関係科目	【C6724】読書と豊かな人間性	〔有吉 末充〕	秋学期	25
資格関係科目	【C6725】情報メディアの活用	〔村上 郷子〕	秋学期	26
資格関係科目	【C6726】情報メディアの活用	〔坂本 旬〕	秋学期	27
資格関係科目	【C6727】社会教育演習	〔笹川 孝一〕	年間	27
資格関係科目	【C6728】生涯学習支援論Ⅰ	〔笹川 孝一〕	春学期	29
資格関係科目	【C6729】生涯学習支援論Ⅰ	〔朝岡 幸彦〕	春学期	30
資格関係科目	【C6730】生涯学習支援論Ⅱ	〔笹川 孝一〕	秋学期	31
資格関係科目	【C6731】生涯学習支援論Ⅱ	〔朝岡 幸彦〕	秋学期	32
資格関係科目	【C6732】現代生活・文化と社会教育Ⅰ	〔鈴木 悌遍〕	春学期	33
資格関係科目	【C6733】現代生活・文化と社会教育Ⅱ	〔佐々木 美貴〕	秋学期	34
資格関係科目	【C6734】博物館概論	〔金山 喜昭〕	春学期	35
資格関係科目	【C6735】博物館経営論	〔金山 喜昭〕	春学期	36
資格関係科目	【C6736】博物館経営論	〔杉長 敬治〕	秋学期	36
資格関係科目	【C6737】博物館資料論	〔田中 裕二〕	秋学期	37
資格関係科目	【C6738】博物館教育論	〔荒川 裕子〕	春学期	38
資格関係科目	【C6739】博物館教育論	〔山下 治子〕	秋学期	39
関連科目	【C4740】【2016 年度以前入学者用】図書館制度・経営論	〔森 智彦〕	秋学期	40
資格関係科目	【C6740】図書館制度・経営論	〔森 智彦〕	秋学期	41
関連科目	【C4741】【2016 年度以前入学者用】児童サービス論	〔田中 順子〕	秋学期	42
資格関係科目	【C6741】児童サービス論	〔田中 順子〕	秋学期	43
関連科目	【C4742】【2016 年度以前入学者用】情報サービス論（2013 年度より開設）	〔田中 順子〕	春学期	43
資格関係科目	【C6742】情報サービス論（2013 年度より開設）	〔田中 順子〕	春学期	44
関連科目	【C4743】【2016 年度以前入学者用】情報資源組織論	〔丹 一信〕	春学期	44
資格関係科目	【C6743】情報資源組織論	〔丹 一信〕	春学期	45
関連科目	【C4744】【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習	〔丹 一信〕	年間	46
資格関係科目	【C6744】情報資源組織演習	〔丹 一信〕	年間	47
関連科目	【C4745】【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習	〔村上 郷子〕	年間	48
資格関係科目	【C6745】情報資源組織演習	〔村上 郷子〕	年間	49
関連科目	【C4746】【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習	〔鈴木 祐滋〕	年間	50

資格関係科目【C6746】情報資源組織演習〔鈴木 祐滋〕年間	51
関連科目【C4747】【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習〔菅原 真悟〕年間	52
資格関係科目【C6747】情報資源組織演習〔菅原 真悟〕年間	53
関連科目【C4748】【2016 年度以前入学者用】学校図書館メディアの構成〔有吉 末充〕秋学期	54
資格関係科目【C6748】学校図書館メディアの構成〔有吉 末充〕秋学期	55
関連科目【C4749】【2016 年度以前入学者用】学校経営と学校図書館〔松田 ユリ子〕秋学期	56
資格関係科目【C6749】学校経営と学校図書館〔松田 ユリ子〕秋学期	57
関連科目【C4750】【2016 年度以前入学者用】学習指導と学校図書館〔松田 ユリ子〕秋学期	58
資格関係科目【C6750】学習指導と学校図書館〔松田 ユリ子〕秋学期	59
関連科目【C4751】【2016 年度以前入学者用】社会教育経営論〔御園生 純〕年間	59
資格関係科目【C6751】社会教育経営論〔御園生 純〕年間	60
関連科目【C4752】【2016 年度以前入学者用】社会教育経営論〔御園生 純〕年間	61
資格関係科目【C6752】社会教育経営論〔御園生 純〕年間	62
関連科目【C4753】【2016 年度以前入学者用】社会教育活動Ⅰ〔桔川 純子〕春学期	63
資格関係科目【C6753】社会教育活動Ⅰ〔桔川 純子〕春学期	64
関連科目【C4754】【2016 年度以前入学者用】社会教育活動Ⅱ〔佛木 完〕秋学期	65
資格関係科目【C6754】社会教育活動Ⅱ〔佛木 完〕秋学期	66
資格関係科目【C6755】社会教育実習〔朝岡 幸彦〕年間	67
関連科目【C4756】【2016 年度以前入学者用】ミュージアム資料保存論〔今野 農〕春学期	68
資格関係科目【C6756】博物館資料保存論〔今野 農〕春学期	69
関連科目【C4757】【2016 年度以前入学者用】ミュージアム資料保存論〔清水 玲子〕秋学期	70
資格関係科目【C6757】博物館資料保存論〔清水 玲子〕秋学期	71
関連科目【C4759】【2016 年度以前入学者用】ミュージアム展示論〔渡邊 尚樹〕秋学期	72
資格関係科目【C6759】博物館展示論〔渡邊 尚樹〕秋学期	73
関連科目【C4760】【2016 年度以前入学者用】ミュージアム展示論〔渡邊 尚樹〕春学期	74
資格関係科目【C6760】博物館展示論〔渡邊 尚樹〕春学期	75
関連科目【C4761】【2016 年度以前入学者用】ミュージアム情報・メディア論〔柏女 弘道〕春学期	75
資格関係科目【C6761】博物館情報・メディア論〔柏女 弘道〕春学期	76
関連科目【C4762】【2016 年度以前入学者用】ミュージアム情報・メディア論〔石川 貴敏〕秋学期	77
資格関係科目【C6762】博物館情報・メディア論〔石川 貴敏〕秋学期	78
関連科目【C4763】【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅰ〔田中 裕二〕年間	79
資格関係科目【C6763】博物館実習Ⅰ〔田中 裕二〕年間	80
関連科目【C4764】【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅰ〔金山 喜昭〕年間	81
資格関係科目【C6764】博物館実習Ⅰ〔金山 喜昭〕年間	82
関連科目【C4765】【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅱ〔小西 雅徳〕年間	83
資格関係科目【C6765】博物館実習Ⅱ〔小西 雅徳〕年間	84
関連科目【C4766】【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅱ〔杉山 享司〕年間	85
資格関係科目【C6766】博物館実習Ⅱ〔杉山 享司〕年間	86
資格関係科目【C6767】博物館実習Ⅲ〔金山 喜昭〕年間	87
資格関係科目【C6768】ミュージアム資料保存論〔今野 農〕春学期	88
資格関係科目【C6769】ミュージアム資料保存論〔清水 玲子〕秋学期	89
資格関係科目【C6770】ミュージアム展示論〔渡邊 尚樹〕秋学期	90
資格関係科目【C6771】ミュージアム展示論〔渡邊 尚樹〕春学期	91
資格関係科目【C6772】ミュージアム情報・メディア論〔柏女 弘道〕春学期	91
資格関係科目【C6773】ミュージアム情報・メディア論〔石川 貴敏〕秋学期	92

生涯学習入門Ⅰ

笹川 孝一

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習の本質と歴史～生涯学習の時代とキャリアデザイン時代の関係性に焦点をあてて～

☆なお、発達・教育キャリア入門C・D（生涯学習入門はⅠ・Ⅱ）は、内容が一続きのもので、連続して履修することが望ましい。

【到達目標】

1) 人間の生涯学習とキャリア・キャリアデザインとの関係について、ヒト以外の動物と比較しながら、「仕事」「遊び」「表現」「共同体」「学習と教育」「生涯学習」「社会教育」に焦点を当てて考える。

2) 近代化、現代化と「生涯学習の時代」「キャリアデザインの時代」の意味と矛盾について考える。

3) 日本の歴史に即しながら「生涯学習」「キャリア」「キャリアデザイン」の用語と概念の変遷を追う、そこでの課題と方向性、自分自身で定義することの大切さを考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1) 授業の概要：

授業の到達目標及びテーマを参照のこと。

2) 授業の方法：

①できるだけ映像や新聞記事などを活用し、できるだけわかりやすく授業を進める。

②学生の人数によって、グループワーク等も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方と授業のルールを説明し、協議の上、確認する。	授業の狙いと概要、進め方、授業のルール、評価方法等について説明し、合意形成を図る。
2	自然史過程としてのヒトの歴史と人の一生～生涯学習・社会教育およびキャリアデザインの基盤①	動物の一生が自然史過程であるのと同様に、人間の一生も自然史の一過程であり、個人にも種にも、太陽系と地球にも誕生と死があることを理解する。
3	人の生涯と「仕事」「遊び」「意味づけ」～同上②	人間が「仕事」という時間的経過の中でのみ成就する意識的活動を始め、それによって生まれた自由な活動時間における「遊び」を行うことで、人生に「意味づけ」を行うようになったこと、及び、「仕事」「遊び」の構成要素を理解する。
4	ヒトの表現と次世代育成～同上③	仕事と遊びをするために、人は様々な表現手段を発達させ、それらを知得し、発展させ、次世代に伝えてきたことを理解する。
5	自立・自律のための共同体経営と伝統型生涯学習社会～同上④	互いに依存しあいながら自立・自律して生きるために、人々は組織や社会を作り出して生きてきたこと、および伝統型生涯学習社会の構造を理解する。
6	近代化と生涯学習・キャリアデザイン～生涯学習の歴史的意義①	産業革命、市民革命を基礎に生まれた近代的個人とその矛盾がキャリアデザインを切り開いてきたことを理解する
7	近代社会における生涯学習・キャリアデザインと社会参加～同上②	近代的個人は自律・自立のみを一方的に推進したのではなく、それを可能にする新しい社会も生み出してきたことを理解する
8	近代社会における契約社会と非契約社会～同上③	キャリアデザインにとって、非契約関係と、それを基礎とする契約関係との両方が大事なことを理解する。
9	グローバリゼーションと生涯学習～同上④	いわゆる「グローバリゼーション」のもとで広がる国際的ネットワークと格差や商業主義との闘い、struggleの中で、個人のキャリアも家族、事業所、地域、国家、地球のキャリアも連携しあいながら鍛えられていることを、理解する。

10	女性の時代におけるキャリア形成と生涯学習～現代における人の生き方・働き方と生涯学習①	人が自らの生き方に自覚的になる上で欠かせないキャリア形成と生涯学習の歴史について、「キャリア組」という男性エリートの世界から「キャリアウーマン」という職業をもつ女性へと「キャリア」「キャリアデザイン」が展開する中で、多面的なキャリアが追求されてきたことを理解する。
11	生涯学習・キャリア形成と男性たちのワークライフ学習バランス～同上②	1990年代を通じて雇用不安にさらされてきた男性たちも「ワークライフバランス」を求め始めてきたことを理解する。
12	21世紀における生涯学習・キャリアデザインの国際的展開～同上③	21世紀に至って、日本の中での努力、国際的な影響、地球環境の危機などによって、バランスのとれた人と組織と地球のキャリア形成がさまざまな人々によって担われ始め、「生涯学習」や「コンピテンシー」「グローバルな知識や技術、ネットワーク」が展開し始めたことを理解する。
13	「生涯学習」「生涯教育」「キャリア」「キャリアデザイン」は自分で定義する～同上④	「キャリア」と「キャリアデザイン」は論争的なので、一人ひとりが自分の定義をもつことが大事であることを理解する。そのうえで、担当教員自身の定義を紹介する。
14	まとめと補足	学生の質問をもとに補足説明と討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習復習

授業で紹介する参考文献を読むこと本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局

授業に使うPPファイルを「資格課程のwebサイト」で配布する。新聞記事等は、授業中にコピーを配る。

【参考書】

ラングラン『生涯教育入門』全日本社会教育連合会

笹川孝一編『生涯学習社会とキャリアデザイン』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（主体的な参加の姿勢など）20%
- ・随時出されるレポートの提出とその内容 20%
- ・定期試験の結果 60%

【学生の意見等からの気づき】

- ・内容をできるだけわかりやすく講義する
- ・映像や新聞記事の活用
- ・学生からの質問、感想への積極的な対応
- ・テキストの内容の要約とコメントの課題は力がつくという評価が多いので、積極的に実施する
- ・私語への厳しい対応
- 以上について、心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

ワード

パワーポイント

ビデオ、DVD

【その他の重要事項】

- ・学問共同体としての授業の充実を心がけたい。
- ・学生側の積極的参加を呼びかけたい。
- ・なお、発達・教育キャリア入門はC・D（生涯学習入門Ⅰ・Ⅱ）続けて履修することが望ましい。内容も一連のものとなっている。

【Outline and objectives】

Essentials and History of Lifelong Learning

生涯学習入門 I

朝岡 幸彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習は義務教育学校が成立するよりもはるかに前から、生活の場で仕事を通じて行われてきた営みである。発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門I）では、主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。

*今年度は COVID-19 対応により 4/27 から online を使用して開講する。基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯学習社会に生きることの意味	「知識基盤社会」と呼ばれる現代において、社会教育・生涯学習は何を期待されているのか、私たちが「生きる」ための学習の意味について考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約①	教育基本法及び教育勅語などの教育基本法令の原理について学ぶ。
第 3 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約②	教育無償化論の理解を通して、社会教育施設（図書館・公民館など）の無償制原則について理解する。
第 4 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約③	社会教育法等の解釈を通じて、戦後社会教育法制と精度の特徴を理解する。
第 5 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約④	社会教育法に関わる訴訟の論点を通して、学習権と「表現の自由」について理解する。
第 6 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑤	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令について理解するとともに、国際文書や条約の動向について学ぶ。
第 7 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑥	公共図書館の基本理念と図書館政策・提言、図書館経営のアウトソーシングや学校図書館・NPO 図書館、読書ボランティア活動とともに、博物館の理念と制度、その多様な形について考える。
第 8 回	社会教育・生涯学習の理念と思想	社会教育における四つのテーゼの特徴の理解を通して、戦後社会教育の理念の発展を学ぶ。
第 9 回	社会教育・生涯学習の政策と制度①	教育委員会制度の特徴を通して、社会教育・生涯学習を支える仕組みについて理解する。
第 10 回	社会教育・生涯学習の政策と制度②	学校と社会教育施設の関係を通して、社会教育・生涯学習の行財政の特徴について学ぶ。
第 11 回	社会教育・生涯学習の政策と制度③	長野県飯田市を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の課題と可能性を学ぶ。
第 12 回	社会教育・生涯学習の課題と可能性	SDGs 及び ESD の時代における社会教育・生涯学習の課題と可能性を考える。
第 13 回	COVID-19 対応	COVID-19 対応
第 14 回	COVID-19 対応	COVID-19 対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018 年

【参考書】

社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所 2017 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（ワークシートを含む）100 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

今年度は COVID-19 対応により 4/27 から online を使用して開講する。基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline and objectives】

Lifelong learning has been carried on through our work in life, which has existed long before school education has started. In this class, participants will learn the essence and significance of lifelong learning and social education. Also, we will learn the institutional development of lifelong learning and will deepen understanding of basics in home education, school education and social education.

生涯学習入門Ⅱ

笹川 孝一

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン時代のリテラシーと生涯学習・生涯学習社会について考える「学習」は良いものとして「生涯学習の時代」が語られることも多いが、「学習」に必須なコトバ、文字、多様な表現は、実体とは異なるものなので、それを無批判に扱うと、かえって認識を誤ることも多い。そこでこの授業では、学習のパラドックスが生まれる原因である、言葉、文字、表現の矛盾に立ち入りながら、幸せに繋がる学習の仕方について、文字・記号、能力・個性論に踏み込んで解説する。そして、幸せに繋がる学習の技法について検討する。

さらに、社会教育、生涯教育、キャリアデザインの異同を踏まえ、国際化を視野に入れた生涯学習社会を展望する。

【到達目標】

- 1) 「リテラシー」と「学力」「能力」を育む **struggle** としての「生涯学習」と「生涯教育」について、「社会教育」と「社会的教育」について学ぶ。
- 2) 「生涯学習」における「学校」「公民館」「博物館」「図書館」「企業研修」等の施設の役割や「ワークショップ」などのプログラム、教材作成や他の施設との連携等について学ぶ。
- 3) 「生涯学習」にかかわる地方自治体や国、企業や NPO などの社会的な仕組みや権利、国際協力、国連やユネスコ、EU や東アジア共同体の役割を学ぶ。
- 4) 生涯学習に関わる法政大学の伝統を理解し、法政大学出身の生涯学習指導者としての誇りを身につける。

また、次の点についても、重視して、授業を進める。

- ①理論と実際、②学習内容・方法・形態、③支援と評価、④「家庭教育」「学校教育」「社会教育」の連携、⑤生涯学習振興施策の立案と推進、⑥「社会教育行政」と一般行政の役割と連携、⑦地方自治体の機能や役割と生涯学習関連法規、⑧学習施設や職員、⑨多様な指導者の役割と連携について、⑩日本の特徴の形成と普遍性について、国際的ネットワークを視野に入れて考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ①できるだけ映像や新聞記事などを活用し、できるだけわかりやすく授業を進める。
- ②学生の人数によって、グループワーク等も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生涯学習の理論と実際の歴史的な展開と到達点	伝統的な生涯学習、「家庭教育」「学校教育」「社会教育」の分離、統合装置としての現代型生涯学習について、理論的展開と実践的展開の相互関連を視野に入れながら理解する。
2	人格危機の諸相と自己イメージのずれ	人は自分自身の「自己イメージ」によって、自分をコントロールしていること、「自己イメージ」と現実とのずれが、成長や心理的抑うつ状態、「不登校」「出社拒否」などの原因となっていることを理解する。
3	自己イメージの修正と生涯学習の機能～同上②	自己イメージと実際の自分とのズレの修正作業は、自分と世界についての認識を生産にわたって再生産していく「生涯学習」の過程であること、またその中核概念としての「自己教育」「相互教育」について理解する。
4	学習のパラドックスと「学習」「学問」「学力」「能力」	「学習」は常に善とは限らず、「学習」によって人は元気にもなり、病気にもなること、「問」=チェック抜きの「学習」は運転台のない電車のような危うさをもつこと、リテラシーと「学習のパラドックス」について理解する。
5	「格物致知窮理」サイクルと「PDCA サイクル」	学問の基礎が生活・実践にあること、文字記号習得は詰め込みが基礎であること、「格物致知窮理」サイクルと「PDCA サイクル」のメリット・デメリットを理解する。

6 「創造性」「コアコンピテンス」「個人・地域リテラシー」を育む学習内容と方法～同上③

7 学習プログラム編成と学習成果・学習過程の評価および相談

8 生涯学習における、家庭・地域・学校・企業の連携

9 「教育の原理」と「生涯学習」「生涯教育」「社会教育」「成人教育」の日本の特性

10 現代型生涯学習社会をめざす生涯学習振興政策・施策の立案と推進

11 生涯学習に関わる法体系と地方自治体での制度と運用

12 社会教育・生涯学習行政と生涯学習の施設の経営と連携

13 生涯学習の指導者の役割・連携・研修

14 国際社会・アジア太平洋地域での生涯学習ネットワーク

一般知と経験知、一般的文字記号と経験に基づく文字記号、一般的イメージと個人化・地域化されたイメージとの突き合わせによる「学問」「知識」の創造・発展と「コアコンピテンス」「教養」形成とその機能を、とくに創造性に焦点を当てて理解する。そして、「リテラシー」の習得・活用の世界について、①「健康」をキーワードとする学習内容、②「自分史」や課題発見・解決学習、時間＝歴史学習、空間＝地理学習、時代のキーワード学習などの学習方法の各側面から考察する。

①「学習欲求」「学習必要」「学習要求」と「学習必要自覚化」を重視した、個性的・特色のある学習プログラム編成の実際と、②学習成果・学習過程についての自己評価・相互評価と学習相談の実際等を理解する。

家庭、地域、学校、企業社会の連携による、「コアコンピテンス」「教養」「ローカルな知とアートの世界」を軸とした、「家庭文化」「地域文化」「学校文化」「企業文化」の世界。その継承・発展とそのための、人の内面・外面にわたる実践過程＝ **struggle** の実際を理解する。

「学習の共有と方向付け」としての「教育の原理」と、「成人の学習・自己教育」を中核とする統合の原理としての「生涯学習」「生涯教育」「社会教育」について、日本における意義・発展・特質を理解する。その際、ヨーロッパ、アメリカ、東アジアを視野に入れる。

現代型の生涯学習社会を目指す、新たな生涯学習振興政策・施策の意義と、地方自治体等の現場で施策、プログラムを立案・実施・推進することの具体的な状況について、広義の「キャリア教育」も視野に入れて理解する。国際人権規約や日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法、博物館法等の現代的教育法体系について、ユネスコ学習権宣言などの国際的な動向を視野に入れて理解するとともに、地方自治体の行財政制度について理解する。生涯教育は、社会のあらゆるところで行われており、文部科学省や教育委員会がそれらのジャンクションとなることを期待されていること、それらの基本構造が共通していることをラムサール条約や生物多様性条約の CEPA に即して理解する。

社会教育主事、図書館司書、博物館学芸員など文科省・教育委員会管轄の職員と他の省庁が管轄する施設等の職員の役割と連携、地域において民間の立場から生涯教育をリードしている指導者たちの役割や研修等について、理解する。

歴史的な「中華帝国世界」と「欧米列強」との衝突の中で生まれた《大日本帝国》《大東亜共栄圏》の解体後の今日、国際的な企業間競争とナショナリズム、日本とアメリカとの非対称的な関係を踏まえ、今後の太平洋・アジア地域における生涯学習を軸とする連携のための国際戦略と人材育成の方向性を、実際の事例にそくして検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・復習を行うこと
日頃より、関連事項について、新聞記事等に注目する習慣をつけること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
新聞記事等は、授業中にコピーを配る。

【参考書】

ラングラン『生涯教育入門』全日本社会教育連合会

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（主体的な参加の姿勢など） 20 %
- ・随時出されるレポートの提出とその内容 20 %
- ・定期試験の結果 60 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・内容をできるだけわかりやすく講義する
- ・グループワークの活用
- ・映像や新聞記事の活用

・テキスト内容の要約とコメントの課題は、力がつくという評価が多いので積極的に活用する
・私語への厳しい対応
以上について、心がけたい。

【その他の重要事項】

- ・学問共同体としての授業の充実を心がけたい。
- ・学生側の積極的参加を呼びかけたい。

【Outline and objectives】

Literacy and Competency in the Time of Career Design

生涯学習入門Ⅱ

朝岡 幸彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達・教育キャリア入門Ⅱ（生涯学習入門Ⅱ）では、主に日本における社会教育・生涯学習の歴史的展開を踏まえて、具体的に実施されてきた学習の内容と方法・形態について人間のライフサイクルや社会階層に応じた学習課題の展開・方法・形態について理解を深め、社会教育・生涯学習論の深まりについて考察する。

【到達目標】

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人が「学ぶ」ことの意味	ヒトから人へと進化・発達する歴史と営みを、「学ぶ」という行為の意味から考察する。
第 2 回	社会教育・生涯学習の現代的課題	社会教育と生涯学習と ESD の関係を通して、現代的な課題について考える。
第 3 回	戦後日本社会教育の流れ①	戦後民主主義の形成期における社会教育民主化政策の展開、公民館の提唱と初期公民館活動の展開、教育基本法・社会教育法の制定から戦後社会教育理念の形成の特徴を学ぶ。
第 4 回	戦後日本社会教育の流れ②	社会教育政策の転換による高度経済成長の準備過程を、青年学級振興法の制定と社会教育法「大改正」の流れを中心に学ぶ。
第 5 回	戦後日本社会教育の流れ③	低成長時代の社会教育政策と自治体の動向を踏まえて、「権利としての社会教育」論の広がりについて学ぶ。
第 6 回	戦後日本社会教育の流れ④	21 世紀戦略と生涯学習政策の動向を踏まえて、1990 年代の新たな社会教育運動について学ぶ。
第 7 回	戦後日本社会教育の流れ⑤	近年の教育政策の動向を踏まえて、社会教育・生涯学習の課題と可能性について考える。
第 8 回	社会教育・生涯学習の実践①	信濃生産大学運動を一つの起点とする農業・農民・食に関わる学習運動について学ぶ。
第 9 回	社会教育・生涯学習の実践②	公害教育を手がかりに環境問題に関わる学習運動について学ぶ。
第 10 回	社会教育・生涯学習の実践③	公民館における「地域づくり学習」の事例をもとに、公民館と地域課題との関係を考える。
第 11 回	社会教育・生涯学習の実践④	公民館における講座やサークルの活動を事例に、公民館の特徴と役割を学ぶ。
第 12 回	社会教育・生涯学習の実践⑤	戦後社会教育・生涯学習における学習運動の地下水脈として、自由民権運動や憲法起草運動の意味について考える。
第 13 回	社会教育・生涯学習の未来	日本の社会教育・生涯学習の歴史と現状から、生涯学習社会における社会教育・生涯学習の可能性について考える。
第 14 回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの購読。
授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018 年

【参考書】

千野陽一監修、社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育 増補版』エイデル研究所 2015 年

【成績評価の方法と基準】

テキストを中心に課題レポート（ワークシートを含む）80 %

平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業で紹介した資料は Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。授業中に学生自身が接続する必要はありません。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

テキストと授業の教材を読むこと。

【Outline and objectives】

Based on the historical development of Japanese social education and lifelong learning, this class will focus specifically on the transition of learning methodology and form.

図書館情報学概論 I

原田 隆史

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 図書館情報学とは何かに関する理解
2. 情報の収集・整理・利用，およびその実践の場である図書館に関する基礎的な知識の習得
3. 情報メディアや情報検索に関わる基礎的な知識の習得

【到達目標】

1. 図書館・情報学についての基本的な知識を身につけ，情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館や各種の情報提供機関に関して理解できる
2. 現代社会での情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関して，基本的な考え方・知識・技法，社会に及ぼす影響などについても理解できるようになる
3. 上記のような考え方・知識・技法が，図書館や情報提供機関の仕事およびサービスにどのように生かされるのか，その際に留意すべきことは何かについても考えを深められる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館・情報学とは何かについて，さまざまな新しいトピックを含めて解説していきます。まず，情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館に関する内容を中心に説明し，続いて情報メディアや情報検索に関わる内容を中心に講義します。図書館は，単に図書を集め，保存し，提供するという役割だけではなく，様々なサービスを行っています。図書館の持つ大きな可能性について知っていただきたいと思います。また，ネットワーク時代の図書館サービスも含め，実際の情報収集活動にも役立つ様々な知識を学ぶことができるように工夫していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館情報学とは何か	ガイダンスと授業の概要
2	図書館と情報メディア	図書館と情報メディアの意義・機能・歴史，図書館の種類と役割・特徴などについて説明します
3	図書館の諸機能 (1)	間接サービス，テクニカルサービスとは何かについて説明していきます
4	図書館の諸機能 (2)	直接サービス，レファレンスサービスについて説明していきます
5	図書館行政・図書館政策・図書館の管理と経営	図書館行政や図書館政策などについて説明します。 また図書館経営について考えるとともに，図書館業務の評価についても述べます
6	図書館と法制度	図書館と関わりがある各種の法規（図書館法，著作権法など）について簡単に解説します
7	図書館と出版流通	日本の出版状況などについて説明するとともに，図書館と出版流通の関係についても解説します
8	知的自由と図書館	図書館員の専門性についても説明します。
9	情報メディアと図書館資料の保存	情報メディアの特徴を説明するとともに，図書館での資料の保存についても解説します
10	情報検索	情報検索の基本的な考え方について説明するとともに，それを実現する情報検索システムについても述べます
11	図書館における児童サービス	公共図書館で行われる児童サービス，ヤングアダルトサービスについて解説します
12	図書館の将来展望と課題	図書館の将来展望と課題
13	.	.
14	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を実際に使用したり，情報検索演習などを行う可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

逸村裕（ほか）編，図書館情報学を学ぶ人のために，世界思想社，2017. ISBN：978-4790716952

【参考書】

日本図書館情報学会「図書館情報学用語辞典」第3版(丸善)など(必須ではありませんが、専門用語などでわからない語が出てきた場合に参考にしてください)

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法については、後日、皆さんの履修状況を見てから決定いたします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

初回授業は 4/27 に zoom で行います。

zoom へのアクセス方法は、「学習支援システム」に掲示していますのでご覧ください。

【Outline and objectives】

Basic knowledge on library and information science

図書館情報学概論 I

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から、図書館活動の各領域についての基礎的なコンセプトを総合的に学ぶ。

【到達目標】

図書館情報学の基礎を学び、生涯学習施設の一つである図書館についての基本的な知識や概念を包括的に習得することができる。

市ヶ谷図書館の現場（事務室）で、図書館の運営方針、予算などを実際に職員に聞くことによって、図書館の実際について深く学ぶことができる。また、現場の見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験をより確実にすることができる。

授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実際の授業ではテキストを中心に、図書館司書課程 e-Learning システム (HULiC) を活用しながら、図書館情報学に関する多様な知識や概念を総合的に理解することをめざす。必要に応じて、図書館の見学やビデオ視聴、グループディスカッションなども取り入れる。

毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズやメディア情報リテラシーのアンケート調査等を行う。

(オンラインオンデマンド方式)

この授業は 4 月 28 日 1 限の時間帯 (8 : 50) を初回開始とします。毎週同じ曜日・時間に授業が始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンス、図書館とは何か
2	図書館の意義と役割①	図書館法、生涯学習社会の到来、教育観の変化、情報社会と図書館等
3	図書館の意義と役割②	図書館協力・ネットワーク、出版文化と図書館、著作権等
4	図書館の理念と図書館員の職務	図書館の自由、図書館員の倫理綱領（専門職とは何か、図書館員の対応）等
5	図書館法規と行政、施策	図書館の法的基盤、教育基本法と社会教育、地方自治法、国の図書館行政と施策等
6	地域社会と公共図書館（制度・機能）	地域の情報拠点としての図書館、市民参加、公共図書館の機能、制度、諸問題等
7	課題 小レポート	最寄りの公共図書館と市ヶ谷図書館との比較
8	学校図書館及び大学図書館の制度と機能	学校図書館及び大学図書館に関する法律、機能、諸問題等
9	国立国会図書館及び専門図書館の制度と機能	国立国会図書館及び専門図書館に関する法律、機能、諸問題等
10	図書館の歴史（日本）	近代図書館の制度化、日本の公立図書館 100 年
11	外国の図書館	アメリカ、イギリス、北欧、中国等
12	図書館の類縁機関・関係団体	国際機関、図書館協会、図書館関係団体等
	図書館の課題と展望	図書館の挑戦と課題（ケース・スタディ）
13	学期末レポート	まとめ
14	学期末レポートに統合	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前に司書資格課程の授業ポータルサイトからダウンロードし、空欄を埋めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

塩見昇 編、『図書館概論』、日本図書館協会、最新版 (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-1)

【参考書】

高山正也、岸田和明 編集、『図書館概論』樹村房、最新版 (現代図書館情報学シリーズ)

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認アンケートクイズ (30 %)、課題レポート (20 %)、学期末レポート (50 %) によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。毎回授業の初めに小クイズを行うため、遅刻・欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更した。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度が早いという指摘がいくつかあったので、しゃべる内容を精査したい。

【その他の重要事項】

本授業では、50 人収容の情報実習室で行われる。50 人以上の場合は、最初の授業で、(1) 上級生 (2) 図書館資格課程の履修生の優先順位で受講生を確定する。2 回目以降の受講は認めない。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

【Outline and objectives】

As the introduction to Library Information Science, students will learn foundations and basic concepts of libraries from the viewpoint of lifelong learning.

図書館情報学概論Ⅱ

原田 隆史

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識
2. 図書館業務に関する技術 (図書館システム、Web ページを用いた情報発信など)
3. データの管理を中心とした技術 (データベース管理システム、デジタルアーカイブなど)
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】

1. 図書館をとりまく多様な情報環境について考えるための基礎となる知識を身につける
2. 各種の図書館業務に関わる技術手法について理解し、取り扱うことができる
3. 図書館活動を行う際に、どのような情報技術が利用可能であるのかを判断する能力を身につける
4. 図書館情報学を学ぶ際に必要な基本的な情報技術を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館をとりまく多様な情報環境、各種の図書館業務に関わる技術手法について説明します。まず、コンピュータやネットワークの基礎知識について学んだ後、図書館システムやデータベース管理システム、WebAPI などについて理解を深めていきます。講義のほか演習も行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術と図書館	ガイダンスと授業の概要について説明します
2	アナログとデジタル	デジタルとはどういうものなのか説明していきます
3	コンピュータの基礎知識	コンピュータの動作原理などについて解説します
4	ソフトウェアとアルゴリズム	OS やアプリケーションソフトウェアなどについて説明します
5	ネットワークの基礎知識	インターネットや LAN などの仕組みについて解説します
6	ネットワークサービスと電子資料の要素技術	HTML, CSS, XML などといった電子資料を作成する際の要素技術について演習します
7	データベース管理システム	データベース管理システムの仕組みと検索技法について学びます
8	図書館業務システム	図書館業務システムや OPAC の仕組みについて解説します
9	図書館システムをめぐる最新の動き	ディスカバリーインタフェースや次世代システムと呼ばれる仕組みについて解説します
10	図書館における外部サービスの利用	図書館が他の Web サービスを利用してサービス内容を高度化する手法などについて学びます
11	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実例などについて説明します
12	電子文書と電子出版、電子書籍	電子書籍について学ぶとともに、さまざまな電子書籍フォーマットについて理解します
13	図書館の管理・運営とセキュリティ管理	ネットワークサービスにおける管理・運用について説明するとともに、セキュリティ対策などについても述べます
14	ネットワーク社会の中での図書館サービス	図書館情報技術に関するまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館をとりまくコンピュータやネットワークなどの情報技術に関するレポートをいくつか作成していただきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉本重雄編著、図書館情報技術論（現代図書館情報学シリーズ 3）、2014、224p、ISBN: 978-4883672035

【参考書】

特定の参考書は指定しません。必要に応じて資料プリントを Web 上で公開して用いることもあります。

【成績評価の方法と基準】

平常点 0～10%

授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが、授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。

レポート 40%

レポートを課す予定ですが、レポートを行わない可能性もあります。その場合には期末試験 100% とします。

期末試験 50～60%

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【その他の重要事項】

寝ている場合や、授業に関係すること以外のことをするなどをしていることがわかった場合は、退室を求めることがあります。

【Outline and objectives】

1. Basic knowledge of computers, networks and information technology
2. Information technology in libraries.
3. Database management system, digital archive
4. Network Security
5. Information Technology and Society

図書館情報学概論Ⅱ

丹 一信

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】

図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンピュータ、インターネットを使用しながら講義と演習、実習を組み合わせて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータと IT 機器の基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 コンピュータの歴史や種類などについて学びます
2	コンピュータの構成	・ハードウェアの構成、周辺機器の基礎について、実際に触れながら学びます。
3	ネットワークの基礎	・図書館に関わるコンピュータネットワーク
4	インターネットの基礎	・LAN,WAN,WI-FI について ・インターネットの歴史や技術 ・サーチエンジン ・Web、SEO、CSS について学びます。
5	データベース	データベースの概要と RDBMS について
6	図書館システム	現代の図書館業務を支える図書館システムについて、演習しながら学習します。
7	図書館業務と関連する各種の機器類	入退館システム、自動貸出機、バーコード、RFID などの関連する機器類について
8	各種メディアの特徴と保存	図書館で扱う旧来からのアナログメディア、現在のデジタルメディアについて実物を交えながら学習します。
9	デジタルアーカイブの構築と電子資料	・デジタルアーカイブの概要 ・デジタルアーカイブの作成技法 ・電子書籍などを学習します。
10	図書館の広報活動と情報発信の基礎	・図書館のウェブサイト構築の事情 ・ウェブと SNS などによる広報 ・ユニバーサルデザインについて
11	情報技術と利用者サービス	デジタルレファレンスサービス、SDI サービス、E-ラーニングなどの ICT を活用した利用者サービスについて学びます。
12	情報セキュリティとシステムの保守	・情報セキュリティの基礎 ・図書館における情報セキュリティ対策 ・組織及び職員の情報セキュリティ ・サーバ管理と保守
13	学校図書館の現状	学校図書館における ICT 活用の現状について
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 田中 均. 図書館情報技術論. 青弓社, 2019, 177pp.
ISBN 9784787200709

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % レポート課題 20% 期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

実際の機器類に触れる時間を増やし、理解を促します。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で授業を行います。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。

情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業に出席しない場合は、履修を認めません。

授業は出席するだけではなく、演習等への積極的な参加も求めます。

【Outline and objectives】

In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.

In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

図書館情報学概論Ⅱ

菅原 真悟

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、図書館に関わる情報技術について理解を深めることをめざす。授業では主に下記の 5 つの項目を扱う。

1. コンピュータやネットワークに関する基礎知識
2. 図書館業務に関する技術（システム・情報発信・検索エンジン）
3. データ管理に関する技術（電子資料・データベース）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】

図書館に関わる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、電子図書館、検索エンジン、コンピュータセキュリティ等について解説し、必要に応じて演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業支援システム (HULiC) の利用方法に関するガイダンス。
第 2 回	コンピュータの基礎知識 (1)	デジタルとアナログ。2 進数と 10 進数。ビットとバイト。
第 3 回	コンピュータの基礎知識 (2)	コンピュータの歴史。
第 4 回	ウェブ OPAC	ウェブ OPAC を用いた演習。
第 5 回	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実際。
第 6 回	ウェブの歴史	ウェブの誕生から普及に至る歴史。ブラウザの種類とシェアの推移。
第 7 回	AI 時代の図書館	コンピュータ研究の現在と未来。人工知能研究の発展と図書館。
第 8 回	検索エンジン	検索エンジンの種類と仕組み。
第 9 回	電子図書館 (1)	電子資料・出版、電子図書館の現状。
第 10 回	電子図書館 (2)	電子書籍の特性について、タブレット端末を用いた演習。
第 11 回	図書館業務システム (1)	図書館業務システムの仕組み。
第 12 回	図書館業務システム (2)	図書館業務システムを用いた演習。
第 13 回	セキュリティ	コンピュータの管理とセキュリティ対策。
第 14 回	振り返りとまとめ	半期の授業を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。

<http://lc.i.hosei.ac.jp/>

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布する。

【参考書】

講義の中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の演習への積極的な参加（出席状況を含む） 30%

課題（授業中に課題を数回出す予定） 40%

期末レポート 30%

課題・レポートは「HULiC」へアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】

演習時間を増やしたいと考えています。また、授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加を求めます。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

1. Computer and network
2. Technology related to libraries
3. Database
4. Network security
5. Information Technology and Society

図書館情報学概論Ⅱ

丹 一信

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 月 19 日付で修正しています。学習支援システムも熟読してください。
図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。
コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】

図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンピュータ、インターネットを使用しながら講義と自宅での演習で進めます。
初回授業はガイダンスを中心に、4 月 25 日配信予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。
2	コンピュータと IT 機器の基礎 コンピュータの構成	・コンピュータの歴史や種類などについて学びます ・ハードウェアの構成、周辺機器の基礎について、実際に触れながら学びます。
3	ネットワークの基礎	・図書館に関わるコンピュータネットワーク ・LAN,WAN,WI-FI について
4	インターネットの基礎	・インターネットの歴史や技術 ・サーチエンジン ・Web、SEO、CSS について学びます。
5	データベース	データベースの概要と RDBMS について
6	図書館システム	現代の図書館業務を支える図書館システムについて、演習しながら学習します。
7	図書館業務と関連する各種の機器類	入退館システム、自動貸出機、バーコード、RFID などの関連する機器類について
8	各種メディアの特徴と保存	図書館で扱う旧来からのアナログメディア、現在のデジタルメディアについて実物を交えながら学習します。
9	デジタルアーカイブの構築と電子資料	・デジタルアーカイブの概要 ・デジタルアーカイブの作成技法 ・電子書籍などを学習します。
10	図書館の広報活動と情報発信の基礎	・図書館のウェブサイト構築の事情 ・ウェブと SNS などによる広報 ・ユニバーサルデザインについて
11	情報技術と利用者サービス	デジタルレファレンスサービス、SDI サービス、E-ラーニングなどの ICT を活用した利用者サービスについて学びます。
12	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。
13	。	。
14	。	。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 田中 均, 図書館情報技術論, 青弓社, 2019, 177pp.
ISBN 9784787200709

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

Web 小テスト 30% 期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

実際の機器類の動画を見る時間を増やし、理解を促します。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で授業を行います。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。

抽選は行わない予定です。

学生の情報環境が整ってから、双方向の授業を目指します。

【Outline and objectives】

In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.

In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

図書館サービス概論

丹 一信

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 月 19 日付で修正しています。学習支援システムも熟読してください。
図書館サービスの意義や理念を理解し、図書館における実践事例などについて基本的な知識を習得します。図書館サービスは公共図書館だけのものではなく、全ての館種においてなされるものです。現在の図書館サービスの抱える課題について理解し、グループディスカッションを通じて、問題解決への方策を検討します。

【到達目標】

図書館サービスの種類や内容などについて、理解を深めます。
単に講義だけではなく、図書館サービスにおける先駆的な事例をもとに、「自分が担当であったならば、どうする？」というディスカッションを通じて、深い理解への到達を目指します。
将来、図書館のサービス担当者となった時に、司書として主体的な判断ができることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義にはテキストを使用します。
教科書を単元ごとに読み、教員との質疑応答などを重ねていきます。
双方向授業も導入予定ですが、環境整備後になります。
なお初回授業は 25 日配信予定です。履修登録に際してのガイダンスが中心です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 図書館サービスとは	ガイダンス（授業の概要、進め方） 図書館サービスの概要や位置づけ、理念について学びます。
第 2 回	図書館サービスの種類	「司書および司書補の職務内容」にみる図書館サービス、図書館サービスの時代による変遷などを学びます。
第 3 回	図書館サービスとネットワーク	・図書館システム ・全域サービスと図書館システム ・図書館間相互貸借と図書館ネットワーク ・広域利用制度について学びます。
第 4 回	閲覧サービス	・閲覧とはなにか ・閲覧の利用形態とスペース活用 ・閲覧におけるさまざまな問題を考えます。
第 5 回	資料提供に関するサービス	資料提供サービスの概要と種類、貸出サービス（利用者登録、貸出、返却、督促、予約、リクエストなど）
第 6 回	貸出しサービス	貸出サービスの概要と種類、現状と課題について
第 7 回	情報提供サービス	レファレンスサービスや読書相談サービスとカレントアウェアネスサービスなどについて、事例研究を交えながら学びます。またアウトリーチサービスについても学びます。
第 8 回	地域支援サービス	地域支援サービスの概要、歴史、子育て支援やコミュニティへの支援など
第 9 回	図書館サービスと著作権	図書館と著作権との関り、権利制限規定などについて、事例をもとに考えます。
第 10 回	障害者サービス	障害者サービスとはなにか、障害者サービスを積極的に実施している図書館の事例を参考に、学びます。
第 11 回	高齢者サービス	高齢者への図書館サービスの概要と実践例について
第 12 回	集会・文化活動	集会文化活動その歴史と意義について学びます。 講演会・フォーラム・講座・ワークショップ 児童文学講座・読書ボランティア講座・フォーラム、読書会・講演会・展示会・コンサート・映画会・その他の活動について
第 13 回	。	。
第 14 回	。	。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習として、テキストの関連するページをよく読む。
身近な大学図書館や公共図書館を直接利用したり、各図書館のホームページのコンテンツを見て、図書館サービスのよい点や課題について理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『図書館サービス概論』 小黒浩司著 ミネルヴァ書房 2018 本体 2,800 円＋税
ISBN : 9784623083961

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %） 期末課題（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

実際の図書館における事例紹介は授業の理解を促しました。今年度も実例をあげながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン
司書課程授業支援システム「Hulic」を用いて、資料の配布、レポート提出を行います。

【Outline and objectives】

In this lesson, you understand the significance and way of thinking of library services and master basic knowledge. We will also learn about practical examples at the library. Library services are conducted not only in public libraries but in all libraries. Understand the challenges of the current library service and consider ways to solve problems by group discussion.

情報サービス演習

田中 順子

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館において、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスと情報検索サービス能力を習得する。

【到達目標】

図書館における情報サービスの中心であるレファレンスサービスと情報検索サービスにおける実践的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を育成する。
「学習支援システム」で授業が開始されるのは、4月24日（金）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報サービスの設計	情報サービスの設計
2	情報源	レファレンスサービスのための情報源
3	レファレンス・コレクション	レファレンスコレクションの整備
4	レファレンス・プロセス	レファレンスサービスのプロセスについて
5	レファレンス・インタビュー	レファレンスインタビュー実践
6	文字や言語検索	情報検索実践（文字や言語を調べる）
7	文字や言語検索評価	調査結果の評価
8	事柄や事象検索	情報検索実践（事柄や事象を調べる）
9	事柄や事象検索評価	調査結果の評価
10	歴史や日時検索	情報検索実践（歴史や日時に関する情報を調べる）
11	歴史や日時検索評価	調査結果の評価
12	地理や地名検索	情報検索実践（地理に関する情報や地名について調べる）
13	地理や地名検索評価	調査結果の評価
14	人物や団体検索	情報検索実践（人物や団体について調べる）
15	人物や団体検索評価	調査結果の評価
16	新聞記事検索	情報検索実践（新聞記事について調べる）
17	新聞記事検索評価	調査結果の評価
18	物語や小説検索	情報検索実践（物語や小説について調べる）
19	物語や小説検索評価	調査結果の評価
20	統計検索	情報検索実践（統計について調べる）
21	統計検索評価	調査結果の評価
22	論文検索	情報検索実践（論文について調べる）
23	論文検索評価	調査結果の評価
24	言葉に関する文献検索	情報検索実践（海外の文献を調べる）
25	言葉に関する文献検索評価	調査結果の評価
26	レファレンス・ツール検索	情報検索実践（レファレンスツールを調べる）
27	レファレンス・ツール検索評価	調査結果の評価
28	全体のまとめ	要点の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で課題を調査する。（各回 2 時間以上）
他者の課題発表や解説を受けて、さらに 2 時間の復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

授業中に必要な資料を提示

【参考書】

井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】

隔週で、図書館で文献を調査する課題を出す。

各自調査した内容を授業中に発表。

課題の提出と授業内発表によって成績を評価する。

課題提出（70％）

授業内発表（30％）

前期はオンライン授業となり、図書館利用も制限されているので、他の方法による演習を実施し、前期分の評価とする。

後期に関しては、状況が分かり次第連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

課題調査に時間がかかるので、出題分量を調整。

【Outline and objectives】

In this class, students learn about reference work. They will visit a library to research many materials in order to answer user's questions.

情報サービス演習

奥泉 和久

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】

情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、パスファインダーの作成などをおして、情報発信型サービスについても学びます。【初回授業日：4月25日】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本（1）	コンピュータ検索の技術 ① OPAC 検索の基礎と応用
3	情報検索の基本（2）	コンピュータ検索の技術 ② 論理演算
4	情報検索の基本（3）	コンピュータ検索の技術 ③ トランケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方（1）	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方（2）	情報資源の活用、インターネット上の情報資源
8	情報検索基礎演習（1）	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習（2）	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習（3）	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習（4）	医学文献の探し方
12	情報検索基礎演習（5）	レファレンスブック解題・評価
13	情報検索基礎演習（6）	データベース解題・評価
14	情報検索基礎演習（7） / 春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー（1）	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー（2）	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習（1）	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習（2）	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習（3）	「とき・統計」に関する課題と回答
20	情報検索演習（4）	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習（5）	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習（6）	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習（7）	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習（8）	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習（9）	レファレンス事例の作成・評価
26	情報発信型サービスの実際（1）	パスファインダーの解説・作成
27	情報発信型サービスの実際（2）	パスファインダーの改訂・発表
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	プログラムの計画・作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、授業が軌道に乗るまで、講義形式の授業を併行して行いますが、ほとんどが演習です。配布資料を参考に復習をしたり、事前に提示する課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表 20 %、演習 80 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が多いのですが、それによって実践への対応力を身につけることができます。そうしたことが理解できるよう取り組んでいきます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

情報サービス演習

菅原 真悟

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために必要な情報を提供するサービスのことで、現代の図書館の重要なサービスと位置づけられている。この授業では、演習を通して次の 2 点を主に扱う。

1. 情報源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2. 発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】

利用者の質問に回答し、回答と回答プロセスをデータベース化できるようにする。利用者教育プログラムの構築ができるようになる。発信型情報サービスのために必要な ICT の基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム（<https://hoppii.hosei.ac.jp/>）で提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

利用者の質問に回答する方法を学ぶ。情報源として、事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使えるようにする。模擬的な問答を演習する。発信型情報サービスのためのウェブサイト作成、データベース構築を学ぶ。図書館の情報サービスについて調査し発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：情報サービスとは	図書館の情報サービス。利用者質問の種類と対応。利用者に回答する際に注意すべき点。
第 2 回	図書検索 (1)	法政大学図書館 OPAC の使い方。
第 3 回	図書検索 (2)	検索演算子を使った検索演習。
第 4 回	図書検索 (3)	検索式を用いた検索方法。NDL-OPAC。
第 5 回	情報サービス (1)	情報サービスの現状。
第 6 回	情報サービス (2)	レファレンス事例データベース。
第 7 回	図書館に関する最新情報を探す	カレント・アウェアネスの活用方法。
第 8 回	論文検索 (1)	CiNii を使った論文検索（基礎）。
第 9 回	論文検索 (2)	CiNii を使った論文検索（応用）。
第 10 回	横断検索・連想検索	情報を横断的に探す方法。連想検索。
第 11 回	雑誌記事検索	MAGAZINE プラス・大宅壮一文庫などのデータベースの活用。
第 12 回	新聞記事検索	新聞社のデータベースの活用。
第 13 回	さまざまなデータベースを使う (1)	辞書・事典・歴史・地図検索。
第 14 回	さまざまなデータベースを使う (2)	統計・議会情報・法令検索・判例検索などのデータベースの活用。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期の振り返りとまとめ。
第 16 回	ウェブ検索	ウェブで情報を探す。検索エンジンの仕組み。
第 17 回	人物情報検索	人物情報について調べる方法。
第 18 回	特許検索	特許や商標等の知財情報を調べる方法。
第 19 回	発信型情報サービス	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第 20 回	理系論文検索 (1)	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第 21 回	理系論文検索 (2)	医学系論文を探す。
第 22 回	SNS 演習	図書館とソーシャルメディア。
第 23 回	発表会 (1) 発信型情報サービスの現状	図書館の発信型情報サービスについて、個人またはグループで調べた内容を発表。
第 24 回	CMS 演習 (1)	CMS と図書館サイト構築の現状。
第 25 回	CMS 演習 (2)	図書館サイトのコンテンツ分析。
第 26 回	CMS 演習 (3)	CMS(NetCommons) を用いた図書館サイトの構築演習。
第 27 回	CMS 演習 (4)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。
第 28 回	発表会 (2) 新しい発信型情報サービス	新しい発信型情報サービスについて、個人またはグループで発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム（<https://hoppii.hosei.ac.jp/>）のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」（<http://lc.i.hosei.ac.jp/>）も使います。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】

講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内演習への参加 30%

小レポートの提出（小レポートを数回出す予定）40%

グループまたは個人発表 30%

小レポート・発表の資料等はすべて「HULiC」へアップロードして提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

発信型情報サービスについての理解を深めるために、CMS 演習の時間を増やします。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

.Purpose and Goal

1. Learn how to search information sources (databases).

2. Learn how to build website and database for outgoing information service.

図書館情報資源概論

小黒 浩司

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な図書館情報資源について、形態別、主題別の特性の概略を学習する。また図書館情報資源の収集と選択、評価、保存など、図書館における情報資源の管理の実際を学ぶ。加えて、代表的な図書館情報資源である図書や雑誌についての理解を深めるために、その流通事情などについても学ぶ。

【到達目標】

図書館情報資源に関する基礎的な知識を学び、その収集、保存のあり方などについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では主要な図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では図書館情報資源の維持・管理の手法や意義などについて概説する。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講の見込みである。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とする。具体的なオンライン授業の方法などについては、すでに学習支援システムで提示している「試行版」を見ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	図書館情報資源とは何か	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、図書館情報資源について、図書館法など関連法規の上から説明する。
第2回	図書館情報資源の種類	『日本目録規則 1987年版改訂3版』の種類に従って、図書館情報資源の概略を説明する。
第3回	図書・逐次刊行物	図書と逐次刊行物について概説する。
第4回	視聴覚資料・電子資料	視聴覚資料と電子資料について概説する。
第5回	図書館情報資源の選択と収集	図書館における資料選択と収集の形態について概説する。
第6回	蔵書評価	図書館における蔵書評価の種類などについて概説する。
第7回	蔵書管理	図書館における蔵書管理の技法などについて概説する。
第8回	図書館情報資源の更新	図書館における資料の更新の意義などについて概説する。
第9回	資料保存	図書館における資料保存のあり方などについて概説する。
第10回	資源共有	図書館情報資源の収集と保存の協力について概説する。
第11回	資料選択の自由	図書館における資料収集と選択の自由について概説する。
第12回	出版流通 1	日本の出版流通の現状を、メディア別に概説する。
第13回	出版流通 2	日本の出版流通の現状を、流通過程から概説する。→ 第12回に統合する。
第14回	まとめ	試験・まとめ → 各回提出の課題レポートで代替する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、各2時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、活用してほしい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

新訂図書館資料論 小黒浩司編著 東京書籍 2008

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点（80％）に、授業への参加・貢献度（20％）を加えて評価する予定であったが、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となる見込みであることから、成績評価の方法と基準も変更する。およそその方法と基準は、すでに「試行版」に提示しているが、より詳細な方法などは、今後学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、復習に活用してほしい。

【Outline and objectives】

Learn the characteristics of various library information resources.

図書館情報資源概論

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】

- ・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
- ・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
- ・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
- ・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループディスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア（HULiC）を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。
(可能であれば Zoom を使ったオンライン+オンデマンド方式)
この授業は 5 月 2 日 2 限の時間帯（10：40）を初回開始とします。原則として毎週同じ曜日・時間に授業が始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア（HULiC）利用ガイド ンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネット
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）ワーク情報資源等
6	課題	紙の博物館か印刷博物館への実地見学及び小レポート
7	メディアの発展史（印刷革命 (1) 木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史
8	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
9	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴
10	印刷博物館見学 蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
11	図書館資料コレクション構築の理論（選書）	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
12	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
13	学期末レポート	まとめ
14	学期末レポート	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。
「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8）

【参考書】

小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座 8）
志保田務 [ほか] 編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】

（1）毎回の確認クイズ（30 %）、（2）小レポート（20 %）、（3）学期末レポート（50 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更した。

【学生の意見等からの気づき】

ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】

Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

図書館情報資源概論

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】

- ・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の種類と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
- ・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
- ・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
- ・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループディスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア（HULiC）を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。
(可能であれば Zoom を使ったオンライン＋オンデマンド方式)
この授業は 5 月 2 日 2 限の時間帯（10：40）を初回開始とします。原則として毎週同じ曜日・時間に授業が始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア（HULiC）利用ガイド ンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネット
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）ワーク情報資源等
6	課題	紙の博物館か印刷博物館への実地見学及び小レポート
7	メディアの発展史（印刷革命 (1) 木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史
8	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
9	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴
10	印刷博物館見学 蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
11	図書館資料コレクション構築の理論（選書）	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
12	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
13	学期末レポート	まとめ
14	学期末レポート	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。
「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8）

【参考書】

小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座 8）
志保田務 [ほか] 編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】

（1）毎回の確認クイズ（30 %）、（2）小レポート（20 %）、（3）学期末レポート（50 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更した。

【学生の意見等からの気づき】

ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】

Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

図書館情報資源特論

小黒 浩司

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報資源概論では扱わなかった情報資源、主題情報について、学習する。とくに電子資料については、その収集・提供・保存などについて、十分に理解する。

【到達目標】

図書館情報資源概論での学習を基礎に、近年図書館で重視されている各種情報資源の特性などについて発展的に学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では近年公共図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では学術図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	読書の電子化	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、「電子読書」の歴史と現状を概説する。
第 2 回	政府刊行物	図書館における政府刊行物の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 3 回	地域資料	図書館における地域資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 4 回	法情報	図書館における法情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 5 回	統計資料	図書館における統計資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 6 回	健康・医療情報	図書館における健康・医療情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 7 回	生活・労働情報	図書館における生活・労働情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 8 回	音楽資料	図書館における音楽資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 9 回	地図資料	図書館における地図資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 10 回	マイクロ資料	図書館におけるマイクロ資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 11 回	歴史的音源	SP 盤レコードなどの歴史的音源の電子化や配信の状況を概説する。
第 12 回	ウェブアーカイビング	ウェブアーカイビングの意義や現状を概説する。
第 13 回	オンライン資料	オンライン資料の収集と提供の現状を概説する。
第 14 回	まとめ	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、各 2 時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、近年注目されている図書館情報資源に関する理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

新訂図書館資料論 小黒浩司編著 東京書籍 2008

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点（80 %）に、授業への参加・貢献度（20 %）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに理解の参考となる情報源などを掲載するので、復習に活用してほしい。

【Outline and objectives】

Learn about information resources and subject information that you did not learn in the spring semester, focusing on electronic materials.

図書館情報資源特論

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な資料を扱う専門図書館を中心にした現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】

現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。

グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。

また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループに分かれて、さまざまな専門図書館へフィールド調査を行い、評価をする。フィールドワークには、現地視察、職員へのインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション① 専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション② 利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。

授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の現地調査報告書 (30 %)
(2) グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など (30 %)

(3) 個人のレポート (40 %)

全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良 (14 回中 4 回以上の欠席) のものは、「(2) グループ活動・授業への参加（出席）・(30 %)」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】

Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

図書館情報資源特論

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な資料を扱う専門図書館を中心にした現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】

現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。

グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。

また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループに分かれて、さまざまな専門図書館へフィールド調査を行い、評価をする。フィールドワークには、現地視察、職員へのインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション① 専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション② 利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。

授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

（1）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の現地調査報告書（30 %）
（2）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30 %）
（3）個人のレポート（40 %）

全ての提出物は授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「（2）グループ活動・授業への参加（出席）・（30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。

また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】

Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

図書館演習

有吉 末充

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における新しい図書館像の探究とメディア情報リテラシーの理解

【到達目標】

- (1) メディア情報リテラシー教育の基本的な考え方を理解する。
- (2) メディア情報リテラシー・カリキュラムに基づいた実践を行うことができる。
- (3) メディア情報リテラシーの理念・運動にもとづいた公共図書館・学校図書館像を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ユネスコのカリキュラム（日本語版、英語版）をテキストとして用いてディスカッションを行う。また秋期では、一人ひとりがカリキュラムにもとづいたワークショップを企画・実施し、図書館司書としてのワークショップ実践力を身につける
授業の予定は Hoppii の「お知らせ」と資格課程学習支援システム HULiC で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容と方法の解説
第 2 回	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システム HULiC の使い方
第 3 回	メディア情報リテラシーの概念	メディア情報リテラシーの概念の枠組みについて学ぶ
第 4 回	メディア情報リテラシーの恩恵と必要性	メディア情報リテラシーがもたらす恩恵と必要とされる背景について学ぶ
第 5 回	カリキュラムの枠組み	メディア情報リテラシー・カリキュラムの構成を学ぶ
第 6 回	メディアと情報に関する基礎理解	民主主義社会におけるメディアと情報に関する基礎知識を学ぶ
第 7 回	メディアと情報の評価	メディアと情報の評価方法について学ぶ
第 8 回	メディアと情報の創造と活用	メディアと情報の創造や活用方法の基礎を学ぶ
第 9 回	司書・教師の能力実践	実践の核になる司書や教師の能力について学ぶ
第 10 回	メディア情報リテラシーと学習	メディア情報リテラシー教育のための学習理論を学ぶ
第 11 回	メディア情報リテラシーの教材	メディア情報リテラシーについてユネスコが推奨する教材について学ぶ
第 12 回	メディア情報リテラシーと学校図書館	メディア情報リテラシーと学校図書館の役割について学ぶ
第 13 回	メディア情報リテラシーと公共図書館	メディア情報リテラシーと公共図書館の役割について学ぶ
第 14 回	メディア情報リテラシーと社会	メディア情報リテラシーと現代社会の関わり、前期まとめ
第 15 回	秋学期ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス
第 16 回	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習について学ぶ

第 17 回	ニュース、メディア倫理と情報倫理	ニュース、メディア倫理と情報倫理について学ぶ
第 18 回	メディアと情報のリプレゼンテーション	メディアと情報のリプレゼンテーションについて学ぶ
第 19 回	メディアと情報の言語	メディアと情報の言語について学ぶ
第 20 回	情報メディアと広告	広告について学ぶ
第 21 回	新旧のメディア	新旧のメディアについて学ぶ
第 22 回	インターネットの機会と挑戦	インターネットの機会と挑戦について学ぶ
第 23 回	コア・モジュール 7 情報リテラシーと図書館スキル	情報リテラシーと図書館スキルについて学ぶ
第 24 回	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習について学ぶ
第 25 回	メディアの技術	メディアの技術について学ぶ
第 26 回	デジタルメディア教育の方法	デジタルなメディア教育の方法を学び、プランを作る
第 27 回	デジタルメディア教育の実践	デジタルメディア教育を制作体験する
第 28 回	デジタルメディア教育実践の発表	デジタルメディア教育実践の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

司書課程専用授業支援システム（HULiC）を用いた事前学習および宿題などの準備・復習をする。準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』（日本語版・英語版）
右のサイトからダウンロードできる。<http://amilec.org/>

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政大出版局

【成績評価の方法と基準】

レポート 30 %、提出課題 30 %、平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションの仕方や自発的な発表の仕方をしっかりと教えない。

【学生が準備すべき機器他】

授業用コンピュータを使用する。

【その他の重要事項】

少人数制演習のため、受講希望者数が多い場合は抽選を行うことがある。

【Outline and objectives】

To study theory of the media and Information literacy of UNESCO.

To explore the situation of "fake news" and hate speech on social media in the world.

To investigate fact check the news as reference or school librarians.

図書館演習

村上 郷子

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、講義のほか、グループによる研究調査とその発表を行うことによる、と公共図書館を取りまく様々な課題について理解を深める。秋学期は、グループによる公共図書館へのフィールド調査やプレゼンを行うことにより、公立図書館の現状と課題について総合的に理解する。

【到達目標】

春学期は、講義のほか、学生による研究発表を行うことにより、公立図書館の現状と課題について理解することができる。秋学期は、東京 23 区中央図書館を中心に、グループによる対面・参与調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について総合的に理解することができる。また、プレゼンにおける配付資料、プレゼン資料、おしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、指定管理者制度、司書の雇用形態、多様なサービスなどについての調査報告を行い、調査内容に関する報告書を提出する。その際、各項目の課題について指摘し、課題の解決策・提案等も提示すること。人数によっては、海外文献の紹介・読解も行う。秋学期は、グループによる現地調査を行うことにより、図書館の実践についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。春・秋学期、それぞれ授業で学んだことをまとめた学期末レポートを提出する。また、授業の一環として、協働学習およびメディア情報リテラシーに関するアンケート調査を実施する。自身のメディア情報リテラシーのスキル・能力について自己評価をすることによって、どのスキル・能力がどの程度伸びたのかを客観的にみるためのものである。(可能であれば Zoom によるオンライン+オンデマンド方式)春学期のこの授業は 5 月 2 日 1 限の時間帯 (8 : 50) を初回開始とします。原則として毎週同じ曜日・時間に授業が始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンスについて
2	図書館政策の動向	指定管理者制度、司書の問題、知的自由、市民との協働について概観する
3	図書館サービスの策定と課題	図書館サービス、マネジメント、公共図書館の課題について
4	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度
5	公立図書館の現状と課題②	市民との協働
6	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態
7	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲
8	課題 小レポート	指定管理者制度、司書の問題、知的自由、市民との協働の何れかについての小レポート
9	グループ活動①	グループによる研究発表の準備①
10	グループ活動②	グループによる研究発表の準備②
11	学生による研究発表①	2 つのテーマについて、発表する。
12	学生による研究発表②	2 つのテーマについて、発表する。
13	学期末レポート	まとめ
14	学期末レポート統合	まとめ
15	秋学期授業ガイダンス	公立図書館の比較概要
16	東京 23 区中央図書館の動向①	個人・グループの調査対象図書館の選定
17	東京 23 区中央図書館の動向②	調査対象図書館及びグループの確定、アポの取り方
18	調査計画案作成①（グループ）	インタビューの極意、調査テーマの決定
19	調査計画案作成②（グループ）	調査でのインタビュー項目の決定、現地調査の結果提出
20	発表順の抽選	個人によるグループ活動報告書提出①
21	グループ調査進行状況チェック①	配付資料作成の極意
22	グループ調査進行状況チェック②	プレゼン資料作成の極意
23	グループ調査進行状況チェック③	プレゼンの極意、インタビュー調査の結果提出

24	グループ調査進行状況チェック④	グループ活動
25	リハーサル	グループによる配付資料提出、プレゼンのリハーサル
26	グループ・プレゼンテーション①	プレゼンの実践と評価
27	グループ・プレゼンテーション②	プレゼンの実践と評価
28	公共図書館の現状と課題・グループ活動総括	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、研究発表の準備や研究課題について、グループで十分に話し合いの時間を確保すること。秋学期は、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるので、受講生には授業への積極的な参加とリーダーシップが求められる。また、授業時間外のグループ活動が入ってくることを了承しておくこと。授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。グループ活動では、HULiC だけではなく、簡単な確認のためのコミュニケーションツールとして LINE も積極的に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】なし。

【参考書】必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期のみ 個人・グループのプレゼン 20 %、個人の課題レポート 30 %、学期末レポート 50 % 全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・写真・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更した。具体的な方法と基準は、授業開始日以降のメディア環境によって変更もあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【Outline and objectives】

In the spring semester, students will deeply understand the current trends and various issues surrounding public libraries by conducting research investigations in groups. In the fall semester, students are required to visit one central public library in the 23 wards of Tokyo, interview librarians with group members, and make presentations together in order to compare and evaluate public libraries and discover current situations, various issues of the public libraries, and the ways of solving the problems.

図書館演習

丹 一信

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルスの影響により、シラバスを 4 月 19 日付で大幅に修正しています。本シラバスの内容を十二分に理解してください。

当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては、【その他の重要事項】を確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。

1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。

なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回のガイダンス（学習支援システム参照）は必須です。

【到達目標】

春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定 3 級合格レベルとすることです。各種のデータベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。

秋学期は、実用に耐えうるパスファインダーの製作し発表することです。さらに社会情勢が許せば、専門図書館を対象として図書館サービスの調査に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、検索技術者検定 3 級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。

秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。

また社会情勢によりですが、実地見学を行うことにより、図書館の実際についての理解を深めます。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何かを学びます。

なお初回授業日は 4 月 23 日です。ただし初回授業は、ガイダンス資料の配布（動画も含む）が主です。履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。

また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULiC) の利用方法
第 2 回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第 3 回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第 4 回	情報資源と情報サービス機関	データと情報：一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類などについて
第 5 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 6 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 7 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 8 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 9 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 10 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題：ネットワーク社会の法制度
第 11 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題：ネットワーク社会の法制度
第 12 回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ、デジタルアーキビストなどの情報専門職について学びます。
第 13 回	休講	休講
第 14 回	休講	休講
第 15 回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表（web にて）	秋学期授業ガイダンス
第 16 回	パスファインダーの製作	図書館サービスとしてのパスファインダーの作成に取り組みます。

第 17 回	パスファインダーの製作	パスファインダーの概要について
第 18 回	パスファインダーの製作	テーマを検討する
第 19 回	パスファインダーの製作	テーマを決定し、資料収集を行う。
第 20 回	パスファインダーの製作	図書、雑誌の選定
第 21 回	パスファインダーの製作	論文、記事の選定
第 22 回	パスファインダーの製作	Web 上の情報源など
第 23 回	パスファインダーの製作	AV 資料などについて
第 24 回	事例研究	新型コロナウイルスは、図書館にどのような影響を与えたか。

第 25 回 事例研究

第 26 回 専門図書館について 1

第 27 回 専門図書館について 2

第 28 回 専門図書館について 3

企業図書館とは何か、知財部門における調査やサービスの事例を学習します。専門図書館とは何かを学び、実際に調査対象とする専門図書館を選定します。調査対象の専門図書館に対する調査項目や調査票の作成。図書館調査の概要を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館への見学や調査が必須となります。

夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野ブレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。

また第 22 回図書館総合展、2020 年 11 月 4 日（水）、5 日（木）、6 日（金）の 3 日間開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。

（上記はあくまで 4 月下旬時点での予定です。社会情勢の変化により中止もあります）

また検索技術者検定 3 級受験を強く推奨します。＜＝こちらは授業内容と強く関わります。https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀, 検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト., 樹村房, 2018, ix, 144pp.

今春、改訂版が刊行予定です。担当教員の指示を必ず確認の上、購入してください。

【参考書】

(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会, 図書館年鑑, 日本図書館協会, 2018, 冊 p.

(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】

提出物（60%）および平常点（40%） 演習のため出席は極めて重要。

【学生の意見等からの気づき】

少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季学期中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PC

Hulic

https://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

本科目は履修者許可者の抽選、選抜を行います。学習支援システムに仮登録した学生の中から、再度、履修の意思確認を行い、抽選の上、履修許可者を確定します。仮登録しなかった場合、履修を許可しません。仮に不許可にも関わらず履修登録しても、単位認定をいたしません。

「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー 1 級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】

The outline of the lesson is as follows.

1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

図書館演習

丹 一信

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルスの影響により、シラバスを 4 月 19 日付で大幅に修正しています。本シラバスの内容を十二分に理解してください。

当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては、【その他の重要事項】を確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。

1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。

なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回のガイダンス（学習支援システム参照）は必須です。

【到達目標】

春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定 3 級合格レベルとすることです。各種のデータベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。

秋学期は、実用に耐えうるパスファインダーの製作し発表することです。さらに社会情勢が許せば、専門図書館を対象として図書館サービスの調査に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、検索技術者検定 3 級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。

秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。

また社会情勢によりますが、実地見学を行うことにより、図書館の実際についての理解を深めます。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何かを学びます。

なお初回授業日は 4 月 23 日です。ただし初回授業は、ガイダンス資料の配布（動画も含む）が主です。履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。

また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULiC) の利用方法
第 2 回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第 3 回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第 4 回	情報資源と情報サービス機関	データと情報：一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類などについて
第 5 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 6 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 7 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 8 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 9 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 10 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題：ネットワーク社会の法制度
第 11 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題：ネットワーク社会の法制度
第 12 回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ、デジタルアーキビストなどの情報専門職について学びます。
第 13 回	休講	休講
第 14 回	休講	休講
第 15 回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表（web にて）	秋学期授業ガイダンス
第 16 回	パスファインダーの製作	図書館サービスとしてのパスファインダーの作成に取り組みます。

第 17 回 パスファインダーの製作
第 18 回 パスファインダーの製作
第 19 回 パスファインダーの製作
第 20 回 パスファインダーの製作
第 21 回 パスファインダーの製作
第 22 回 パスファインダーの製作
第 23 回 パスファインダーの製作
第 24 回 事例研究

第 25 回 事例研究

第 26 回 専門図書館について 1

第 27 回 専門図書館について 2

第 28 回 専門図書館について 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館への見学や調査が必須となります。

夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野ブレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。

また第 22 回図書館総合展、2020 年 11 月 4 日（水）、5 日（木）、6 日（金）の 3 日間開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。

（上記はあくまで 4 月下旬時点での予定です。社会情勢の変化により中止もあります）

また検索技術者検定 3 級受験を強く推奨します。＜＝こちらは授業内容と強く関わります。https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀, 検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト., 樹村房, 2018, ix, 144pp.

今春、改訂版が刊行予定です。担当教員の指示を必ず確認の上、購入してください。

【参考書】

(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会, 図書館年鑑., 日本図書館協会, 2018, 冊 p.

(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】

提出物（60％）および平常点（40％） 演習のため出席は極めて重要。

【学生の意見等からの気づき】

少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季学期中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PC

Hulic

https://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

本科目は履修者許可者の抽選、選抜を行います。学習支援システムに仮登録した学生の中から、再度、履修の意思確認を行い、抽選の上、履修許可者を確定します。仮登録しなかった場合、履修を許可しません。仮に不許可にも関わらず履修登録しても、単位認定をいたしません。

「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー 1 級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】

The outline of the lesson is as follows.

1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

読書と豊かな人間性

有吉 末充

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館における読書教育についての今日の課題と教育行政の動きを知る。読書教育について、そのねらい、発達段階に応じた方法について学び、学校図書館ができることを考える。学びの基礎であり、読書の世界の入り口である本そのものを知る。

【到達目標】

まずは読書教育のものをどう考えるかにとりくみ、学校図書館が行うべき活動と意義を自分なりにまとめる。学校図書館が行うさまざまな読書への働きかけ、方法を知る。本を紹介するスキルを身につけ、同時に具体的な本についての知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

子どもの読書、読書教育への関心が高まっているが現時点では読書教育の理念、方法論は確立しているとはいえない。ねらいとは何か、発達段階をどう考えるか、方法は、など、既存のものを比較検討し、そのあり方を考える。同時に学校図書館における多様な読書材、さまざまな本を知る。毎時間、本紹介の発表の時間を設ける。さらに本の魅力を伝えるための工夫、心構え、方法を学ぶ。読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリングなどを学ぶ。1 回はゲスト講師による実演を味わう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	読書と豊かな人間性とは最近の動き	読書教育をどうとらえるか
第 2 回	子どもの読書をめぐる状況	子どもの読書に関する法律など 読書と本についての発表「本を知ろう」（2 回以降毎回行う）
第 3 回	文部科学省の施策	OECD 学習到達度調査 文部科学省 読解力向上プログラム
第 4 回	読書教育を考える 1 日	朝の読書 読書感想文コンクール
第 5 回	読書教育を考える 2 ねらい	文献比較、日米比較
第 6 回	読書教育を考える 3 発達段階	発達段階の例 どう考えるか？
第 7 回	読書教育を考える 4 方法	日米の違い フィンランド・メソッド
第 8 回	ゲスト講師による実演	読み聞かせ、ストーリーテリング、 ブックトーク実演
第 9 回	本の面白さを伝えるために 1	読み聞かせ
第 10 回	本の面白さを伝えるために 2	ブックトーク
第 11 回	本の面白さを伝えるために 3	ブックトークプランの作り方
第 12 回	本の面白さを伝えるために 4	フランスのアニメーション
第 13 回	子どもに読書をすすめること	さまざまなメディアと読書
第 14 回	子どもの読書に関わる政策、動きなど	文部科学省の動向など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本を知ろう」の発表、及び 3 回目の課題「ブックトークプランの作成」では、児童向けの本（絵本や児童文学を含める）を扱う。公共図書館の子どもセッションに行くことをすすめる。授業に必要な研究、調査を含めて、授業の予習、復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

『読み聞かせ この素晴らしい世界』 ジム・トレリース 亀井よし子訳 高文研 1987
『鍛えよう！ 読むチカラ 学校図書館で育てる 25 の方法』 桑田てるみ監修
「読むチカラ」プロジェクト 明治書院 2012
『読書と豊かな人間性 新版』 朝比奈代作 米谷茂則 放送大学教育振興会 2015

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度、本紹介の発表「本を知ろう」、レポート課題など。平常点（授業時の発言など授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40 %

課題（「本を知ろう」の発表、提出レポート①子どものときに会った本、②読書教育を考える、③ブックトークプランの作成、の 3 回）：60 %

【学生の意見等からの気づき】

授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使用する。できるだけ登録を行うこと。

【その他の重要事項】

本科目は司書教諭資格取得のための科目である。
しかし、読書に関心があれば、司書教諭資格を必要としない学生も受講できる。

【Outline and objectives】

Reading is the basic of learning. Students learn the knowledge of reading education and various books. They also learn the skill of introducing books and sharing the pleasure of reading.

情報メディアの活用

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館における情報メディア全般の特性を理解し、基本的なメディア情報リテラシーを習得する。

【到達目標】

司書教諭に必要なメディア情報メディアの基本的な知識、技能を習得することができる。例えば、学校図書館の広報誌、簡単な CM・動画広報、簡単な図表、パワポなど、限られた汎用ソフトを使って、制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学校図書館の利用と検索、情報機器の活用法、アプリケーションの活用法、プレゼンテーションの方法など、各項目の課題演習をこなすことによって、基本的なメディア情報リテラシーの取得を目指す。授業後半では、グループによる広報紙および CM・動画制作を行い、グループによるプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報メディアの特性と活用	情報実習室及び授業用グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス、「司書教諭」の規定、学校図書館とメディア
2	メディアの歴史（課題①、エクセル）	図書館資料とは何か、古代から現代までの主なメディアと歴史
3	レポート・論文の書き方（課題②、引用文献）	レポート・論文作成法 - 10 のステップ
4	検索の基礎理論（課題③、検索）	データベース、検索システム、論理演算、他
5	法政大学図書館	データベース検索の実際（有料データベース、洋書、他）
6	広報誌：見出しとレイアウト、ホームページの仕組みと作り方（課題④、PR 用ホームページ）（グループを決める）	読ませるための基礎理論、見出しとレイアウトの基本、ホームページの目的と機能、レイアウト
7	プレゼンテーションの基礎（課題⑤、パワーポイント）	プレゼンテーションの目的と方法
8	情報倫理・著作権（グループ活動によるプレインストロミング）	情報リテラシーと著作権、グループ活動
9	学校図書館からの情報発信①	グループによる広報誌制作（その1）、各班の広報誌タイトルと役割分担の決定
10	学校図書館からの情報発信②	グループによる広報誌制作（その2）、広報誌の構成、レイアウト、コンテンツの作成
11	学校図書館からの情報発信③	グループによる広報誌制作（その3）
12	学校図書館からの情報発信④	広報誌の校正
13	グループ・プレゼンテーション①	プレゼン・リハーサル
14	グループ・プレゼンテーション②	グループ・プレゼンテーション
14	情報メディアの活用・グループ活動総括	振り返り・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業以外にも演習課題の提出やグループによる広報誌制作を行う。課題をしっかりこなし、授業にも積極的に参加することが求められる。また、授業後半のグループ学習においては、班によっては授業外での活動も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【参考書】

- 井上真琴著『図書館に訊け!』、筑摩書房、2004（ちくま新書）
- 山本 順一・二村健監修、緑川信之編集『学校図書館メディアの構成』、最新版、学文社
- 五十嵐絹子著『学校図書館ビフォー・アフター物語—図書館活用教育の全国展開を願って』、国土社、2009

【成績評価の方法と基準】

課題（40 %）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）、グループ・プロジェクト及びプレゼンテーション（30 %）、個人のプロジェクト作品（30 %）によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

課題のワードについてはほとんどの学生がある程度のスキル（画像の挿入、罫線・図表の作成など）を身につけているため、今回は割愛した。

【その他の重要事項】

授業では、グループによるプロジェクトの協働制作やプレゼンテーションを行うため、受講生には授業への積極的な参加が求められる。

【Outline and objectives】

Students will understand the characteristics of media and information resources in school libraries and acquire basic skills and knowledge of media and information literacy that are necessary for teacher librarians. Examples include creating school library PR, newsletters and videos.

情報メディアの活用

坂本 旬

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生は、情報メディア社会を生きる市民に必要なメディア情報リテラシーを育成するための学校図書館と情報メディア活用の基礎を学び、実践力を養う。

【到達目標】

- (1) 今日の情報メディア社会を生きる人間のあり方を考察することができる。
- (2) 学校図書館における情報メディア活用の実践力を身に付ける。
- (3) 情報メディア社会に生きる市民として求められるメディア情報倫理を理解する。
- (4) 情報メディアを活用した基礎的な映像制作スキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半はメディア情報リテラシーの基本的な考え方を学び、後半は実際の情報メディアを用いた創作活動を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や学習方法、司書課程専用授業支援システムの使い方などを解説する
2	高度情報社会と人間	グローバル化するメディア社会の特徴を考える
3	情報メディアの発展と社会の変化	情報メディアの発展と社会の変化の関係を考える
4	情報メディアの特性と選択	情報・メディアの特性と活用のためのメディア情報リテラシーの概念を学ぶ
5	情報倫理と市民社会	市民社会における著作権や肖像権、表現・情報の自由などの情報倫理を学ぶ
6	情報メディアの種類とその特性	さまざまな情報メディアの種類と特性を学ぶ
7	情報リテラシーと情報検索・探究学習	情報リテラシーと情報検索・探究学習の関係を具体例を通して学ぶ
8	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館が情報リテラシー教育の中心に位置することを学ぶ
9	視聴覚メディアとメディア・リテラシー	視聴覚メディアとメディア・リテラシーの関係を学ぶ
10	視聴覚メディアの活用と学習	視聴覚メディアの仕組みと学習についての基本的な理論を学ぶ
11	学校図書館とコンピュータ・情報発信	デジタル・ストーリーテリングを学校図書館で活用する方法を学ぶ
12	映像制作の実践	映像制作の過程を実践的に学ぶ
13	映像評価の実践	映像を評価する方法を実践的に学ぶ
14	映像作品の発表会	映像作品を発表し、評価をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

司書課程用授業支援システム（HULiC）を用いて、事前に準備された予習や宿題等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディア情報教育学』（法政大学出版局）2014 年

【参考書】

ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』
右のサイトからダウンロードできます。<http://amilec.org/>

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50%、提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

積極的に授業にワークショップを取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

授業用コンピュータ（資格課程準備室備品を使用する）

【その他の重要事項】

授業の中で映像制作を行うため、欠席はなるべくしないこと。

【Outline and objectives】

To study basic theories of digital media and information literacy for school librarians

To produce digital storytelling video about books and reading life

社会教育演習

笹川 孝一

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自分史」を書き、自分自身に関する知識を創りだす。そして、自分史学習が人間の司令塔としての「コアコンピテンス」＝人格機能を豊かにする方法であることについて考察する。

自分自身を軸に世界をとらえ直す方法と、世界を軸に自分自身をとらえ直す方法と、この両者を重ね合わせることで、他の物事や人々との関係性を含む、「自分」を知ることができる。

そして、自分を知らなければ、いくら努力しても、自己形成やキャリアデザインはうまくいかない。

自分自身に関する知識は、どんなにお金があっても手に入らない。それは、自分自身の手で作り出す必要がある。

そこで、この授業では、「自分を軸に社会を捉え直し、自分自身に関する知識を豊かにする方法としての自分史」を実際に駆使して、自分史を書く。そして、あらためて自分史学習に関しての認識を深め、他の人々の自分史学習支援やカウンセリング、コンサルテーションの能力を高める。

【到達目標】

- 1) 1 年間かけて、演習（ゼミ）参加者が、それぞれの「自分史（自己形成史・生活史）」を書く。
- 2) 自分史を書くことを通して、自分自身について振りかえる。
- 3) 自分が育った家庭、地域、時代、そこで出会った人々、影響を受けた文化・生活スタイルとの関係で、自分をとらえる。
- 4) 演習参加者（ゼミ生）によるグループ作業によって、自分史作成における相互支援を学ぶ。
- 5) 「自分史・生活史・自己形成史」と「就職のための自己分析」との移動などを検討し、「自己・社会把握の方法」についての認識を深める。
- 6) 中間まとめの集中授業、パーティー実習、レポート集作成、グループワーク実施等によって、地域や職場、N G O 等におけるファシリテーターとしての能力を高める。
- 7) レポート集と 1 年間のまとめについての映像 D V D を作成し、編集能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 1) この授業のテーマにかかわって、授業の節目節目において、教員が必要な講義を行い、学生とディスカッションして、全体の日程、進行方法などを決める。
- 2) 学生は、グループワーク、調査活動等によって、実際に自分史を書きながら、必要な文献の検討を行う。
- 3) 夏の集中授業で中間まとめを行い、秋学期の作業に弾みをつける。
- 4) レポート集と D V D 作成を行って、自分たちの足跡を作品化する。
- 5) 演習（ゼミ）運営のために係り分担を行い、みんなで協力し合い、カバーしあって、授業運営の主人公になる。
- 6) 卒業生組織である「笹川ゼミ同窓会」の「ライフヒストリーを語る」研究会等に参加するとともに、この授業のイベントに卒業生を招き、視野を広げ交流を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要と進め方について	授業の内容と進め方を説明し、受講希望者と協議する。
2	講義と事例研究①「私の知識は私が創る」～「自分史」を書く意味について～	現代社会で生きる上で、自分史を書くことが、私自身を認識するうえで不可欠であることを学ぶ。社会教育演習で「自分史」を書いた先輩たちの話を聞く。
3	グループワークと発表①	講義①の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
4	講義②「自分史の書き方」～年代によって書き方が異なる「自分史」～	自分史は、年代等によって書き方が異なることを学ぶ。
5	グループワーク②	講義②の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
6	講義③「自分史」の認識・心理過程	自分史を書くことによって、どのような認識力・意志・実行力がつくのか、「自己肯定感」「コンピテンス」に焦点を当てて学ぶ。
7	グループワーク③	講義③の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。

8	講義④「自分史」と「就職のための自己分析」との比較検討	「自分史」と「就職のための自己分析」との共通点と相違点について検討し、「自己分析」の発展方向を考える。
9	グループワーク④	講義④の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
10	講義⑤自分史の歴史とその背景、および諸外国の動向	日本における「自分史」の歴史とその背景を、俳句・川柳、短歌・狂歌、生活記録などとの関係を含む庶民の自己表現として、また「自伝」との関係において、考える。また、近年アメリカ・カナダなどで取り組まれ始めている”Guided Autobiography”との比較検討も行う。
11	グループワーク⑤	講義⑤の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
12	中間まとめ準備とパーティ実習準備	以上の作業を通じて考えたこと、感じたことについて議論し、中間まとめに向けた「レポート集①」準備をし、作成する。また、社会教育主事・地域学習支援士等に必須なイベント企画と実行、ファシリテーションの技術を習得するためにパーティー実習の企画を練る。
13	自分史を語る①	「5つの質問」への答えを基礎に、自分史を語る。グループを作り、グループ内で行う。
14	自分史を語る②	自分史を語る作業を続ける。同時に、そこから、夏休みにインタビュー等によって調べる課題と計画を明らかにする。
15	春学期のまとめと夏の課題、秋学期授業計画	また、夏の集中授業の準備をする。夏の課題の振り返りと、秋学期の授業計画について、検討する。
16	夏の課題の成果報告①	各自の夏の調査結果を持ち寄り発表する。
17	夏の課題の成果報告②	夏の調査結果の発表を継続する。
18	夏の課題成果についての討議①	発表を踏まえて討論する。
19	夏の課題成果についての討議②	上記の作業の続き
20	「自分史」を書き進む①	「自分史」を具体的に書き進め、進捗状況を報告し合う。
21	「自分史」を書き進める② ～年表の作成～	上記の作業を継続する。特に、年表の作成状況を報告し合う。
22	「自分史」を書き進める③ ～インタビューの補強～	上記の作業を継続する。とくに、インタビューの補強状況について報告し合う。
23	「自分史」を書き加え発表し合う①～私の自立と親の期待	この時期に、自分史の具体的な書き方について、教員とゼミ生との個別面談を行い、意見交換と添削等を行う。
24	「自分史」を書き加え発表し合う②（私の自立と「親離れ・子離れ」）	書き加えた自分史をそれぞれ検討し、親の期待とその効果・逆効果について議論する。
25	「自分史」を書き加え発表し合う③（私の自立と大学での勉学と進路選択）	上記の作業を進める。とくに親離れ、子離れについて検討する。また、レポート集②パーティー実習②の進捗状況を確認する。
26	「自分史」を書き加え発表し合う④（友情と恋愛、結婚イメージ）	上記の作業を進める。とくに、大学での勉学と進路選択について検討する。また、レポート集②パーティー実習②について、振り返りを行う。
27	「自分史」の発表およびレポート集作成	上記の作業の続き。特に、友情と恋愛、結婚イメージについて検討する。この時期に、2回目の個人面談と添削を行う。
28	レポート集についての合評	あらためて、全体会でそれぞれの自分史のアウトライン、発見したこと、課題について発表する。並行してレポート集を作る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート集作成。夏季集中授業 1 回、パーティー実習と修了式（2 月第 1 週の火曜日を予定）等。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

笹川「コア・コンピテンスを豊かにする『自分史』学習について」（『資格課程年報』第 1 号、法政大学資格課程、2012 年 3 月）

笹川「自分史・生活史・自己形成史と『就職のための自己分析』についての研究ノート」（同上第 2 号、2013 年 3 月）

【参考書】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

ゼミにおける積極的参加（40 %）

ゼミ報告の十分な準備（10 %）

集中授業、レポート集作成、パーティー実習等の準備活動への貢献（20 %）

レポートの内容と形式（30 %）

以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業はハードだが、きちんと参加し、貢献している場合には、学生の満足度が高いことが確認された。

【学生が準備すべき機器他】

ワード、パワーポイント、エクセル／プロジェクター操作／デジタルカメラ、ビデオカメラ／DVD 編集ソフト／ゼミ HP の活用

【その他の重要事項】

☆「自分史」を書きたい人、就職活動における「自己分析」に関心のある人、
「『自己肯定感が薄い』ので何とかしたい」と思っている人には、役に立つはず。
☆社会教育主事の資格認定授業でもあるので、実際に書くこと、調べること、まとめること、意見交換すること、協力し合うこと、イベントを企画・実施・振り返ること、成果物=作品を作り上げること、を重視する。
☆学問共同体としてのゼミ活動と先輩たちとの交流のさらなる充実を心がけたい。学生側の積極的な参加を望む。

【Outline and objectives】

Making Autobiography and Thinking on Meaning of Autobiography Learning

生涯学習支援論Ⅰ

笹川 孝一

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における「エゴイズム」と表現・自己表現

～自己肯定感を育む生涯学習社会を考える～

ego とはラテン語で「私」という意味で、「エゴイズム」とは私を軸にして他の人々との関係を作ること、自分だけでなく、全ての人の「私」を認めながら、「私たち」「社会」を作り出していくことである。

この「エゴイズム」の実現のためには、自己対話と他の人々との意思疎通のために、様々な自己表現を行い、他の人々と具体的な相互理解と協力を行うこと、そして、そのための技を磨くことが大切である。

現代人には「私を軸に社会を捉えること」と「社会を軸に私を捉えること」との両方が必要だが、「エゴイズム」を肯定できない雰囲気は日本や東アジア社会にあるために、自己肯定ができず、自分を社会的に展開することが苦手な人が多い。

この授業では、「エゴイズム」についての自分たちのイメージの共有を出発点としながら、歴史的・地理的なことから、現代社会のさまざまなできごとについての理解を深めつつ、私を肯定して社会的に展開するための人々の歩みと、そのための自己表現のスキル、生涯学習社会の在り方について学ぶ。

これらを通して、他者と共に生きる主体としての豊かな自己形成を図る。

【到達目標】

現代社会の諸課題（倫理、社会、文化、政策など）を取り上げて、現代社会における、人間としての在り方生き方について学ぶ。

1) 私たちの表現活動の基礎に、私＝ego・私たちの生活上の欲望、欲求、要求などの「自己主張」があることを学ぶ。

2) 「エゴイズムは悪いこと」として自己主張が抑圧されがちであることと、それを変える努力について、日本や東アジアの実際に即して、歴史的背景と現状を学ぶ。

3) エゴイズムを基礎としながら私・私たちを社会的に展開するための「表現」と「学力」について、自分自身に即しながら考える。また、西欧や日本の先人から、倫理的な諸価値や音楽、絵画、小説、舞踊などのアートの変革について学ぶ。

4) 以上を踏まえて、リテラシーの世界の広がりとその技法について、学校改革をふくめた生涯学習社会について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

必要な事項を教員が講義し、学生が討論し発表し、教員と意見交換する方法で授業を進める。

必要に応じて、小レポートを書く。

受講生が多い場合には、講義形式になることがある。

それについては、受講生と相談して決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の概要、進め方、ルール等について説明し、合意形成を図る。
2	講義①「エゴイズム」は悪か？	「私」を意味するラテン語である「エゴ」を踏まえたエゴイズムは、「自分の体をくぐらせて物事を認識する」上での基本であるが、日本や「東洋」ではそれが「悪いこと」「自分勝手」として抑圧されてきた。そのことによる、自己肯定感の弱さ、について検討する。
3	グループワークと発表討論①	一人ひとりの体験を踏まえて議論し、論点を整理し、意見交換を行う。
4	グループワークと発表討論②	グループの発表を行い、一人一人の感想をまとめる。
5	講義②エゴイズムを確立するための人々の努力	近代ヨーロッパや日本で、エゴイズムを確立するために努力したデカルト、福澤諭吉、夏目漱石、ビカソなどの人々から学ぶ。
6	グループワークと発表討論③	講義②を基に、一人ひとりが意見を出し合い、議論する。
7	グループワークと発表討論④	グループごとに発表し、意見交換する。
8	講義③エゴイズムを抑圧してきた「分を守る」社会の伝統	江戸時代における「分を守る」社会政策、教育政策について、『ヨーロッパ文化と日本文化』『女大学』などに即して解説をする。
9	グループワークと発表討論⑤	講義③を基に、一人ひとりが意見を出し合い、議論する。
10	グループワークと発表討論⑥	グループごとに発表し、意見交換する。

11	講義④私と人々、社会をつなぐ表現様式と、現代の学力、生涯学習社会。	ニューミュージック、J-Pop や自分史学習などに即して、自分と人々、社会をつなぐ表現方法や学力、リテラシー、コンピテンシーについて考える。
12	グループワークと発表討論⑦	講義に基づくグループワークを行う。一人ひとりの体験を踏まえて議論し、論点を整理し、意見交換を行う。
13	グループワークと発表討論⑧	グループ発表と一人一人の感想のまとめ
14	振り返りとまとめ	テストと成績評価について説明するとともに、授業の振り返りと、一人一人の認識変化について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自分自身の日常生活に即して、身体、言語、アート、モノづくりなど多様な表現方法について振り返りの習慣を身に着けるよう、心がけること。

・授業内容を把握するために、テキストや授業中に配布される資料を読み込むこと。

・受講生が多い場合には、講義形式にならざるを得ないので、その場合には、グループワークに替えて、小レポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
とくに、第Ⅱ部「リテラシー、コンピテンシー、生涯学習」

【参考書】

授業中に適宜紹介する。また、必要な資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（主体的な参加の姿勢など） 20 %
- ・随時出されるレポートの提出とその内容 20 %
- ・定期試験の結果 60 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

市場経済社会に生きる人はすべて、「私」を意識し「エゴイズム」を基盤に置きながら生きている。それにもかかわらず、日本や「東洋」の歴史の特質によって、「エゴイズム」＝悪、と思いつまされている傾向が強くある。その結果、自分の個人的な表現の世界と、普遍性の世界が分裂して、自己肯定感が弱くなっている傾向がある。このことを基礎にして、現代社会における、生涯学習、キャリアデザイン、社会的教育を再構築し、その中で、表現と学問運用能力としての「学力」についてとらえ直すよう、内容を精査した。

2016 年度の授業は、「常識」を覆す内容が多く「目から鱗」だったと、評価が高かった。今年度も、緊張感のある、知的刺激の多い授業を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

マイクロソフト・オフィス

【その他の重要事項】

この授業は、笹川が担当する「発達・教育キャリア入門 D（生涯学習入門Ⅱ）」における該当部分の中級編なので、発達・教育キャリア入門 D（生涯学習入門Ⅱ）を受講してあることが望ましい。
また、関連授業として「社会教育演習」（火曜 4 限）が設定してある。

【Outline and objectives】

Meaning of "ego-ism" and self-expression in the contemporary society

生涯学習支援論 I

朝岡 幸彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・生涯学習における学習支援は、公的社会教育に代表される専門職資格制度と社会教育施設の枠組みに依拠するとともに、社会に広く存在する学習機会においても重要な役割を果たしている。この授業では、社会教育関連法等に規定された代表的な社会教育専門職制度と社会教育施設の役割を学ぶとともに、地域づくりや社会問題解決の枠組みの中で実践されている学習支援のあり方について検討する。

主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】

社会教育・生涯学習における学習支援の本質と意義を理解し、社会教育・生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。

*今年度は COVID-19 対応により 4/27 から online を使用して開講する。基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	学習支援とは何か	社会教育・生涯学習における学習支援は、学校等の定型教育とどのような違いがあるのかについて考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令における学習支援の仕組み	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令における専門職制度や社会教育施設の役割について理解する。
第 3 回	社会教育主事制度	社会教育法に規定された社会教育主事資格について学ぶ。
第 4 回	公民館と公民館主事	公民館の特徴と公民館主事等の専門職の役割について学ぶ。
第 5 回	図書館と司書	図書館の特徴と専門職としての司書の役割について学ぶ。
第 6 回	博物館と学芸員	博物館の特徴と専門職としての学芸員の役割について学ぶ。
第 7 回	社会教育施設関連ボランティア	社会教育施設等におけるボランティアの現状とあり方について学ぶ。
第 8 回	社会教育施設における指定管理者制度	指定管理者制度のもとでの社会教育施設の現状と課題について学ぶ。
第 9 回	コミュニティセンター	生涯学習センターや生涯学習・コミュニティ施設のネットワーク化の現状を理解するとともに、施設の運営や職員をめぐる状況について学ぶ。
第 10 回	スポーツ・文化施設	スポーツ施設に関わる法と政策を踏まえてスポーツ施設の現状と多様化について理解するとともに、文化施設の現状と課題を指定管理者制度との関連を中心に学ぶ。
第 11 回	職業能力開発・職業訓練	職業能力開発・職業訓練関連の国際規定及び法令について理解するとともに、その現状と課題を規制緩和と政策との関連で考える。
第 12 回	施設の管理運営と住民参加	社会教育・生涯学習施設の管理運営と住民参加の可能性について、指定管理者制度、自治体における施設再編、事業評価などの視点から考える。
第 13 回	COVID-19 対応	COVID-19 対応
第 14 回	COVID-19 対応	COVID-19 対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018 年

【参考書】

社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所 2017 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（ワークシートを含む）100 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

*今年度は COVID-19 対応により 4/27 から online を使用して開講する。基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline and objectives】

Learning support in social education/lifelong education plays significant role in the context of providing various learning opportunities. It relies on the system of professional qualification ran by the public social education and relies on the framework of social education institution. In this class, participants will learn the representative system of professional qualification prescribed to social education-related laws and will learn the role of social education institution. Participants will also discuss the way of learning support in the context of community development and solving social problems.

生涯学習支援論Ⅱ

笹川 孝一

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習社会とグローバリゼーション

～アジア・太平洋学習権共同体を考える～

グローバリゼーションの中で生きる私たちは、一人ひとりの私＝ego であるが、私は人々とのつながり、社会の中で展開して、初めてリアルな私になることができる。

「21 世紀はアジア・太平洋の時代」と言われているが、この地域では、生活文化の広い交流基盤と近隣諸国間での摩擦の歴史があり、プラスを生かしマイナスをプラスにしていくためには、人と人が触れ合う交流・理解・協力とその他の生涯学習の役割が大きい。

この授業では、世界や日本の歴史的・地理的なことから、現代社会の諸事象について扱う。ユネスコが提唱する「学習権」を軸として、①それぞれの国の内部、②いわゆる先進国と発展途上国、③先進国同士、発展途上国同士、④ユネスコなどの国際機関の 4 分野における、交流と協力の現状と今後について学ぶ。

そして、社会的なことからについて、自分の生活体験を踏まえながら、客観的で公正な見方や考え方や人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める。

以上をふまえて、東アジア・太平洋人として生きていく人々に必要な教養と、それを育む生涯学習社会について考える。

【到達目標】

日本やアジア、世界の形成について、歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深める。

- 1) グローバリゼーションの中でのアジア・太平洋の時代について学ぶ。
- 2) 生涯学習社会の生活基盤である、アジア・太平洋地域における生活文化の相互交流についての視野を養う。
- 3) この地域における摩擦と和解の歴史を知る。
- 4) 「学習権」についての理解を深め、この地域での生涯学習とその交流の現状と課題を知る。
- 5) 「アジア・太平洋人」として生きていく意欲と誇り、能力について理解し、「東アジア＝太平洋学習権共同体」を展望する。
- 6) 諸地域の地域的特色を歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察し、発表と討議を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 1) 教員が必要な講義を行う。
- 2) その際、必要な文献を配布するとともに、映像や新聞記事などを活用し、できるだけわかりやすく授業を進める。
- 3) グループワークを可能な限り取り入れるが、受講生の人数が多い場合には、講義が中心になることもある。
- 4) 諸地域の地域的特色を歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察し、発表と討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の進め方と授業のルールを説明し、協議の上、確認する
2	講義①グローバリゼーションと「アジア・太平洋の時代」と生涯学習社会	現在進行中の「グローバリゼーション」について、北米、西欧、アジアを視野に入れながら解説する。そして、アジアが進んでいた農業革命の時代から、アジアがヨーロッパに從属した工業革命の時代を経て登場した「アジア・太平洋の時代」とそこにおける生涯学習の現状について、GNP、QOL、GNH を視野に入れて理解する。
3	グループワーク①	一人ひとりの経験を踏まえて、「グローバリゼーション」「国際化」「アジア・太平洋地域」認識を出し合い、整理する。
4	グループワークの発表①	全体で発表し、討議し、「アジア人として生きる誇り」の基礎を作る。
5	講義②東アジアにおける生活文化交流と摩擦の歴史を考える。	水とリテラシーを軸とした東アジア地域の生活文化交流と「中華帝国」「アメリカ帝国」等による摩擦の歴史と現状を考える。
6	グループワーク②	文化交流と摩擦について、衣食住、音楽・絵画、言葉や文字、植民地統治の功罪などを視野に入れながら一人一人の経験や認識を出し合う。

7	グループワークの発表②	全体発表と討議によって、「東アジア・太平洋人」の誇りについて、認識を深める。
8	講義③ユネスコが提唱する学習権とそれを軸とした交流・協力活動を考える。	ユネスコの「学習権宣言」を学ぶとともに、実際の交流活動、協力活動を知る。
9	グループワーク③	一人ひとりの経験を出し合いながら、実際に何ができるか、考える。
10	グループワークの発表と討議③	全体発表と討議によって、アジア・太平洋学習権共同体をイメージする。
11	講義④アジア・太平洋人に求められる教養と学校を含む生涯学習社会。	オープンマインド、好奇心、知る努力、企画・実行力、言語能力などについて考える。
12	グループワーク④	一人ひとりの経験を出し合いながら、実際に何ができるか、考える。
13	発表と討議④	全体発表と討議によって、「私にできるアジア人の生き方と生涯学習社会」を考える。
14	振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、テストの内容と形式の説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活の中で、「グローバリゼーション」「国際化」「EU」「アメリカの変化」「アジア」「太平洋」関係のニュースや記事に注目する。
可能であれば、「アジア」「太平洋」地域の国へ行って、生活様式や言葉、音楽などの違いや共通点を感じ取る。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局 2014 年 第Ⅲ部第 3 章

【参考書】

山住正己編『教育と文化をつなぐ』国土社 2001 年
月刊社会教育編集部編『日本で暮らす外国人の学習権』国土社 1993 年
小林文人・伊藤長和・黄宗建編『韓国の生涯学習・社会教育』エイデル研究所 2004 年
日本社会教育学会編『国際識字の十年と日本の識字問題』東洋館出版社 1991 年
同編『民族共生・多文化社会と生涯学習』東洋館出版社 1995 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（主体的な参加の姿勢など）20 %
 - ・随時出されるレポートの提出とその内容 20 %
 - ・定期試験の結果 60 %
- とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・内容をできるだけわかりやすく講義する
 - ・グループワークの活用
 - ・映像や新聞記事の活用
 - ・私語への厳しい対応
- 以上について、心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

マイクロソフト オフィス

【その他の重要事項】

- ・学問共同体としての授業の充実を心がけたい。
- ・学生側の積極的参加を呼びかけたい。
- ・これを具体化するために、次のことを心がけてほしい。
 - a. いま世界で何が起こっているかという想像力を働かせること。
 - b. 解らないことがあれば、その場で質問すること。
 - c. グループワークで、自分の疑問、アイディア、意見を出しながら、他の人の疑問、アイディア、意見にも耳を傾け、少数意見を排除せずに、全体をまとめるよう、心がけること。
 - d. 必要なことを調べ、よく準備してプレゼンテーションを行うこと。

【Outline and objectives】

Lifelong Learning and Globalization

生涯学習支援論Ⅱ

朝岡 幸彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に理解するために、「湿地」というフィールドを設定し、そこにおける湿地教育のあり方から学習支援の方法や課題を学ぶ。学習支援が持つ広がりや専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】

社会教育・生涯学習における学習支援の具体像を、フィールドの特性や地域・市民との関わりの中で理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に考えるために、それぞれの課題に即して調査し、実際の学習支援のあり方について理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「社会に埋め込まれた学習」と社会教育・生涯学習	社会教育・生涯学習における「学習」の特質を考える。
2	SDGs と「湿地」というフィールドの意味	「湿地」というフィールドが SDGs においてどのような意味をもつのかを考える。
3	「湿地教育」という概念について	「湿地教育」という概念について、教育的な意味を考える。
4	水のつながりに生きる学習	「水」をとおしてどのような学びが成立し、そこにどのような「つながり」が生まれるのかを考える。
5	CEPA における体験学習の役割	湿地の保全・活用における CEPA の意義を検討することを通して、体験学習の意味と支援について考える。
6	学校教育における海洋教育の展開	学校における海洋教育の実践を通して、学校教育における学習支援の方法について考える。
7	「海洋教育」という物語	気仙沼市を事例に、「海と生きる」ことの意味を問う学びについて考える。
8	タンチョウ保護と共生のための湿地教育	釧路湿原におけるタンチョウの保護活動を通して、湿地教育と学習支援について考える。
9	ソルに関わる環境教育・活動の意義	出水市におけるナベヅル、マナヅルの保護活動を通して、湿地教育と学習支援について考える。
10	地域づくりと「湿地の文化」教育	「湿地の文化」という視点から地域づくり学習と学習支援のあり方について考える。
11	エコロジストが考える地域の人づくり	エコロジーと地域づくりという視点から、人材養成のあり方を考える。
12	「湿地」をめぐる多様な学習と学習支援	「湿地」というフィールドに存在する多様な学習のあり方を通して、その学習支援の意味について考える。
13	学習支援の「現場」について	社会教育・生涯学習において学習を支援する仕事において、「現場」（フィールド）がもつ意味について考える。
14	ふりかえり	この授業で学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの講読。

授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

朝岡幸彦・笹川孝一・日置光久編著『湿地教育・海洋教育』筑波書房 2019 年

【参考書】

随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

テキスト等からの課題レポート（ワークシート） 80 %

平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

初年度授業のため、学生が提出する課題をもとに随時改善する。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。授業中に学生自身が接続する必要はない。

【その他】

授業中に出题される課題を提出すること。

【Outline and objectives】

To make concrete and profound understanding of learning support, we will place “wetland” as a field to learn the method and problems of learning support. The course’s aim is to understand the expertness and extension of learning support.

現代生活・文化と社会教育 I

鈴木 悌遍

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域と企業 と「職場における学び」の関係性について学ぶ。
授業ではまず、地域と地域の資源、企業の活動との関係について解説する。その上で企業の持続的活動のために、「職場における学び」が果たす役割について学ぶ。
つぎに会津若松市とランドセル業界の変遷を解説する。2 つの変遷を踏まえた上で、具体的な事例としてランドセル会社羅羅屋による「職場における学び」について学ぶ。
その後ランドセル業界以外の地域企業の事例を示す。
学期後半では学生各位が興味を持った地域企業について調べ、発表、学生同士で議論を行い、理解を深める。
希望者にはランドセル工場見学の実習を行う。

【到達目標】

- ・社会教育士・社会教育主事、また広く地域における学習コーディネーターを志す学生が、地域企業と社会教育との関わりについて理解を深める機会を提供する。
- ・そのために、ほとんどの学生が使った経験を持つランドセル業界に焦点を当てて、設計・製造・販売・経営と雇用創出をふくめた地域貢献に実際について理解を深める。
- ・また特に、そこで働いている人々の人生や職業、自己研鑽、人材育成について、詳述し、希望者について別の日程で現場見学の機会を設け、生涯学習・社会教育との関係を考える。
- ・学期後半ではそれぞれの学生が興味のある「地域企業と社会教育」の事例を調べ、発表をし、議論を行い、社会教育士・社会教育主事として実践的に活躍できる能力を身につけることを目指す。
- ・実際に地域企業の経営に携わる者としての経験を活かした授業を行うことを心掛ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習（事例研究と発表、議論）を中心に授業を進める。実習は別途、希望者のみ参加でおこなう。

- ①この授業は 5 / 6 から開始される
- ②授業方法については第 1 回までに検討します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域企業と社会教育	地域と企業の持続的関係性のためには「職場における学び」が重要であることを学期の講義内容の説明とともに学ぶ。
第 2 回	地域の資源と企業と社会教育 1	企業と企業活動に必要な資源（資本、労働力、原材料等資源、資金・信用、指導・規制・社会資本、理解・支持）と地域の関係について学ぶ。
第 3 回	地域の資源と企業と社会教育 2	地域と企業が行う実践について、具体的事例を学ぶ。
第 4 回	地域の資源と企業と社会教育 3	社会教育の視点から、地域と企業が行う実践について、具体的事例を学ぶ。
第 5 回	地域と地域企業の変遷と社会教育	会津若松市を素材に、地域の産業の移り変わり地域と社会教育の変化について学ぶ。
第 6 回	地域と産業の変遷と社会教育	ランドセル業界を素材に、業界中心地の移り変わり業界に携わる人々の社会教育の変化について学ぶ。
第 7 回	地域と企業と社会教育 1	会津若松市に主力工場を持つ創業 46 年のランドセル会社羅羅屋の歴史・特徴を学ぶ。

第 8 回	地域と企業と社会教育 2	羅羅屋が会津若松にもたらした変化、会津若松が羅羅屋にもたらした変化を解説する。事例をもとに地域と企業と社会教育の関係について学ぶ。
第 9 回	地域企業と社会教育 1	事例研究において、事例を探す、決定する、調査する、まとめる、発表する、議論する方法について学ぶ。
第 10 回	地域企業と社会教育 2	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 1）
第 11 回	地域企業と社会教育 3	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 2）
第 12 回	地域企業と社会教育 4	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 3）
第 13 回	.	.
第 14 回	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業内の発表やコメントペーパー等（80%）、定期試験（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

外資系コンサルティング会社勤務を経て、WEB コンサルティング会社、WEB 開発会社、EC 会社、ランドセル会社を経営。
実務者の目線、生活者の目線から、企業と地域と社会教育について講義を進める。
講義を通して、受講者の調査、発表、議論能力の向上に努める。
授業で使ったスライドに関しては授業後共有する。メール等にて質問、相談等を常時受け付ける。

【Outline and objectives】

In this lecture, students will learn about the relationship between local communities, companies and “learning in the workplace”. The case study is Raraya, which produces Japanese traditional school bag (called “Randoseru”) company in Aizuwakamatsu. Afterwards, other local companies case studies will be introduced. In the second half of the semester, students will conduct case studies and make presentations. Fieldwork will be conducted for those who are interested.

現代生活・文化と社会教育Ⅱ

佐々木 美貴

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を生かした地域づくりを調べ報告することや、社会教育プログラムを作る作業も行う。また、私たちの暮らしと身近な自然に関係が深い生物多様性条約やラムサール条約の精神と社会教育との関係、日本各地で実践されている自然の恵みを活用した暮らしや地域づくりと、それを支える知恵や技の具体例、交流・力量形成・教育・参加・気づき（Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness: CEPA）の実践例等を取り上げる。

【到達目標】

①人々の暮らしは自然の恵みに依存して成り立っていること、②日本各地には身近な自然を保全しながら暮らしや地域づくりに役立てるための知恵や技（文化と技術）が数多く蓄積され、現在も発展されていること、③それらをふまえて行われている社会教育実践の実際の姿、以上 3 点を理解することが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を生かした地域づくりについて調べ報告することや、社会教育プログラムを作り、発表・ディスカッションする作業も行う。また、毎回の授業の最後に、授業の感想・質問などを記入して提出する。この内容については、次の授業の最初に取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の内容、進め方、成績評価基準など、この授業について説明する。身近な自然を生かした暮らしについて考える。
第 2 回	私たちの暮らしと自然の恵み	飲み水や海産物・農作物などの食料等、自然の恵みによって、私たちの暮らしが支えられていることを考える。
第 3 回	私たちの暮らしと自然を生かした地域づくり・まちづくり	身近な自然を生かした地域づくり・まちづくりについて、具体例を調べ・報告し、クラス内でディスカッションする。
第 4 回	私たちの暮らしと生物多様性条約・ラムサール条約	暮らしを支える、水田や干潟、湖沼などの「湿地」、多様な生物の保全や活用を支える二つの国際条約とその構造について考える。
第 5 回	二つの条約と「交流・力量形成・教育・参加・気づき」=CEPA	ラムサール条約を中心に、保全や活用を支える CEPA の役割や実際の活動を考える。
第 6 回	CEPA と「社会教育」	二つの条約の CEPA と「環境教育」「持続可能な開発のための教育（ESD）」との関係、「社会教育」「生涯教育」との関係を考える。
第 7 回	国際社会、国、地方自治体、NGO・NPO などの役割と協力	保全、活用、CEPA をふくむ「自然の恵みの文化」に関わる、国、地方自治体等の役割と協力について、「日本国際湿地保全連合」を例に考える。
第 8 回	自然の恵みの文化①（保全・再生）	新潟の「湯普請」などに即して、保全や再生にかかわる活動を考える。
第 9 回	自然の恵みの文化②（ワイズユース）	「ふゆみずたんぼ米」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる活動を考える。
第 10 回	自然の恵みの文化③（CEPA）	ふるさと絵屏風やワークショップ等の事例に即して、CEPA にかかわる活動を考える。
第 11 回	これからの社会教育と身近な自然を生かした「地域の活性化」	自然を身近に感じ、地域の活性化につなげるための社会教育について考える。
第 12 回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る①	「生きものの調査」や世代間を結ぶワークショップ等の身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作るための手順を考える。
第 13 回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る②	①で考えた手順に即して、自分が行いたい社会教育プログラムを実際に作る。また、互いのプログラムに評価する手法を考え、実際に評価する。
第 14 回	まとめ	授業全体を振り返り、この授業への理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自然の恵みと自分との関わりを観察しておくこと。自分にとっての身近な自然を 1 つ探し、そこを生かした地域づくりやまちづくりの事例がないか、調べる。自然にかかわる大人を対象とした社会教育プログラムを作成するため、関心のある事例を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『湿地の文化と技術 33 選～地域・人々とのかかわり』日本国際湿地保全連合 2012 年 授業内で配布

【参考書】

生物多様性条約とラムサール条約の本文及び決議、『干潟生物調査ガイドブック～東日本編』、環境省『日本のラムサール条約湿地』『ラムサール条約湿地とワイズユース』パンフレット等

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加（50%）と定期試験（50%）によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の感想と質問は、翌週の授業のはじめに伝えるようにしている。生物多様性について身近に感じられるよう、ビデオ等を使った授業を行っている。

【Outline and objectives】

Focusing on lectures and videos, we also conduct research and report on community development that takes advantage of nearby nature, and work on social education programs. Also, biodiversity closely related to our lives and the nature around us. The relationship between the spirit of the Convention and the Ramsar Convention and social education, living and community development utilizing the blessings of nature practiced throughout Japan, and specific examples of wisdom and skills that support it, exchange, capacity building, education, and participation. Practice examples of awareness (Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness: CEPA)

博物館概論

金山 喜昭

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学術、文化施設としての博物館について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】

博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法、関連法令などを取り上げる。

なお、授業の開始は 5 月 9 日にする。以後、7 月 11 日までの毎週土曜日の授業時間内（5 時間）に資料や課題を学習支援システムにアップするので、次週の授業時間までに課題を提出する。宿題は、毎回の授業時までに提出する。それ以降の課題の提出は認められない。課題レポート（1 回）のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。7 月 18 日までに提出する。平常点は毎回授業で出題する宿題の提出をもってそれにあてて。また、シラバスの内容を 10 回の授業回数に集約するため、授業の進行は必ずしもシラバスに示した順序に従うものではない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	博物館とは何か？ 博物館の定義などについて概説する。
第 2 回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。
第 3 回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第 4 回	博物館学史	博物館学の歴史を概観する
第 5 回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第 6 回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第 7 回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第 8 回	博物館の資料論	博物館が取り扱う資料について解説する。
第 9 回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第 10 回	地域博物館論	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。
第 11 回	博物館と地域コミュニティ	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第 12 回	博物館と現代社会	現代社会の諸課題に取り組む博物館の姿を紹介する。
第 13 回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第 14 回	総括	これまでの授業内容を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。

東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーであるために常設展を無料で見学できるので活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】

金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）

金山 喜昭『公立博物館を N P O に任せたらー市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）

金山 喜昭『博物館と地方再生ー市民・自治体・企業・地域との連携ー』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題提出）（40 %）

課題レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】

This course aims to understand “What is a museum?” as a cultural facility and learn its social role and significance.

博物館経営論

金山 喜昭

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の経営の現状とその課題や改善に学ぶ。

【到達目標】

博物館の適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館や美術館の運営形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。実際の博物館の経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深める。

なお、授業の開始は 5 月 9 日にする。以後、7 月 11 日までの毎週土曜日の授業時間内（3 時間）に資料や課題を学習支援システムにアップするので、次の授業時間までに課題を提出する。それ以降の課題の提出は認められない。宿題は、毎回の授業時に出す。課題レポート（1 回）のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。7 月 18 日までに提出する。平常点は毎回授業で出題する宿題の提出をもってそれぞれに定める。また、シラバスの内容を 10 回の授業回数に集約するため、授業の進行は必ずしもシラバスに示した順序に従うものではない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館経営とは何か？	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第 2 回	博物館の使命と評価	博物館の社会的使命、社会的役割や評価の考え方や手法などについて解説する。
第 3 回	博物館経営の現状と課題	公立博物館の経営状態（直営館）について解説する。
第 4 回	指定管理者制度と博物館経営	公立博物館（指定管理館）経営上の特質について解説する。
第 5 回	NPO 指定管理館の経営	NPO 指定管理館の経営的な特性を解説する。
第 6 回	企業指定管理館の経営	企業指定管理館の経営的な特性を解説する。
第 7 回	財団法人指定管理館の経営	財団法人指定管理館の経営的な特性を解説する。
第 8 回	国立博物館の経営	東京国立博物館・国立科学博物館の経営状態を解説する。
第 9 回	地方独立行政法人の経営	大阪市による新しい博物館経営を解説する。
第 10 回	博物館行政と博物館経営	博物館経営に関する制度を解説する。
第 11 回	インバウンド観光と博物館経営	博物館経営における観光の考え方や展望について解説する。
第 12 回	市民参加と博物館経営	市民参加による博物館経営を解説する。
第 13 回	博物館の外部資金の獲得	博物館による外部資金の獲得について解説する。
第 14 回	博物館経営の展望	本授業の内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山喜昭 編『転換期の博物館経営』（同成社、2020）

【参考書】

金山喜昭『博物館と地方再生』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、レポート課題（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】

This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.

博物館経営論

杉長 敬治

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と日本の博物館の経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】

日本の博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。この変化に伴い、博物館に求められている役割や期待も、大きく変わりつつあります。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館経営に関する基本事項について講義します。博物館の業種特性、博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）の現状と課題について理解を深め、博物館経営の望ましい在り方を考察していきます。①博物館制度論の観点からの考察、②博物館統計によるマクロな視点からの考察、③事例研究によるミクロな視点からの考察を行います。受講生には、博物館のフィールドワーク（講義外の時間を活用して博物館現場のリサーチを行う）と経営分析の状況をレポートにまとめてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスー博物館経営の基本概念と博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館の使命がどのように設定されているかについて学習する。また、使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこととその背景）について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の動向について学習する。
5	博物館におけるマーケティングについて	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本概念とマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
6	博物館の広報活動ー現状と課題	博物館の広報活動の現状と求められている広報戦略（ブランド戦略を含む）について学習する。
7	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力ー現状と課題	博物館の支援組織（友の会・後援会）とボランティア）について学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
8	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
9	国立博物館の経営ー現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、国立博物館の経営上の課題について学習する。
10	公立博物館の経営ー現状と課題	公立博物館の行財政制度、指定管理者制度、地方独立行政法人制度、国の公立博物館に関する政策について学習する。
11	私立博物館の経営ー現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。

12	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理について・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、時間をつくって博物館を見学し、博物館経営の観点から博物館を観察・分析するマインドと方法を身につけてください。博物館を調査し、経営分析を行ってもらい、成果をレポートにまとめてもらいますので、講義外の時間に博物館現場に向くことが必須になります。また、教科書と参考図書は、講義内容の理解を深めていく上で欠かせないものです。他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでいきますので、積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書「転換期における博物館経営」（金山喜昭編、同成社、2020 年度（4 月）刊行予定、2,700 円）を使用します。また、教科書で言及していない内容は、資料を授業支援システムに掲載します。

【参考書】

①公立博物館を NPO に任せたら、金山喜昭著、同成社、②博物館と地方再生：市民・自治体・企業・地域との連携、金山喜昭著、同成社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一・稲葉郁子、日本経済新聞社、④「日本の博物館総合調査研究」報告書・基本データ集、http://www.mus-nh.city.osaka.jp/sakuma/mirror_museum-census_jp/ に収録、⑤ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、⑥マネジメンメント、P. F. ドラッカー、ダイヤモンド社、⑦思想としてのミュージアム、村田麻里子、人文書院、⑧その他－授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題にどのように取り組んでいるかを判定するため、①期末レポート（50%）、②各回の講義内容に添った課題レポート（40%）、③平常点【授業への参加度】（10%）により評価します。①の期末レポートのテーマは、博物館の経営分析に関するものです。調査（現地調査を含む。）と分析の成果をレポートにまとめてもらいます。②の課題レポートは、授業時に課題として出すものの中から選択してもらい、指定する時期までに提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんの授業理解が深まるよう進行速度を調整しながら講義します。授業内容に不明な点がある時には、質問をしてください。質問には、授業支援システムを使って回答します。また、授業環境（照明・温度）に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにより教材の配付や諸連絡を行います。各回の授業の前後に必ず支援システムにアクセスをしてください。

【その他の重要事項】

この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目の一つです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館経営に関心のある方の受講も念頭に置いて、授業を進行していきます。①疑問、質問、ご意見があれば、出席表のコメント欄に書いてください。皆さんのコメントは、授業への参画のための重要なツールで、授業を面白くする上でも重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。経営分析のレポート作成を通して、皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館での勤務経験を踏まえて、博物館現場の姿を伝えることに力点を置きたいと思います。

【Outline and objectives】

Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums.

博物館資料論

田中 裕二

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】

博物館を、「資料」という観点から理解することを目指す。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通じた教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。学生の積極的な参加を促すために、グループ・ディスカッションや課題のプレゼンテーション等も適宜実施する。また最低一度は、博物館でのフィールド調査を課す予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	博物館における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第 2 回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第 3 回	博物館の一次資料	博物館の一次資料について具体的に学ぶ。
第 4 回	博物館の二次資料	博物館の二次資料について具体的に学ぶ。
第 5 回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第 6 回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第 7 回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第 8 回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第 9 回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第 10 回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第 11 回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第 12 回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第 13 回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性化など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第 14 回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連した事例を各自で調べておくこと。授業内で活発な議論となるよう発言を促します。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを課す予定です（その際、若干の入館料が発生する可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】

授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加度（ディスカッションの姿勢や課題の成果など）：50 %
期末試験（論述）：50 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業外学習をしていない生徒がほとんどだったため、より具体的な課題を設定して発言の場を多く設けたい。

【Outline and objectives】

Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials.

博物館教育論

荒川 裕子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育施設として位置づけられている博物館＝ミュージアム（歴史博物館、美術館、文学館、自然科学系博物館、等々が含まれる）では、資料の収集、研究、展示等と並んで、教育普及の活動が重要な役割を果たしています。この授業では、ミュージアムにおける教育の意義や効果について、理論的基盤と実践事例の双方の観点から考え、これからのミュージアム教育のあるべき姿を探ります。

【到達目標】

幼児から社会人まで、さまざまな年齢や立場の人びとを対象に展開されているミュージアム教育の現状を知るとともに、今後さらにミュージアムでの学びを深化させていくにはどうすればよいかを考えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業となります。それに伴う各回の授業計画の変更などについては、その都度「学習支援システム」に提示します。本授業の開始日は4月23日（木）2限です。Zoom 会議の形式で行う予定です。「学習支援システム」の「教材」に載せたパワーポイントに提示した URL から参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ミュージアム教育とは何か	授業のガイダンスとして、この領域で扱うトピックスについて概説する。
第2回	ミュージアムでの体験と学び	学校での学びとミュージアムにおける学びの違いについて考え、ミュージアム教育の特質を理解する。
第3回	生涯学習とミュージアム①	なぜミュージアム教育の必要性が重視されるようになったのか、生涯学習社会の観点から考える。
第4回	生涯学習とミュージアム②	現在、国内外で展開されているミュージアム教育の理論的枠組みを理解する。
第5回	学校と連携したミュージアム教育	小学校や中学校と連携して展開される教育プログラムについて検討する。
第6回	地域と連携したミュージアム教育	地域のニーズや特性を生かしたミュージアム教育について検討する。
第7回	ミュージアム教育の手法①	ミュージアムの持つ資料や展示を生かした講座、講演会、ギャラリートーク等について学ぶ。
第8回	ミュージアム教育の手法②	ミュージアムが教育目的で作成、配布、頒布等を行っている印刷資料やウェブを通じた情報公開について学ぶ。
第9回	ミュージアム教育の手法③	ミュージアムにおけるワークショップや体験学習について、具体例を手がかりに学ぶ。
第10回	教育プログラムの立案に向けて	教育プログラムを実際に立案するためのプロセスや留意事項を理解する。
第11回	教育プログラムの作成と発表①	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第12回	教育プログラムの作成と発表②	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第13回	教育プログラムの作成と発表③	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第14回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期の途中でミュージアムにおけるフィールド調査を実施し、その成果をもとにレポートを書いたり、プレゼンテーションをしてもらう予定です（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、授業に関連した事例を調べるなどの課題が適宜出されます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、ほぼ毎回、プリントを配布します。

【参考書】

黒沢浩（編・著）『博物館教育論』講談社、ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことにともない、授業評価の方法や基準も変更されます。具体的な方法や基準については、授業開始日に「学習支援システム」で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

教室内での学びに終始せず、博物館でのフィールド調査とそのフィードバックを充実させていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

In the museums, including historical museum, fine art museum, museum of literature, museum of natural science and so on, which are positioned as adult educational facilities, educational activities for the visitors are very important alongside collecting materials, doing research and planning exhibition. In this class, we will consider the significance and effects of so-called ‘museum education’ from the viewpoint of both theory and practice, and explore the future form of it

博物館教育論

山下 治子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】

- ①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
- ②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	美術館での学び、ワークショップ生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	自然史系博物館での学び① 地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	自然史系博物館での学び② さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実践	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】

雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(出席数+リアクションペーパー) (50%) + レポート (30%) + 学期末試験 (20%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

【2016 年度以前入学者用】図書館制度・経営論

森 智彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水 5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館の法令と関連法規について解説して、主に公立図書館の基本設計から管理運営までの過程（プロセス）を、経営という観点から考察して解説する。

利用者への望ましいサービスを達成するには、図書館を開設する前の基本設計の時点から綿密に計画する必要がある。図書館統計から図書館サービスの指標を導き出して、サービス対象となる利用者の特性を考えて、地域や母体組織（学校、大学、企業など）に相応した図書館像を考えたい。

図書館の財務管理や、人事管理、などをめぐる諸問題についても触れ、P F I、指定管理者制度、民間活力導入の問題が、今後の図書館経営に与える影響についても考察する。

【到達目標】

- ・公立図書館の運営について説明ができる。
- ・P F I、指定管理者制度などの新たな公共機関の運営方法について説明できる。
- ・新聞や雑誌で公立図書館の運営に関する記事に興味を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、教科書と配布したレジュメに沿って授業を行う。授業内で何度か簡単な課題の提出を求めることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館法の成り立ち (1)	図書館法の位置づけ
第 2 回	図書館法の成り立ち (2)	図書館法逐条解説 条例等その他の法規
第 3 回	図書館経営の意義と基本的な考え方 (1)	組織の経営と経営原理 経営組織
第 4 回	図書館経営の意義と基本的な考え方 (2)	経営資源の構成要素 業務プロセスと経営資源 経営のサイクル
第 5 回	人的資源と組織編成	図書館の人的資源 知識専門職としての司書 図書館の組織
第 6 回	物品の調達・管理	図書館に必要なモノ 物品の調達 物品の管理
第 7 回	図書館財務	図書館にとっての財務 図書館財務の実態と限界 新しい図書館財務の考え方
第 8 回	公共空間としての図書館	施設を活かす管理・運用 サービス空間の設計
第 9 回	P R とマーケティング	書庫管理 P R とは何か マーケティングの必要性 図書館のマーケティング
第 10 回	経営戦略策定のための調査・分析と評価	戦略計画をつくる 戦略を支える調査と研究 経営評価
第 11 回	経営形態の選択と外部連携	図書館の経営環境の変化 公共図書館の経営形態 外部との連携
第 12 回	図書館情報政策の意義	図書館情報政策の位置づけ 地方自治体内の一組織としての図書館
第 13 回	各種図書館の役割と根拠法	国立国会図書館 大学図書館 学校図書館 専門図書館 関連する諸法律
第 14 回	まとめと確認	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の章に沿って授業を行うので、授業前に教科書の該当箇所をあらかじめ読んでください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳与志夫著、『図書館制度・経営論（ライブラリー図書館情報学 4） 学文社、2019

【参考書】

糸賀雅児、葉袋秀樹編、『図書館・制度経営論』（現代図書館情報学シリーズ2）
樹村房, 2013

その他授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題（30％）、レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】

授業の要点をわかりやすくする。

【Outline and objectives】

Achieving the effective service to users requires careful planning from the point of basic design before the library is opened. I want to derive an index of library services from library statistics, consider the characteristics of users to be serviced, and consider a library image that is appropriate for the region and organization (school, university, company, etc.).

This section will also discuss various issues related to library financial management and personnel management, and consider the effects of PFI, the designated manager system, and the issue of private vitality on library management in the future.

図書館制度・経営論

森 智彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館の法令と関連法規について解説して、主に公立図書館の基本設計から管理運営までの過程（プロセス）を、経営という観点から考察して解説する。

利用者への望ましいサービスを達成するには、図書館を開設する前の基本設計の時点から綿密に計画する必要がある。図書館統計から図書館サービスの指標を導き出して、サービス対象となる利用者の特性を考えて、地域や母体組織（学校、大学、企業など）に相応した図書館像を考えたい。

図書館の財務管理や、人事管理、などをめぐる諸問題についても触れ、PFI、指定管理者制度、民間活力導入の問題が、今後の図書館経営に与える影響についても考察する。

【到達目標】

- ・公立図書館の運営について説明ができる。
- ・PFI、指定管理者制度などの新たな公共機関の運営方法について説明できる。
- ・新聞や雑誌で公立図書館の運営に関する記事に興味を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、教科書と配布したレジュメに沿って授業を行う。授業内で何度か簡単な課題の提出を求めることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館法の成り立ち (1)	図書館法の位置づけ
第 2 回	図書館法の成り立ち (2)	図書館法逐条解説 条例等その他の法規
第 3 回	図書館経営の意義と基本的な考え方 (1)	組織の経営と経営原理 経営組織
第 4 回	図書館経営の意義と基本的な考え方 (2)	経営資源の構成要素 業務プロセスと経営資源 経営のサイクル
第 5 回	人的資源と組織編成	図書館の人的資源 知識専門職としての司書 図書館の組織
第 6 回	物品の調達・管理	図書館に必要なモノ 物品の調達 物品の管理
第 7 回	図書館財務	図書館にとっての財務 図書館財務の実際と限界 新しい図書館財務の考え方
第 8 回	公共空間としての図書館	施設を活かす管理・運用 サービス空間の設計 書庫管理
第 9 回	PRとマーケティング	PRとは何か マーケティングの必要性 図書館のマーケティング
第 10 回	経営戦略策定のための調査・分析と評価	戦略計画をつくる 戦略を支える調査と研究 経営評価
第 11 回	経営形態の選択と外部連携	図書館の経営環境の変化 公共図書館の経営形態 外部との連携
第 12 回	図書館情報政策の意義	図書館情報政策の位置づけ 地方自治体内の一組織としての図書館
第 13 回	各種図書館の役割と根拠法	国立国会図書館 大学図書館 学校図書館 専門図書館 関連する諸法律
第 14 回	まとめと確認	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の章に沿って授業を行うので、授業前に教科書の該当箇所をあらかじめ読んでください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳与志夫著、『図書館制度・経営論（ライブラリー図書館情報学4）』学文社, 2019

【参考書】

糸賀雅児、葉袋秀樹編、『図書館・制度経営論』（現代図書館情報学シリーズ2）
樹村房, 2013

その他授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題（30％）、レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】

授業の要点をわかりやすくする。

【Outline and objectives】

Achieving the effective service to users requires careful planning from the point of basic design before the library is opened. I want to derive an index of library services from library statistics, consider the characteristics of users to be serviced, and consider a library image that is appropriate for the region and organization (school, university, company, etc.).

This section will also discuss various issues related to library financial management and personnel management, and consider the effects of PFI, the designated manager system, and the issue of private vitality on library management in the future.

【2016年度以前入学者用】児童サービス論

田中 順子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月3 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。

【到達目標】

児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。絵本等の資料を使った読み聞かせを実践し、児童と本を結びつける手法も獲得する。また、学校との連携など、児童を取り巻く読書環境についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	児童サービスとは	児童サービスの理念について
2	児童について	児童の発達と読書について
3	乳幼児の読書環境	乳幼児の読書環境とブックスタート
4	児童サービスの歴史	児童サービスの歴史と法律について
5	ブック・トーク	ブックトーク実践
6	読み聞かせ	読み聞かせ実践
7	ヤングアダルト	ヤングアダルトサービスについて
8	児童図書館	児童図書館の目的と役割
9	児童図書館リサーチ	児童図書館や児童図書コーナーの調査
10	他団体との連携	児童の読書推進のための政府、自治体の取り組みについて
11	レファレンス・サービス	児童のためのレファレンスサービスについて
12	読書の児童への影響	幼少時の読書がどんな影響を与えるか学ぶ
13	学習支援	学習支援としての児童サービス
14	学校図書館	学校、学校図書館の活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した範囲のテキストの読み込みを含め、本授業の準備・復習時間に、各2時間を充てること。

【テキスト（教科書）】

植松貞夫・鈴木佳苗編『児童サービス論』樹村房 2014

【参考書】

笠原良郎編『楽しい読み聞かせ 学校図書館入門シリーズ3』全国学校図書館協議会

『図書館をつくる 教育をかえる』全国学校図書館協議会

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業内の発表（20％）と中間レポートの提出（30％）、学期末のレポート（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

現場のリサーチや、読み聞かせの実践を通して、実情が実感できたという感想が多いので、学生による体験を積極的に取り入れていく。

【Outline and objectives】

The child age is very important for reading. When meeting a good book, children will love and continue reading, and when it isn't so, they might give up reading. In this class, students learn about child's book suitable for a reading ability, about history of children's service and various challenges in the library. Students visit a children's library actually to research it. They learn about service necessary to children and how to offer that service.

児童サービス論

田中 順子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。

【到達目標】

児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。絵本等の資料を使った読み聞かせを実践し、児童と本を結びつける手法も獲得する。また、学校との連携など、児童を取り巻く読書環境についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	児童サービスとは	児童サービスの理念について
2	児童について	児童の発達と読書について
3	乳幼児の読書環境	乳幼児の読書環境とブックスタート
4	児童サービスの歴史	児童サービスの歴史と法律について
5	ブック・トーク	ブックトーク実践
6	読み聞かせ	読み聞かせ実践
7	ヤングアダルト	ヤングアダルトサービスについて
8	児童図書館	児童図書館の目的と役割
9	児童図書館リサーチ	児童図書館や児童図書コーナーの調査
10	他団体との連携	児童の読書推進のための政府、自治体の取り組みについて
11	レファレンス・サービス	児童のためのレファレンスサービスについて
12	読書の児童への影響	幼少時の読書がどんな影響を与えるか学ぶ
13	学習支援	学習支援としての児童サービス
14	学校図書館	学校、学校図書館の活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した範囲のテキストの読み込みを含め、本授業の準備・復習時間に、各2時間を充てること。

【テキスト（教科書）】

植松貞夫・鈴木佳苗編『児童サービス論』樹村房 2014

【参考書】

笠原良郎編『楽しい読み聞かせ 学校図書館入門シリーズ3』全国学校図書館協議会
『図書館をつくる 教育をかえる』全国学校図書館協議会

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業内の発表（20%）と中間レポートの提出（30 %）、学期末のレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

現場のリサーチや、読み聞かせの実践を通して、実情が実感できたという感想が多いので、学生による体験を積極的に取り入れていく。

【Outline and objectives】

The child age is very important for reading. When meeting a good book, children will love and continue reading, and when it isn't so, they might give up reading. In this class, students learn about child's book suitable for a reading ability, about history of children's service and various challenges in the library. Students visit a children's library actually to research it. They learn about service necessary to children and how to offer that service.

【2016 年度以前入学者用】情報サービス論（2013 年度より開設）

田中 順子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月 3 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスを展開する能力を習得する。

【到達目標】

図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービス、情報検索について理解を深め、多岐にわたる情報源の知識を習得し、情報サービスを積極的に展開する能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。「学習支援システム」で授業が開始されるのは、4月27日（月）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報サービスとは	情報サービスの概念と歴史
2	レファレンス・サービス	レファレンスサービスとレフェラルサービスについて
3	図書館の利用	カレントアウェアネスサービスと読書相談、利用案内等について
4	レファレンス・サービスに求められるもの	レファレンスサービスの理論と実際
5	レファレンス・プロセス	レファレンスプロセスについて
6	レファレンス・インタビュー	利用者のニーズを引き出すレファレンスインタビュー
7	図書館の情報サービス	情報社会における図書館の情報サービスの役割
8	情報源について（1）	各種情報源の特質と利用法
9	情報源について（2）	各種情報源の解説と評価
10	情報源について（3）	各種情報源の組織化
11	情報検索サービス	情報検索サービスの理論と方法
12	図書館利用教育	図書館利用教育の現状
13	図書館の連携	学校図書館、地域の図書館の連携について
14	情報リテラシー	情報リテラシーの育成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した範囲のテキストを読んでくることを含め、本授業の準備・復習時間に、各2時間を充てること。

【テキスト（教科書）】

山崎久道監修『情報サービス論』樹村房

【参考書】

井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業内発表（20%）と課題調査（30%）、学期末のレポート（50%）。前期はオンライン授業になるので、授業内発表はメールでの返信とする。詳細は、「学習支援システム」による授業の中で報告します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に行うディスカッションによって、考える力、発信する力がついたという感想が多いので、受け身ではなく積極的に授業に参加する場を設けていく。

【Outline and objectives】

In this class, students learn about library service and think about various challenges in the future library. Students visit a library to research it. They also learn about reference work.

情報サービス論（2013 年度より開設）

田中 順子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスを展開する能力を習得する。

【到達目標】

図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービス、情報検索について理解を深め、多岐にわたる情報源の知識を習得し、情報サービスを積極的に展開する能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。「学習支援システム」で授業が開始されるのは、4月27日（月）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報サービスとは	情報サービスの概念と歴史
2	レファレンス・サービス	レファレンスサービスとレフェラルサービスについて
3	図書館の利用	カレントアウェアネスサービスと読書相談、利用案内等について
4	レファレンス・サービスに求められるもの	レファレンスサービスの理論と実際
5	レファレンス・プロセス	レファレンスプロセスについて
6	レファレンス・インタビュー	利用者のニーズを引き出すレファレンスインタビュー
7	図書館の情報サービス	情報社会における図書館の情報サービスの役割
8	情報源について（1）	各種情報源の特質と利用法
9	情報源について（2）	各種情報源の解説と評価
10	情報源について（3）	各種情報源の組織化
11	情報検索サービス	情報検索サービスの理論と方法
12	図書館利用教育	図書館利用教育の現状
13	図書館の連携	学校図書館、地域の図書館の連携について
14	情報リテラシー	情報リテラシーの育成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した範囲のテキストを読んできるとを、本授業の準備・復習時間に、各2時間を充てること。

【テキスト（教科書）】

山崎久道監修『情報サービス論』樹村房

【参考書】

井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業内発表（20%）と課題調査（30%）、学期末のレポート（50%）。前期はオンライン授業になるので、授業内発表はメールでの返信とする。詳細は、「学習支援システム」による授業の中で報告します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に行うディスカッションによって、考える力、発信する力がついたという感想が多いので、受け身ではなく積極的に授業に参加する場を設けていく。

【Outline and objectives】

In this class, students learn about library service and think about various challenges in the future library. Students visit a library to research it. They also learn about reference work.

【2016 年度以前入学者用】情報資源組織論

丹 一信

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月 1 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4月19日付で修正しています。学習支援システムも熟読してください。図書館情報資源の組織化の理論および技術について、講義を中心に学習する。特に印刷資料、非印刷資料だけではなく、電子資料やネットワーク上の情報資源についても、組織化の理論を学ぶ。これを通じて情報や知識資源の組織化全般について理解を深めることを目的とする。

なお、本科目は情報資源組織演習を受講するにあたって重要であるので、出来るだけ早い学年で受講することを勧めたい。

【到達目標】

図書館の基本業務である情報資源の組織化について、理論を中心に基礎的な事柄を学習する。特に情報資源組織演習の基礎となるよう目録法、件名法、分類法、書誌コントロールなどを学習する。また、できる限り実際の業務の様子などを PC 画面に提示しながら解説し、情報資源組織演習で必要となる事項を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「情報資源組織演習（資料組織演習）」の授業を履修するためには、本授業の知識は重要となる。本授業では、「目録法」「分類法」「件名法」の三つの技術を活用する。「目録法」では目録の重要性と『日本目録規則』の使用法について、「分類法」と「件名法」では、『日本十進分類法』と『基本件名標目表』の構成と使用法を中心に解説する。メタデータの扱いについても解説する。授業は講義形態が中心である。

初回授業は、25 日に配信予定です。履修登録をする上での注意点、ガイダンスが中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報資源組織化の意義	情報資源組織化の意義と理論
3	情報・知識の概念について	情報・知識の概念を学ぶ
4	書誌コントロールの意義と役割	書誌コントロールの基本について学ぶ
5	書誌記述法（記述目録法）	記述目録法の概要を解説
6	主題目録法（主題分析の意義）	主題による分析の手法を学ぶ
7	分類法（主要な分類法について）	各種の分類法について、その詳細を学習する
8	件名とシソーラス	基本件名標目標を中心に、シソーラスについても学ぶ
9	書誌情報の作成と流通	現代の図書館をめぐる書誌情報の流通経路を中心に学ぶ
10	MARC, 書誌ユーティリティ	書誌ユーティリティの役割と
11	OPAC Web OPAC	MARC について
12	書誌情報の提供（OPAC の運用）	OPAC の進化の歴史について
13	ネットワーク情報資源の組織化	実際の図書館業務における OPAC の運用方法を中心に学ぶ
14	メタデータ	ネットワーク上に存在する情報源の組織化について学習する
		データのためのデータとも呼ばれるメタデータについて学習する
	多様な情報資源の組織化	多種多様な情報資源の組織化について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

公共図書館や大学図書館をよく利用し、OPAC や排架について馴染んでおくこと。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間が標準。

【テキスト（教科書）】

別途、学習支援システム内にて指示します。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末課題 70% 平常点（小 web テスト含む） 30%

【学生の意見等からの気づき】

・実際の実務を念頭においた授業を展開する。
・図書館関連業種への就職を考えている学生への情報提供も行う。

・前年度のアンケートでも、コメントシートを通じて、あらゆる質問に答えることは好評であった。本年度も継続して実施する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

時々 PC を使用

【その他の重要事項】

なるべくコミュニケーションのとれる授業を心がけているので、わからない点は遠慮なく問い合わせしてほしい。

【Outline and objectives】

This course will teach you the theory and techniques of organizing library information resources.

In particular, I will learn not only printed materials but also electronic information resources and information resources on the network.

The purpose of this subject is to deepen the understanding of general information and composition of knowledge resources.

情報資源組織論

丹 一信

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 月 19 日付で修正しています。学習支援システムも熟読してください。
図書館情報資源の組織化の理論および技術について、講義を中心に学習する。特に印刷資料、非印刷資料だけではなく、電子資料やネットワーク上の情報資源についても、組織化の理論を学ぶ。
これを通じて情報や知識資源の組織化全般について理解を深めることを目的とする。
なお、本科目は情報資源組織演習を受講するにあたっても重要であるので、出来るだけ早い学年で受講することを勧めたい。

【到達目標】

図書館の基本業務である情報資源の組織化について、理論を中心に基礎的な事柄を学習する。特に情報資源組織演習の基礎となるよう目録法、件名法、分類法、書誌コントロールなどを学習する。また、できる限り実際の業務の様子などを PC 画面に提示しながら解説し、情報資源組織演習で必要となる事項を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「情報資源組織演習（資料組織演習）」の授業を履修するためには、本授業の知識は重要となる。本授業では、「目録法」「分類法」「件名法」の三つの技術を活用する。「目録法」では目録の重要性と『日本目録規則』の使用法について、「分類法」と「件名法」では、『日本十進分類法』と『基本件名標目表』の構成と使用法を中心に解説する。メタデータの扱いについても解説する。

授業は講義形態が中心である。

初回授業は、25 日に配信予定です。履修登録をする上での注意点、ガイダンスが中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 情報資源組織化の意義	オリエンテーション 情報資源組織化の意義と理論
2	情報・知識の概念について	情報・知識の概念を学ぶ
3	書誌コントロールの意義と役割	書誌コントロールの基本について学ぶ
4	書誌記述法（記述目録法）	記述目録法の概要を解説
5	主題目録法（主題分析の意義）	主題による分析の手法を学ぶ
6	分類法（主要な分類法について）	各種の分類法について、その詳細を学習する
7	件名とシソーラス	基本件名標目標を中心に、シソーラスについても学ぶ
8	書誌情報の作成と流通	現代の図書館をめぐる書誌情報の流通経路を中心に学ぶ
9	MARC, 書誌ユーティリティ	書誌ユーティリティの役割と MARC について
10	OPAC Web OPAC	OPAC の進化の歴史について
11	書誌情報の提供（OPAC の運用）	実際の図書館業務における OPAC の運用方法を中心に学ぶ
12	ネットワーク情報資源の組織化	ネットワーク上に存在する情報源の組織化について学習する
13	メタデータ	データのためのデータとも呼ばれるメタデータについて学習する
14	多様な情報資源の組織化	多種多様な情報資源の組織化について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

公共図書館や大学図書館をよく利用し、OPAC や排架について馴染んでおくこと。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間が標準。

【テキスト（教科書）】

別途、学習支援システム内にて指示します。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末課題 70% 平常点（小 web テスト含む） 30%

【学生の意見等からの気づき】

・実際の実務を念頭においた授業を展開する。
・図書館関連業種への就職を考えている学生への情報提供も行う。
・前年度のアンケートでも、コメントシートを通じて、あらゆる質問に答えることは好評であった。本年度も継続して実施する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

時々 PC を使用

【その他の重要事項】

なるべくコミュニケーションのとれる授業を心がけているので、わからない点は遠慮なく問い合わせてほしい。

【Outline and objectives】

This course will teach you the theory and techniques of organizing library information resources.

In particular, I will learn not only printed materials but also electronic information resources and information resources on the network.

The purpose of this subject is to deepen the understanding of general information and composition of knowledge resources.

【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習

丹 一信

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間

曜日・時限：火 5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 月 19 日付で修正しています。学習支援システムも熟読してください。なお現時点では、秋学期は通学し対面授業が可能であるとの前提で記述しています。

この授業では、図書館司書の重要な業務のひとつである情報資源の組織化（目録データの記述・排列、メタデータの作成、資料の主題分類）の演習を行います。

図書館司書の実務能力を得られることを目的としています。

また情報資源組織論の授業と連動しています。

【到達目標】

多種多様な情報資源についての書誌データの作成、主題分析、分類作業、シソーラス、メタデータの作成などの演習を行い、情報資源組織業務における実務的能力、実践力の育成を目標とする。

①図書、継続資料、電子資料等の書誌を正確に記述できること

②各分野の情報資源の分類記号を付与できるようになること

③基本件名標目表を正しく使いこなせるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報資源組織業務の基本となる目録・件名・分類を理解し、例題と演習問題の実習により、その技法の習得をめざします。具体的には目録・件名・分類について、それぞれ日本目録規、BSH、日本十進分類法を用いて、演習問題の解説、演習を中心に学習します。なお昨今はコンピュータ目録が中心となっている為、シミュレーションによる Nacsis-CAT の演習やメタデータ作成の実習なども行う予定です。

尚、本授業は演習形式のため、欠席が多いと理解および習得が困難になりかねません。また「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修するのが望ましいです。

人数超過の場合は、抽選となります。20 名までです。必ず学習支援システムに仮登録した上で、抽選を受けてください。

初回授業は、24 日に配信予定です。配信内容は授業を履修登録する上でのガイダンスです。

なお下記の授業計画のうち第 2 回目以降は、後日、改訂します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスが中心
2	単行資料の書誌記述 1 タイトル・責任表示	単行資料の書誌記述を学ぶ 1 タイトル及び責任表示の記述について学習する
3	単行資料の書誌記述 2 版・出版に関する事項	単行資料の書誌記述を学ぶ 2 版の記述、出版地、出版年などの記述について学習する
4	単行資料の書誌記述 3 形態・シリーズ、注記・標準番号	単行資料の書誌記述を学ぶ 3 大きさなどの形態、シリーズに関する事項、ISBN の記述について学習する
5	継続資料の書誌記述	雑誌などの継続資料の書誌記述の実践について
6	各種資料の記述（録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料）	録音資料や映像資料等々の記述の実践について
7	各種資料の記述（電子資料及びその他の資料）	電子資料の記述方法
8	コンピュータ目録の演習 1	MARC を用いた組織業務について（JAPAN MARC を例に）
9	コンピュータ目録の演習 2 NACISIS-CAT その実際	NACISIS-CAT のような共同目録の実践について説明する
10	ネットワーク情報資源について（メタデータ作成の実際）	ダブリンコアに基づきメタデータの演習を行う
11	・主題分析について ・件名標目の付与 1	・主題の分析の仕方 ・基本件名標目表の概要
12	件名標目の付与 2	細目について
13	件名標目の付与 3	・分類記号からの付与 ・件名規定
14	件名標目の付与 4	件名標目総合演習課題
15	日本十進分類法による分類作業	NDC の基本原則について
16	分類記号付与の実際 1	形式区分について

17	分類記号付与の実際 2	地理区分・海洋区分について
18	分類記号付与の実際 3	言語区分について
19	分類記号付与の実際 4	言語共通区分・文学共通区分
20	分類記号付与の実際 5	分類規程に基づいて付与する
21	分類記号付与の実際 6	分類規程 特殊分類規定に基づいて付与する
22	分類記号付与の実際 7	分類・件名総合演習 1 1 類から 5 類を中心に分類と件名の付与の演習
23	分類記号付与の実際 8	分類・件名総合演習 2 6 類～9 類、0 類を中心に分類と件名の付与の演習
24	分類記号付与総合演習	各類の総合演習課題を行う
25	書誌データ管理、検索システムの構築	書誌データベースを実際に構築し、データ入力も行い、実務の疑似体験を行う
26	書誌データ管理、検索システムの構築 2	書誌データベースの構築（論文・記事データベースの構築）
27	書誌データベースその運用	構築した書誌データベースに、データを入力し運用を試みる。抄録の作成、シソーラスによるキーワード付与、書誌分類の付与など
28	総合演習課題	春学期の記述目録法、秋学期の主題目録法に基づいて、演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を毎授業ごとに課します。また本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

和中幹雄, 山中秀夫, 横谷弘美 共著. 情報資源組織演習. 新訂版. 日本図書館協会, 2016.3. 278p ; ISBN 978-4-8204-1515-2

【参考書】

(1) 蟹瀬 智弘, やさしく詳しい NACSIS-CAT , 樹村房, 2017, xiii, 249p, 図版 1] 枚 p.

【成績評価の方法と基準】

授業時、夏季及び冬季の課題、期末試験にて評価します。

演習課題 50% 期末試験 30% (定期試験期間内)

平常点 20%

授業への積極的な参加姿勢、課題への取り組みを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

ポイントを絞った授業進行にします。

また図書館関連の就職情報も踏まえた授業内容にします。

アンケート結果を更に反映し、実務に則した事例を多く演習する様にします。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用します

また授業では、Hulic を使用します。http://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

PC については、私物のものでも構いません。

PC の操作になれておいてください。

教科書は必須です。

毎回、課題が課されます。

「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャージャー・目録担当者としての実務経験を踏まえて、実務における目録作成の技法、データベース構築の基礎を中心に授業を行います。

初回授業時に履修者の抽選を行います。20 名まで。

必ず学習支援システムに仮登録してください。

【Outline and objectives】

In this lesson, I will learn about organizing information resources, which is one of the important tasks of the librarian. In particular, we will learn to create catalogs, create metadata, and classify themes of documents. It is aimed at obtaining the practical ability of the librarian.

It is also linked with lesson of information resource organization theory.

情報資源組織演習

丹 一信

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 月 19 日付で修正しています。学習支援システムも熟読してください。なお現時点では、秋学期は通学し対面授業が可能であるとの前提で記述しています。

この授業では、図書館司書の重要な業務のひとつである情報資源の組織化（目録データの記述・排列、メタデータの作成、資料の主題分類）の演習を行います。

図書館司書の実務能力を得られることを目的としています。

また情報資源組織論の授業と連動しています。

【到達目標】

多種多様な情報資源についての書誌データの作成、主題分析、分類作業、シソーラス、メタデータの作成などの演習を行い、情報資源組織業務における実務的能力、実践力の育成を目標とする。

①図書、継続資料、電子資料等の書誌を正確に記述できること

②各分野の情報資源の分類記号を付与できるようになること

③基本件名標目表を正しく使いこなせるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報資源組織業務の基本となる目録・件名・分類を理解し、例題と演習問題の実習により、その技法の習得をめざします。具体的には目録・件名・分類について、それぞれ日本目録規BSH、日本十進分類法を用いて、演習問題の解説、演習を中心に学習します。なお昨今はコンピュータ目録が中心となっている為、シミュレーションによる Nacsis-CAT の演習やメタデータ作成の実習なども行う予定です。

尚、本授業は演習形式のため、欠席が多いと理解および習得が困難になりかねません。また「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修するのが望ましいです。

人数超過の場合は、抽選となります。20 名までです。必ず学習支援システムに仮登録した上で、抽選を受けてください。

初回授業は、24 日に配信予定です。配信内容は授業を履修登録する上でのガイダンスです。

なお下記の授業計画のうち第 2 回目以降は、後日、改訂します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスが中心
2	単行資料の書誌記述 1 タイトル・責任表示	単行資料の書誌記述を学ぶ 1 タイトル及び責任表示の記述について学習する
3	単行資料の書誌記述 2 版・出版に関する事項	単行資料の書誌記述を学ぶ 2 版の記述、出版地、出版年などの記述について学習する
4	単行資料の書誌記述 3 形態・シリーズ、注記・標準番号	単行資料の書誌記述を学ぶ 3 大きさなどの形態、シリーズに関する事項、ISBN の記述について学習する
5	継続資料の書誌記述	雑誌などの継続資料の書誌記述の実際について
6	各種資料の記述（録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料）	録音資料や映像資料等々の記述の実際について
7	各種資料の記述（電子資料及びその他の資料）	電子資料の記述方法
8	コンピュータ目録の演習 1	MARC を用いた組織業務について（JAPAN MARC を例に）
9	コンピュータ目録の演習 2 NACSIS-CAT その実際	NACSIS-CAT のような共同目録の実際について説明する
10	ネットワーク情報資源について（メタデータ作成の実際）	ダブリンコアに基づきメタデータの演習を行う
11	・主題分析について ・件名標目の付与 1	・主題の分析の仕方 ・基本件名標目表の概要
12	件名標目の付与 2	細目について
13	件名標目の付与 3	・分類記号からの付与 ・件名規定
14	件名標目の付与 4	件名標目総合演習課題
15	日本十進分類法による分類作業	NDC の基本原則について
16	分類記号付与の実際 1	形式区分について
17	分類記号付与の実際 2	地理区分・海洋区分について

18	分類記号付与の実際 3	言語区分について
19	分類記号付与の実際 4	言語共通区分・文学共通区分
20	分類記号付与の実際 5	分類規程に基づいて付与する
21	分類記号付与の実際 6	分類規程 特殊分類規定に基づいて付与する
22	分類記号付与の実際 7	分類・件名総合演習 1 1 類から 5 類を中心に分類と件名の付与の演習
23	分類記号付与の実際 8	分類・件名総合演習 2 6 類～9 類、0 類を中心に分類と件名の付与の演習
24	分類記号付与総合演習	各類の総合演習課題を行う
25	書誌データ管理、検索システムの構築	書誌データベースを実際に構築し、データ入力も行い、実務の疑似体験を行う
26	書誌データ管理、検索システムの構築 2	書誌データベースの構築（論文・記事データベースの構築）
27	書誌データベースその運用	構築した書誌データベースに、データを入力し運用を試みる。抄録の作成、シソーラスによるキーワード付与、書誌分類の付与など
28	総合演習課題	春学期の記述目録法、秋学期の主題目録法に基づいて、演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を毎授業ごとに課します。また本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

和中幹雄, 山中秀夫, 横谷弘美 共著. 情報資源組織演習. 新訂版. 日本図書館協会, 2016.3. 278p ; ISBN 978-4-8204-1515-2

【参考書】

(1) 蟹瀬 智弘、やさしく詳しい NACSIS-CAT.、樹村房, 2017, xiii, 249p, 図版 1] 枚 p.

【成績評価の方法と基準】

授業時、夏季及び冬季の課題、期末試験にて評価します。
演習課題 50% 期末試験 30%（定期試験期間内）
平常点 20%
授業への積極的な参加姿勢、課題への取り組みを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

ポイントを絞った授業進行にします。
また図書館関連の就職情報も踏まえた授業内容にします。
アンケート結果を更に反映し、実務に則した事例を多く演習する様にします。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用します
また授業では、Hulic を使用します。http://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

PC については、私物のものでも構いません。
PC の操作になれておいてください。
教科書は必須です。
毎回、課題が課されます。
「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャージャー・目録担当者としての実務経験を踏まえて、実務における目録作成の技法、データベース構築の基礎を中心に授業を行います。
初回授業時に履修者の抽選を行います。20 名まで。
必ず学習支援システムに仮登録してください。

【Outline and objectives】

In this lesson, I will learn about organizing information resources, which is one of the important tasks of the librarian. In particular, we will learn to create catalogs, create metadata, and classify themes of documents. It is aimed at obtaining the practical ability of the librarian. It is also linked with lesson of information resource organization theory.

【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習

村上 郷子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間

曜日・時限：水 1 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報資源組織論（資料組織論）で学んだ理論や知識をもとに、実際に書誌データの作成、主題分析、分類作業の作成を行う。

【到達目標】

書誌データの作成、主題分析、分類作業等の基本的スキルを修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

資料の組織化は、大きく記述目録法と主題目録法の 2 部から成り立っている。春学期は記述目録の演習を中心に目録規則の適用及び主題分析の基礎について学習する。秋学期は主に日本十進分類法による分類作業を中心に、主題目録法の実践についてのスキルを学ぶ。（オンラインオンデマンド方式）この授業は 5 月 6 日 1 限の時間帯（8：50）を初回開始とします。原則として毎週同じ曜日・時間に授業が始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期情報資源組織演習（資料組織演習）のガイダンス（Unit0-1）	情報資源組織演習（資料組織演習）概要について
2	記述に関する総則（Unit2-4）	記述に関する総則
3	図書の記述（Unit5・6）	タイトルと責任表示、版、資料の特性、出版・頒布等
4	図書の記述（Unit7・8）	形態・シリーズ、注記、標準番号
5	図書の記述①（単行書中心）	図書の記述①（単行書中心）
6	図書の記述②（単行書＋シリーズ）	図書の記述②（単行書＋シリーズ）
7	継続資料の記述①（Unit9・10）	通則および記述
8	継続資料の記述②（Unit9・10）	記述及び所蔵事項
9	課題 例題および総合演習問題（Unit22・23）	図書の記述演習を中心に行う
10	標目、典拠、排列（Unit13-16）	標目、典拠、排列
11	コンピュータ目録（Unit17・18）	コンピュータ目録、OPAC、コピー目録、オリジナル目録、MARC、UNIMARC、NACSIS-CAT、JAPAN-MARC など
12	MARC フォーマット（Unit19・20）	NACSIS-CAT（Unit21）
13	例題および総合演習問題（Unit22・23）	図書の記述演習を中心に行う
14	9 回目の課題に統合	図書の記述演習を中心に行う
15	9 回目の課題に統合 主題組織法、日本十進法の構成（Unit27-30）	秋学期ガイダンス、主題組織法とは何か、日本十進分類法とは何か、NDC の構成、形式区分
16	日本十進法による分類作業（Unit31）	地理区分、海洋区分、言語区分
17	分類記号付与の実際（Unit32-35）	分類作業、分類規定、分類表の改訂
18	人文科学①（Unit36）	哲学・宗教（1 類）
19	人文科学②（Unit37）	歴史・地理・伝記（2 類）
20	社会科学①（Unit38）	政治・法律・経済他（3 類前半）
21	社会科学②（Unit39）	社会・教育他（3 類後半）
22	自然科学・技術（Unit40・41）	自然科学・技術（4・5 類）
23	技術・産業（Unit41）	技術・産業（5・6 類）
24	人文科学④ 芸術（Unit42）	芸術（7 類）
25	言語・文学（Unit43）	言語・文学（8・9 類）
26	文学・総記（Unit43・44）	文学・総記（9・0 類）

- 27 図書記号・別置記号の付与 (Unit45・46)・総合演習
- 28 秋学期総まとめ 筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎日出される宿題を、確実にこなすこと。

【テキスト（教科書）】

『情報資源組織演習』日本図書館協会、(JLA 図書館情報学シリーズ 3-10) の最新版

【参考書】

木原 通夫 [ほか] 著 『情報資源組織法—資料組織法』、最新版、第一法規
日本図書館協会 編『図書館資料の目録と分類』、最新版、日本図書館研究会

【成績評価の方法と基準】

通年授業のため、春学期は 40 %、秋学期は 60 %とする。40 %の内、出席・毎回の小クイズ (20 %)、課題 (20 %) によって総合的に評価する。出席は 8 割以上を目安とする。毎回授業の初めに小テストを行うため、遅刻や欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

なじみの少ない領域のため、できるだけ平易な説明を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学生は司書資格課程のポータルサイトから、事前に毎回のレジメをダウンロード・印刷をして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】

この授業では、受講生を 20 人以下に制限する。20 人以上の場合は、司書課程の受講生及び上級生を優先し、司書課程以外の受講生及び下級生は最初の日に抽選を行う。途中からの受講は認めない。

【Outline and objectives】

Based on the theory and the knowledge of organizing information resources, students will practice creating actual bibliographic catalog and decimal classification as well as analyzing subject headings.

情報資源組織演習

村上 郷子

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報資源組織論（資料組織論）で学んだ理論や知識をもとに、実際に書誌データの作成、主題分析、分類作業の作成を行う。

【到達目標】

書誌データの作成、主題分析、分類作業等の基本的スキルを修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

資料の組織化は、大きく記述目録法と主題目録法の 2 部から成り立っている。春学期は記述目録の演習を中心に目録規則の適用及び主題分析の基礎について学習する。秋学期は主に日本十進分類法による分類作業を中心に、主題目録法の実際についてのスキルを学ぶ。(オンラインオンデマンド方式)
この授業は 5 月 6 日 1 限の時間帯 (8 : 50) を初回開始とします。原則として毎週同じ曜日・時間に授業が始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期情報資源組織演習 (資料組織演習) のガイダンス (Unit0-1)	情報資源組織演習 (資料組織演習) 概要について
2	記述に関する総則 (Unit2-4)	記述に関する総則
3	図書の記述 (Unit5・6) タイトルと責任表示等	タイトルと責任表示、版、資料の特性、出版・頒布等
4	図書の記述 (Unit7・8) 形態・シリーズ、注記、標準番号	形態・シリーズ、注記、標準番号
5	図書の記述① (単行書中心)	図書の記述① (単行書中心)
6	図書の記述② (単行書＋シリーズ)	図書の記述② (単行書＋シリーズ)
7	継続資料の記述① (Unit9・10) 通則および記述	通則および記述
8	継続資料の記述② (Unit9・10) 記述及び所蔵事項	記述及び所蔵事項
9	課題 例題および総合演習問題 (Unit22・23)	図書の記述演習を中心に行う
10	標目、典拠、排列 (Unit13-16)	標目、典拠、排列
11	コンピュータ目録 (Unit17・18) MARC フォーマット (Unit19・20) NACSIS-CAT (Unit21)	コンピュータ目録、OPAC、コピー目録、オリジナル目録、MARC、UNIMARC、NACSIS-CAT、JAPAN-MARC など
12	例題および総合演習問題 (Unit22・23)	図書の記述演習を中心に行う
13	9 回目の課題に統合	図書の記述演習を中心に行う
14	9 回目の課題に統合	図書の記述演習を中心に行う
15	主題組織法、日本十進法の構成 (Unit27-30)	秋学期ガイダンス、主題組織法とは何か、日本十進分類法とは何か NDC の構成、形式区分
16	日本十進法による分類作業 (Unit31)	地理区分、海洋区分、言語区分
17	分類記号付与の実際 (Unit32-35)	分類作業、分類規定、分類表の改訂
18	人文科学① (Unit36)	哲学・宗教 (1 類)
19	人文科学② (Unit37)	歴史・地理・伝記 (2 類)
20	社会科学① (Unit38)	政治・法律・経済他 (3 類前半)
21	社会科学② (Unit39)	社会・教育他 (3 類後半)
22	自然科学・技術 (Unit40・41)	自然科学・技術 (4・5 類)
23	技術・産業 (Unit41)	技術・産業 (5・6 類)
24	人文科学④ 芸術 (Unit42)	芸術 (7 類)
25	言語・文学 (Unit43)	言語・文学 (8・9 類)
26	文学・総記 (Unit43・44)	文学・総記 (9・0 類)

27	図書記号・別置記号の付与（Unit45・46）・総合演習	図書記号・別置記号の付与・総合演習
28	秋学期総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回出される宿題を、確実にこなすこと。

【テキスト（教科書）】

『情報資源組織演習』日本図書館協会、(JLA 図書館情報学シリーズ 3-10) の最新版

【参考書】

木原 通夫 [ほか] 著 『情報資源組織法—資料組織法』、最新版、第一法規
日本図書館協会 編『図書館資料の目録と分類』、最新版、日本図書館研究会

【成績評価の方法と基準】

通年授業のため、春学期は 40 %、秋学期は 60 %とする。40 %の内、出席・毎回の小クイズ（20 %）、課題（20 %）によって総合的に評価する。出席は 8 割以上を目安とする。毎回授業の初めに小テストを行うため、遅刻や欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

なじみの少ない領域のため、できるだけ平易な説明を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学生は司書資格課程のポータルサイトから、事前に毎回のレジメをダウンロード・印刷をして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】

この授業では、受講生を 20 人以下に制限する。20 人以上の場合は、司書課程の受講生及び上級生を優先し、司書課程以外の受講生及び下級生は最初の日に抽選を行う。途中からの受講は認めない。

【Outline and objectives】

Based on the theory and the knowledge of organizing information resources, students will practice creating actual bibliographic catalog and decimal classification as well as analyzing subject headings.

【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習

鈴木 祐滋

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間

曜日・時限：土 5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では図書館司書の基本的かつ重要な仕事である情報資源組織の手法について学びます。目録データの記述・登録・排列、メタデータ作成、主題分析・件名標目付与、資料分類等の演習を通じて、情報資源組織のスキルを獲得することを目的としています。

【到達目標】

受講学生が、図書館資料の目録データの記述・登録・排列、流用入力、Web コンテンツのメタデータ作成、資料の主題分析および、それに基づく件名標目付与・資料分類に関する手法を理解し、実践できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

★授業開始は 4 月 25 日（土）です。

日本目録規則、基本件名標目表、日本十進分類法を使って、目録データの記述・排列、件名標目付与、及び資料分類の演習を行います。この他、メタデータ作成法、図書記号付与、地域資料の分類についても学びます。演習に使用するツール数に制限があるため、定員は最大 20 名です。希望者多数の場合は、上級生を優先とし、最後は抽選となります。抽選以降、履修決定者以外は出席できません。予めご了承下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報資源組織演習の概要	情報資源組織の概説および、使用するツールの紹介。演習の進め方や年間スケジュール等の説明。
2	目録規則の解説	目録情報の記述ルールである目録規則の概説。特に日本目録規則（NCR）を中心に解説。
3	書誌の階層レベル	書誌階層の概要説明および、階層レベル理解のための演習。
4	単行資料の記述	単行資料の目録データ作成方法の解説と演習。
5	録音資料、映像資料の記述	録音資料、映像資料の目録データ作成方法の解説と演習。
6	地図、継続資料の記述	地図資料、継続資料の目録データ作成方法の解説と演習。
7	電子資料の記述	物理的形態を持つ電子資料の目録データ作成方法の解説と演習。
8	標目の概要	標目の役割・意義についての解説と標目付与演習。
9	標目および典拠ファイル	タイトル標目、著者標目、件名標目、分類標目および、典拠ファイルに関する解説と演習。
10	目録データの排列規則	目録データ排列規則の解説と排列の演習。
11	データベースを用いたコンピュータ目録作成（書誌データ登録）	目録データベースへの各種資料の書誌データ登録演習。（グループワーク含む）
12	コンピュータ目録の流用入力による作成方法	書誌ユーティリティを利用した流用入力による目録データ登録方法の解説、演習。（グループワーク含む）
13	メタデータ付与	メタデータの解説、メタデータ付与事例紹介および、メタデータ付与演習。
14	まとめと到達度レベル確認	演習した内容に基づく到達度確認演習問題（提出）
15	主題分析	要約主題、網羅的主题の解説・演習。自然語と統制語の解説。統制語である件名標目と分類記号の概説。
16	基本件名標目表による件名作業（1）	基本件名標目表の解説と件名標目付与の演習。
17	基本件名標目表による件名作業（2）	件名標目付与の演習。
18	日本十進分類法（使用方法および一般補助表）	日本十進分類法の使用法解説及び一般補助表の説明。一般補助表を用いた分類記号作成演習。
19	日本十進分類法（固有補助表）	固有補助表の解説と使用法の演習。
20	分類規程	分類規程の解説と規程に基づく分類の演習。

21	社会科学分野の資料分類	3 類「社会科学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
22	自然科学、技術・工学分野の資料分類	4 類「自然科学」、5 類「技術・工学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
23	産業分野、総記の資料分類	6 類「産業」分野、0 類「総記」の資料分類の解説と分類記号付与演習。
24	言語・文学分野の資料分類	8 類「言語」、9 類「文学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
25	総合演習（資料分類）	各々の資料分類演習。
26	図書記号	受入順記号法、年代記号法、著者記号法についての解説と演習。
27	地域資料	地域資料の解説。地域資料に独自分類を使用している公共図書館の事例紹介。地域資料の分類演習。
28	まとめと到達度レベル確認	演習した内容に基づく到達度確認演習問題（提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 11 回の演習で行った方法で、Hulic 上のデータベースへの書誌データ登録演習（夏季休暇中の宿題）を行う。

【テキスト（教科書）】

『情報資源組織演習（新訂版）』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-10 巻）和中幹雄ほか著、日本図書館協会発行、2016 年 3 月刊、1900 円（税別）、ISBN: 978-4-8204-1515-2

【参考書】

関連の資料は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（演習状況および宿題）50%、到達度レベル確認演習問題（春学期・秋学期の合計得点）50%によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ポイントをまとめたレジメは好評だったため、本年度も配布予定です。

【学生が準備すべき機器他】

HULIC 上のデータベースへのデータ登録演習を行う予定です。アカウントの取得方法は授業の中で連絡します。

【その他の重要事項】

大学図書館司書、企業図書館及び情報調査部門のマネジメント等の経験も踏まえ、図書館情報学の理論と図書館/情報調査の実情を合わせて解説。

【Outline and objectives】

This course introduces the methods of information resources organization that is a basic, important librarian's work. The aim of this course is to help students acquire the skills of the information resources organization (e.g. the bibliographic data description, registration, array, the metadata making, the subject analysis, the subject heading addition, and the classification of library materials).

情報資源組織演習

鈴木 祐滋

単位：4 単位 ｜ 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では図書館司書の基本的かつ重要な仕事である情報資源組織の手法について学びます。目録データの記述・登録・排列、メタデータ作成、主題分析・件名標目付与、資料分類等の演習を通じて、情報資源組織のスキルを獲得することを目的としています。

【到達目標】

受講学生が、図書館資料の目録データの記述・登録・排列、流用入力、Web コンテンツのメタデータ作成、資料の主題分析および、それに基づく件名標目付与・資料分類に関する手法を理解し、実践できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

★授業開始は 4 月 25 日（土）です。

日本目録規則、基本件名標目表、日本十進分類法を使って、目録データの記述・排列、件名標目付与、及び資料分類の演習を行います。この他、メタデータ作成法、図書記号付与、地域資料の分類についても学びます。演習に使用するツール数に制限があるため、定員は最大 20 名です。希望者多数の場合は、上級生を優先とし、最後は抽選となります。抽選以降、履修決定者以外は出席できません。予めご了承下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報資源組織演習の概要	情報資源組織の概説および、使用するツールの紹介。演習の進め方や年間スケジュール等の説明。
2	目録規則の解説	目録情報の記述ルールである目録規則の概説。特に日本目録規則（NCR）を中心に解説。
3	書誌の階層レベル	書誌階層の概要説明および、階層レベル理解のための演習。
4	単行資料の記述	単行資料の目録データ作成方法の解説と演習。
5	録音資料、映像資料の記述	録音資料、映像資料の目録データ作成方法の解説と演習。
6	地図、継続資料の記述	地図資料、継続資料の目録データ作成方法の解説と演習。
7	電子資料の記述	物理的形態を持つ電子資料の目録データ作成方法の解説と演習。
8	標目の概要	標目の役割・意義についての解説と標目付与演習。
9	標目および典拠ファイル	タイトル標目、著者標目、件名標目、分類標目および、典拠ファイルに関する解説と演習。
10	目録データの排列規則	目録データ排列規則の解説と排列の演習。
11	データベースを用いたコンピュータ目録作成（書誌データ登録）	目録データベースへの各種資料の書誌データ登録演習。（グループワーク含む）
12	コンピュータ目録の流用入力による作成方法	書誌ユーティリティを利用した流用入力による目録データ登録方法の解説、演習。（グループワーク含む）
13	メタデータ付与	メタデータの解説、メタデータ付与事例紹介および、メタデータ付与演習。
14	まとめと到達度レベル確認	演習した内容に基づく到達度確認演習問題（提出）
15	主題分析	要約主題、網羅的主题の解説・演習。自然語と統制語の解説。統制語である件名標目と分類記号の概説。
16	基本件名標目表による件名作業（1）	基本件名標目表の解説と件名標目付与の演習。
17	基本件名標目表による件名作業（2）	件名標目付与の演習。
18	日本十進分類法（使用方法および一般補助表）	日本十進分類法の使用方法的解説及び一般補助表の説明。一般補助表を用いた分類記号作成演習。
19	日本十進分類法（固有補助表）	固有補助表の解説と使用法の演習。
20	分類規程	分類規程の解説と規程に基づく分類の演習。
21	社会科学分野の資料分類	3 類「社会科学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。

22	自然科学、技術・工学分野の資料分類	4 類「自然科学」、5 類「技術・工学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
23	産業分野、総記の資料分類	6 類「産業」分野、0 類「総記」の資料分類の解説と分類記号付与演習。
24	言語・文学分野の資料分類	8 類「言語」、9 類「文学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
25	総合演習（資料分類）	各類の資料分類演習。
26	図書記号	受人順記号法、年代記号法、著者記号法についての解説と演習。
27	地域資料	地域資料の解説。地域資料に独自分類を使用している公共図書館の事例紹介。地域資料の分類演習。
28	まとめと到達度レベル確認	演習した内容に基づく到達度確認演習問題（提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 11 回の演習で行った方法で、Hulic 上のデータベースへの書誌データ登録演習（夏季休暇中の宿題）を行う。

【テキスト（教科書）】

『情報資源組織演習（新訂版）』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-10 巻）和中幹雄ほか著、日本図書館協会発行、2016 年 3 月刊、1900 円（税別）、ISBN: 978-4-8204-1515-2

【参考書】

関連の資料は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（演習状況および宿題）50%、到達度レベル確認演習問題（春学期・秋学期の合計得点）50%によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ポイントをまとめたレジメは好評だったため、本年度も配布予定です。

【学生が準備すべき機器他】

HULIC 上のデータベースへのデータ登録演習を行う予定です。アカウントの取得方法は授業の中で連絡します。

【その他の重要事項】

大学図書館司書、企業図書館及び情報調査部門のマネジメント等の経験も踏まえ、図書館情報学の理論と図書館/情報調査の実情を合わせて解説。

【Outline and objectives】

This course introduces the methods of information resources organization that is a basic, important librarian's work. The aim of this course is to help students acquire the skills of the information resources organization (e.g. the bibliographic data description, registration, array, the metadata making, the subject analysis, the subject heading addition, and the classification of library materials).

【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習

菅原 真悟

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間

曜日・時限：金 6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力の習得をめざす。

【到達目標】

- (1) 多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等のスキルを身につける。
- (2) 書誌データベースの仕組みと機能を理解し、実際にデータベースを構築する。
- (3) XML や WebAPI 等についての知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム（<https://hoppii.hosei.ac.jp/>）で提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

春学期は、書誌データの作成、主題分析、分類作業を中心に演習を行う。秋学期は、春学期に行ったことを踏まえて、実際に書誌データベースを構築する演習を通して、情報資源組織業務に関する知識と技術を習得することを目指す。また、XML や WebAPI 等についての理解も深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の授業内容について
第 2 回	日本十進分類法	日本十進分類法（NDC）の構造
第 3 回	分類作業の実際 (1)	日本十進分類法を用いた演習（主題分析）
第 4 回	分類作業の実際 (2)	日本十進分類法を用いた演習（補助表）
第 5 回	分類作業の実際 (3)	日本十進分類法を用いた演習（0・1 類）
第 6 回	分類作業の実際 (4)	日本十進分類法を用いた演習（2・3 類）
第 7 回	分類作業の実際 (5)	日本十進分類法を用いた演習（4・5 類）
第 8 回	分類作業の実際 (6)	日本十進分類法を用いた演習（6・7 類）
第 9 回	分類作業の実際 (7)	日本十進分類法を用いた演習（8・9 類）
第 10 回	件名作業の実際 (1)	基本件名標目表（BSH）の概要
第 11 回	件名作業の実際 (2)	基本件名標目表（BSH）を用いた演習
第 12 回	目録作成の実際 (1)	書誌コントロールと図書館目録
第 13 回	目録作成の実際 (2)	日本目録規則（NCR）の構成演習
第 14 回	春学期振り返り	春学期に学んだことを振り返る
第 15 回	課題発表会	夏季課題についての発表会
第 16 回	書誌ユーティリティ	書誌ユーティリティと共同分担目録
第 17 回	NACSIS-CAT	NACSIS-CAT、NII の教育研究・事業
第 18 回	データベース (1)	データベースの仕組み。リレーションアルデータベース
第 19 回	データベース (2)	SQL 入門
第 20 回	メタデータ (1)	図書館におけるメタデータの活用
第 21 回	メタデータ (2)	XML、RDF
第 22 回	メタデータ (3)	ダブリンコア、junii
第 23 回	図書館システム演習 (1)	OPAC の概要
第 24 回	図書館システム演習 (2)	書誌データベースの構築（Enju）
第 25 回	図書館システム演習 (3)	書誌データベースの構築（DC-NDL(RDF) を利用）
第 26 回	図書館システム演習 (4)	書誌データベースの構築（目録作成）
第 27 回	図書館システム演習 (5)	書誌データベースの構築（件名作業・分類作業）
第 28 回	まとめと振り返り	授業全体のまとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で行った演習内容を復習すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて、プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題提出状況をふまえて総合的に評価する。

授業内演習への参加（50%）

小課題（数回出す予定です）および夏季課題の発表（30%）

期末レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

演習時間を増やしたいと考えています。また、授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（<https://hoppii.hosei.ac.jp/>）のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」（<http://lc.i.hosei.ac.jp/>）も使います。

【その他の重要事項】

演習教室での授業のため、人数超過の場合は抽選となります（定員 20 名）。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

We learn about

(1)NDC: Nippon Decimal Classification

(2)BSH: Basic Subject Headings

(3)NCR: Nippon Cataloging Rules

(4)Metadata and WebAPI

情報資源組織演習

菅原 真悟

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力の習得をめざす。

【到達目標】

- (1) 多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等のスキルを身につける。
- (2) 書誌データベースの仕組みと機能を理解し、実際にデータベースを構築する。
- (3)XML や WebAPI 等についての知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム（<https://hoppii.hosei.ac.jp/>）で提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

春学期は、書誌データの作成、主題分析、分類作業を中心に演習を行う。秋学期は、春学期に行ったことを踏まえて、実際に書誌データベースを構築する演習を通して、情報資源組織業務に関する知識と技術を習得することを目指す。また、XML や WebAPI 等についての理解も深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の授業内容について
第 2 回	日本十進分類法	日本十進分類法（NDC）の構造
第 3 回	分類作業の実際 (1)	日本十進分類法を用いた演習（主題分析）
第 4 回	分類作業の実際 (2)	日本十進分類法を用いた演習（補助表）
第 5 回	分類作業の実際 (3)	日本十進分類法を用いた演習（0・1 類）
第 6 回	分類作業の実際 (4)	日本十進分類法を用いた演習（2・3 類）
第 7 回	分類作業の実際 (5)	日本十進分類法を用いた演習（4・5 類）
第 8 回	分類作業の実際 (6)	日本十進分類法を用いた演習（6・7 類）
第 9 回	分類作業の実際 (7)	日本十進分類法を用いた演習（8・9 類）
第 10 回	件名作業の実際 (1)	基本件名標目表（BSH）の概要
第 11 回	件名作業の実際 (2)	基本件名標目表（BSH）を用いた演習
第 12 回	目録作成の実際 (1)	書誌コントロールと図書館目録
第 13 回	目録作成の実際 (2)	日本目録規則（NCR）の構成演習
第 14 回	春学期振り返り	春学期に学んだことを振り返る
第 15 回	課題発表会	夏季課題についての発表会
第 16 回	書誌ユーティリティ	書誌ユーティリティと共同分担目録
第 17 回	NACSIS-CAT	NACSIS-CAT、NII の教育研究・事業
第 18 回	データベース (1)	データベースの仕組み。リレーショナルデータベース
第 19 回	データベース (2)	SQL 入門
第 20 回	メタデータ (1)	図書館におけるメタデータの活用
第 21 回	メタデータ (2)	XML、RDF
第 22 回	メタデータ (3)	ダブリンコア、junii
第 23 回	図書館システム演習 (1)	OPAC の概要
第 24 回	図書館システム演習 (2)	書誌データベースの構築（Enju）
第 25 回	図書館システム演習 (3)	書誌データベースの構築（DC-NDL(RDF) を利用）
第 26 回	図書館システム演習 (4)	書誌データベースの構築（目録作成）
第 27 回	図書館システム演習 (5)	書誌データベースの構築（件名作業・分類作業）
第 28 回	まとめと振り返り	授業全体のまとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で行った演習内容を復習すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて、プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題提出状況をふまえて総合的に評価する。

授業内演習への参加（50%）

小課題（数回出す予定です）および夏季課題の発表（30%）

期末レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

演習時間を増やしたいと考えています。また、授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（<https://hoppii.hosei.ac.jp/>）のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」（<http://lc.i.hosei.ac.jp/>）も使います。

【その他の重要事項】

演習教室での授業のため、人数超過の場合は抽選となります（定員 20 名）。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

We learn about

(1)NDC: Nippon Decimal Classification

(2)BSH: Basic Subject Headings

(3)NCR: Nippon Cataloging Rules

(4)Metadata and WebAPI

【2016 年度以前入学者用】学校図書館メディアの構成

有吉 末充

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水 2 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館メディアの種類、組織化、選択法と分類、目録の基礎を学ぶ。学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成を通して、使いやすい学校図書館をつくる上での基礎的な知識を身につける。

【到達目標】

学校図書館の現場で必要な学校図書館メディアについての知識、選択にあたっての心構えを身につける。メディアをどう使うかを考えながら、実際の学校図書館で利用者にわかりやすい分類をつけられるようにする。検索のための目録の基礎を知る。配架、レイアウトの基本を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各種メディアの種類と特性を理解し、授業においてどう活用するかをまず考える。学校図書館メディアの構築のために、資料・情報の選択と収集・提供に必要なメディアを評価する力をつける。選択・収集・更新・廃棄の基準等の実務を知る。メディアの組織化に関しては、その基本を知り、演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学校図書館メディアの教育的意義と役割	学校図書館のメディアと教育の関わり
2	学校図書館メディアの授業での活用	複数のメディアを活用した授業事例
3	学校図書館メディアの種類	学校図書館メディア基準等
4	学校図書館メディア、組織化の流れ	選択・購入から配架まで
5	学校図書館メディアの選択 1	考慮するポイント、収集方針等
6	学校図書館メディアの選択 2	予算、組織、方法等
7	分類 1	分類の意義、種類
8	分類 2	NDC のしくみと応用
9	分類 3	分類演習 1
10	分類 4	分類演習 2
11	目録 1	目録の意義、種類、NCR 目録演習 1
12	目録 2	記述と記述を構成する書誌的事項 目録演習 2
13	図書館レイアウト	レイアウト計画
14	学校図書館メディアの実際	最近の動き等 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけ学校図書館に実際に行き、全体のレイアウト、分類、目録、配架を見る。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

『改訂新版 学校図書館メディアの構成』北克一 井平尊士 放送大学教育振興会 2016

『学校図書館メディアの構成』小田光宏編 樹村房 2016

【成績評価の方法と基準】

授業時の発言など授業への積極的な貢献度、レポート課題、演習課題。

平常点（授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40 %

提出レポート「複数のメディアを使った授業を考える」：20 %

演習課題①分類②目録：40 %

【学生の意見等からの気づき】

授業目標の明示が心がる。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使用する。できるだけ登録を行うこと。

【その他の重要事項】

本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】

Students learn how to use school library's functions and resources for teaching. For that purpose they learn an inquiry learning and

information literacy. This subject is a weak point in Japanese school library. To realize that teaching needs using school library, librarians (teacher librarian and school librarian) have to appeal the meaning of school library to teachers.

学校図書館メディアの構成

有吉 末充

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館メディアの種類、組織化、選択法と分類、目録の基礎を学ぶ。学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成を通して、使いやすい学校図書館をつくる上での基礎的な知識を身につける。

【到達目標】

学校図書館の現場に必要な学校図書館メディアについての知識、選択にあたっての心構えを身につける。メディアをどう使うかを考えながら、実際の学校図書館で利用者にわかりやすい分類をつけられるようにする。検索のための目録の基礎を知る。配架、レイアウトの基本を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各種メディアの種類と特性を理解し、授業においてどう活用するかをまず考える。学校図書館メディアの構築のために、資料・情報の選択と収集・提供に必要なメディアを評価する力をつける。選択・収集・更新・廃棄の基準等の実務を知る。メディアの組織化に関しては、その基本を知り、演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学校図書館メディアの教育的意義と役割	学校図書館のメディアと教育の関わり
2	学校図書館メディアの授業での活用	複数のメディアを活用した授業事例
3	学校図書館メディアの種類	学校図書館メディア基準等
4	学校図書館メディア、組織化の流れ	選択・購入から配架まで
5	学校図書館メディアの選択 1	考慮するポイント、収集方針等
6	学校図書館メディアの選択 2	予算、組織、方法等
7	分類 1	分類の意義、種類
8	分類 2	NDC のしくみと応用
9	分類 3	分類演習 1
10	分類 4	分類演習 2
11	目録 1	目録の意義、種類、NCR 目録演習 1
12	目録 2	記述と記述を構成する書誌的事項 目録演習 2
13	図書館レイアウト	レイアウト計画
14	学校図書館メディアの実際	最近の動き等 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

きるだけ学校図書館に実際に行き、全体のレイアウト、分類、目録、配架を見る。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

『改訂新版 学校図書館メディアの構成』北克一 平井尊士 放送大学教育振興会 2016
『学校図書館メディアの構成』小田光宏編 樹村房 2016

【成績評価の方法と基準】

授業時の発言など授業への積極的な貢献度、レポート課題、演習課題。
平常点（授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40 %
提出レポート「複数のメディアを使った授業を考える」：20 %
演習課題①分類②目録：40 %

【学生の意見等からの気づき】

授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使用する。できるだけ登録を行うこと。

【その他の重要事項】

本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】

Students learn how to use school library's functions and resources for teaching. For that purpose they learn an inquiry learning and

information literacy. This subject is a weak point in Japanese school library. To realize that teaching needs using school library, librarians (teacher librarian and school librarian) have to appeal the meaning of school library to teachers.

【2016 年度以前入学者用】学
校経営と学校図書館

松田 ユリ子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：土 4 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館の本質的な意義に迫る。まずは学校教育における学校図書館の位置づけを、法律・制度・歴史・学習理論などの面から考察する。その上で学校図書館運営の実践について、事例を豊富に交えながら概観し、受講者とともに理想的な学校図書館のあり方を探る。

【到達目標】

講義の内容を踏まえて、受講生が理想の学校図書館像を明確に捉え、他者に説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する

翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のすすめ方と最初の課題を支援システム上で各自確認する。
4/25		
第 2 回	学校図書館の意義	教科書の第 1 章～第 5 章を熟読し、課題を提出する
5/2		
第 3 回	学校図書館の歴史と制度	教科書の第 6 章～第 8 章を熟読し、課題を提出する
5/9		
第 4 回	学校図書館法	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
5/16		
第 5 回	学校図書館の歴史と制度	教科書の第 6 章～第 8 章を熟読し、課題を提出する
5/23		
第 6 回	学校図書館専門職	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
5/30		
第 7 回	学校図書館のサービス	教科書の第 10 章を熟読し、課題を提出する
6/6		
第 8 回	学校図書館のサービス	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
6/13		
第 9 回	学校図書館における教育活動	教科書の第 11 章を熟読し、課題を提出する
6/20		
第 10 回	学校図書館における教育活動	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
6/27		
第 11 回	学校図書館の設計とマネジメント	教科書の第 12 章から 14 章を熟読し、課題を提出する。
7/4		
第 12 回	学校図書館の設計とマネジメント／まとめ／最終レポート提示	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。最終レポートを確認する。
7/11		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【テキスト（教科書）】

中村百合子編著『学校経営と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ II・1）』樹村房、2015

【参考書】

金沢みどり編著『学校司書の役割と活動:学校図書館の活性化の視点から』学文社、2017

全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』改訂版、悠光堂、2017

野口武悟、前田稔編著『学校経営と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会、2017

堀川照代編著『学校図書館ガイドライン』活用ハンドブック 解説編』悠光堂、2018

【成績評価の方法と基準】

各レポートの提出が必須である。

レポート 60 %（各レポート 10 %づつ）、最終レポート 40 %の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

課題を出すタイミングを的確にする

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要だが、準備できない場合は相談すること

【Outline and objectives】

Students will articulate the history, values, legal and foundational principles of the school library profession.

To provide a broad understanding of the field of school library, and facilitate the exploration of the rich possibilities of practice in the field.

学校経営と学校図書館

松田 ユリ子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館の本質的な意義に迫る。まずは学校教育における学校図書館の位置づけを、法律・制度・歴史・学習理論などの面から考察する。その上で学校図書館運営の実際について、事例を豊富に交えながら概観し、受講者とともに理想的な学校図書館のあり方を探る。

【到達目標】

講義の内容を踏まえて、受講生が理想の学校図書館像を明確に捉え、他者に説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する

翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のすすめ方と最初の課題を支援システム上で各自確認する。
4/25	第 2 回	学校図書館の意義
5/2	第 3 回	学校図書館の歴史と制度
5/9	第 4 回	学校図書館法
5/16	第 5 回	学校図書館の歴史と制度
5/23	第 6 回	学校図書館専門職
5/30	第 7 回	学校図書館のサービス
6/6	第 8 回	学校図書館のサービス
6/13	第 9 回	学校図書館における教育活動
6/20	第 10 回	学校図書館における教育活動
6/27	第 11 回	学校図書館の設計とマネジメント
7/4	第 12 回	学校図書館の設計とマネジメント／まとめ／最終レポート提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【テキスト（教科書）】

中村百合子編著『学校経営と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ II・1）』樹村房、2015

【参考書】

金沢みどり編著『学校司書の役割と活動：学校図書館の活性化の視点から』学文社、2017
 全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携：理論と実践』改訂版、悠光堂、2017
 野口武悟、前田稔編著『学校経営と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会、2017
 堀川照代編著『学校図書館ガイドライン』活用ハンドブック 解説編 悠光堂、2018

【成績評価の方法と基準】

各レポートの提出が必須である。
 レポート 60 %（各レポート 10 %づつ）、最終レポート 40 %の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

課題を出すタイミングを的確にする

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要だが、準備できない場合は相談すること

【Outline and objectives】

Students will articulate the history, values, legal and foundational principles of the school library profession.

To provide a broad understanding of the field of school library, and facilitate the exploration of the rich possibilities of practice in the field.

【2016 年度以前入学者用】学
習指導と学校図書館

松田 ユリ子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：土 5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、情報リテラシー教育、メディア・リテラシー教育、言語活動、探究型学習についての理解を深め、学校図書館がいかに教科学習を支えていくかを考える。

【到達目標】

授業のゴールとしては、受講生各自が司書教諭としてのオリジナルな授業案をつくることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義だけでなく、ワーク、発表、討論といった活動も行う。この授業自体が、学校図書館での学習指導の方法を体験する場となるはずである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のすすめ方 / 学校図書館における教科学習体験の共有
第 2 回	学校図書館と学習指導の関わり	戦後の教育政策と学校図書館
第 3 回	情報リテラシー教育	情報リテラシーの概念と情報リテラシー教育
第 4 回	メディア・リテラシー教育	メディア・リテラシーの概念とメディア・リテラシー教育
第 5 回	言語活動	言語活動と学校図書館
第 6 回	探究型学習	探究型学習を支える理論とツール
第 7 回	コラボレーション	探究型学習の支援におけるコラボレーション
第 8 回	学校図書館における授業の実践	学校図書館における授業事例
第 9 回	授業案を考える（1）	教科教諭の視点 司書教諭の視点
第 10 回	授業案を考える（2）	テーマ設定ワークショップ
第 11 回	授業案を考える（3）	パスファインダーづくりワークショップ
第 12 回	発表「こんな授業がやりたい！」1	授業案の発表および討議
第 13 回	ふりかえり	授業案再検討
第 14 回	まとめ	様々なリテラシー教育と学校図書館

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が卒業した小学校、中学校、高等学校における学校図書館の状況（職員体制・授業での活用状況）を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回プリントを配付する。

【参考書】

随時参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表を行うこととレポート提出が最低条件である。その上で、授業への積極的な貢献度 40 %・発表 20 %・レポート 40 % の総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し

【Outline and objectives】

Students will demonstrate competency in multiple literacies (literacy, information literacy and media literacy etc.) and inquiry-based-learning of the school library profession.

To understand the importance of collaboration between school library specialist, teachers and students.

学習指導と学校図書館

松田 ユリ子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、情報リテラシー教育、メディア・リテラシー教育、言語活動、探究型学習についての理解を深め、学校図書館がいかに教科学習を支えているかを考える。

【到達目標】

授業のゴールとしては、受講生各自が司書教諭としてのオリジナルな授業案をつくることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義だけでなく、ワーク、発表、討論といった活動も行う。この授業自体が、学校図書館での学習指導の方法を体験する場となるはずである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のすすめ方 / 学校図書館における教科学習体験の共有
第 2 回	学校図書館と学習指導の関わり	戦後の教育政策と学校図書館
第 3 回	情報リテラシー教育	情報リテラシーの概念と情報リテラシー教育
第 4 回	メディア・リテラシー教育	メディア・リテラシーの概念とメディア・リテラシー教育
第 5 回	言語活動	言語活動と学校図書館
第 6 回	探究型学習	探究型学習を支える理論とツール
第 7 回	コラボレーション	探究型学習の支援におけるコラボレーション
第 8 回	学校図書館における授業の実際	学校図書館における授業事例
第 9 回	授業案を考える（1）	教科教諭の視点 司書教諭の視点
第 10 回	授業案を考える（2）	テーマ設定ワークショップ
第 11 回	授業案を考える（3）	パスファインダーづくりワークショップ
第 12 回	発表「こんな授業がやりたい！」1	授業案の発表および討議
第 13 回	ふりかえり	授業案再検討
第 14 回	まとめ	様々なリテラシー教育と学校図書館

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が卒業した小学校、中学校、高等学校における学校図書館の状況（職員体制・授業での活用状況）を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回プリントを配付する。

【参考書】

随時参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表を行うこととレポート提出が最低条件である。その上で、授業への積極的な貢献度 40 %・発表 20 %・レポート 40 %の総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し

【Outline and objectives】

Students will demonstrate competency in multiple literacies (literacy, information literacy and media literacy etc.) and inquiry-based-learning of the school library profession.
To understand the importance of collaboration between school library specialist, teachers and students.

【2016 年度以前入学者用】社会教育経営論

御園生 純

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間

曜日・時限：月 5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主体的な学びのスタイルとは？

★学習キーワード—脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など

私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。

社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないのでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテーター（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実践についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。

実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】

社会教育計画立案にかかわる

- ・プレゼン能力
 - ・現状調査能力
 - ・企画立案力
 - ・イベントプロモーションの在り方
 - ・広報宣伝/集客テクニック
- などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとり、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設にいき、講座を履修し主事のインタビュー度の実施を通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ～教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権
14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう

16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス
17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画・学校教育との連携	学社融合の理論的土壌
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタビューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビュー結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビュー結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビュー結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際も具体的な事例をもとに紹介していきます。受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。担当者のサイト
ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】

- ・ Understanding of the present situation of local government and social education in Japan.
 - ・ Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.
- Will be able to have your own thoughts about social education issues.

社会教育経営論

御園生 純

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主体的な学びのスタイルとは？

★学習キーワード—脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など

私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。

社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないのでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテーター（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実際についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。

実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】

社会教育計画立案にかかわる

- ・プレゼン能力
 - ・現状調査能力
 - ・企画立案力
 - ・イベントプロモーションの在り方
 - ・広報宣伝/集客テクニック
- などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとって、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設にいき、講座を履修し主事のインタビュー度の実施を通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ—教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権
14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス

17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画・学校教育との連携	学社融合の理論的土壌
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタビューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビュー結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビュー結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビュー結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際も具体的な事例をもとに紹介していきます。

受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。

担当者のサイト

ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】

・ Understanding of the present situation of local government and social education in Japan.

・ Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.

Will be able to have your own thoughts about social education issues.

【2016 年度以前入学者用】社会教育経営論

御園生 純

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間

曜日・時限：木 3 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主体的な学びのスタイルとは？

★学習キーワード—脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など

私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。

社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないのでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテータ（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実際についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。

実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】

社会教育計画立案にかかわる

- ・プレゼン能力
 - ・現状調査能力
 - ・企画立案力
 - ・イベントプロモーションの在り方
 - ・広報宣伝/集客テクニック
- などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとり、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設にいき、講座を履修し主事のインタビュー度の実施を通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ～教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権
14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう

16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス
17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画・学校教育との連携	学社融合の理論的土壌
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタビューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビュー結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビュー結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビュー結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際も具体的な事例をもとに紹介していきます。受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。担当者のサイト
ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】

- ・ Understanding of the present situation of local government and social education in Japan.
 - ・ Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.
- Will be able to have your own thoughts about social education issues.

社会教育経営論

御園生 純

単位：4 単位 ｜ 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主体的な学びのスタイルとは？

★学習キーワード—脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など

私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。

社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないのでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテーター（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実際についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。

実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】

社会教育計画立案にかかわる

- ・ プレゼン能力
 - ・ 現状調査能力
 - ・ 企画立案力
 - ・ イベントプロモーションの在り方
 - ・ 広報宣伝/集客テクニック
- などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとって、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設にいき、講座を履修し主事のインタビュー度の実施を通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ—教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権
14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス

17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画・学校教育との連携	学社融合の理論的土壌
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタビューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビュー結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビュー結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビュー結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際も具体的な事例をもとに紹介していきたいと思っています。

受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。
担当者のサイト
ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】

・ Understanding of the present situation of local government and social education in Japan.

・ Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.

Will be able to have your own thoughts about social education issues.

【2016 年度以前入学者用】社会教育活動 I

桔川 純子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火 6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、持続可能な社会を形成していくにあたり必要不可欠な、マイノリティの問題、特に外国籍、外国にルーツをもつ人、女性たの問題に焦点を当て、「自分」に引きつけて考えていきます。
そして国内外のさまざまな取り組みを通じて、「ダイバーシティ」「内なる国際化」とは何かについて考察し、「ジェンダー」「エスニシティ」「マイノリティー」の問題について、グローバルな視点から分析できるようにします。そして、現在の全世界の状況に目を向けながら、「コロナ後の世界」を一緒に考えてみましょう。
初回のガイダンスを通じて受講生の興味・関心を把握し、講義に反映させる予定です。

【到達目標】

1. 国際社会における

日本や海外の事例を通じて「多文化共生」「エスニシティ」「内なる国際化」「ジェンダー」「マイノリティ」といったテーマについて、自分の身にひきつけて考察します。そして、社会教育・生涯教育の意義について、日本社会の状況と海外を比較しながら理解し、ディスカッションを重ね、思考を深めていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月21日（火）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

また、現在世界が大変な状況にあります。コロナ時代における課題を考えながら、授業を進めていきたいと思います。詳細は学習支援システムで確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 「コロナの時代」において何を考えるのか	自己紹介、今後の授業の予定、授業の進め方、評価などについて。
2	ジェンダーとは何か	ジェンダーの定義。 女性を取り巻く状況、「フェミニズム」「ジェンダー」について。
3	エスニシティとは何か	エスニシティの定義。日本における「多文化共生」の現状
4	セクシャルマイノリティと社会教育	セクシュアリティ、LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender) とは何か、そしてそれに関するムーブメントについて紹介し、考察する。
5	<人権>と社会教育	憲法で保障されている<人権>、関連する法律などを確認し、日常のなかの<人権意識>について考察する。
6	<ことば>のもつ意味と識字教育	差別を助長する<ことば>、配慮のある<ことば>について考える。
7	しくみ（法律、制度）について考えてみる	意識変容を促す<制度>とは
8	地域における実践の考察①	日本の<地域>について調べてみる。
9	地域における実践の考察②	日本の<地域>について調べてみる。
10	世界の実践の考察①	世界の取り組みについて調べてみる
11	世界の実践の考察②	世界の取り組みについて調べてみる
12	まとめ：意見交換	「コロナ後の社会」を見据えて、ジェンダー、エスニシティ、マイノリティが大切にされる社会をつくっていくために
13	省略	省略
14	省略	省略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時資料を配布したり紹介したりするので、授業の前に目を通してきて下さい。

【テキスト（教科書）】

講義に関連したプリントを配布するため、テキストは指定しません。

【参考書】

■富坂キリスト教センター 在日朝鮮人の生活と住民自治研究会編『在日外国人の住民自治』（新幹社,2007）

■移住労働者と連帯する全国ネットワーク・入管法対策会議／在留カードに異議あり！NGO 実行委員会編集・発行『改定入管法 中長期在留者のための Q&A』、『改定入管法 非正規滞在者・難民申請者のための Q&A』、『改定入管特例法 特別永住者のための Q&A』（2011）
 ■ソーシャルデザイン会議実行委員会（著、編集）『希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン』（宣伝会議、2013）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。毎回の課題提出 60%、期末レポート 40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言する機会を増やし、ディスカッションなどを通じて考察を深める機会を増やしていきます。

【その他の重要事項】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will learn about minority issues through various social education activities.

Also for a sustainable society, will consider about issues, of "diversity", "gender", "ethnicity" and so on.

社会教育活動 I

桔川 純子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、持続可能な社会を形成していくにあたり必要不可欠な、マイノリティの問題、特に外国籍、外国にルーツをもつ人、女性たの問題に焦点を当て、「自分」に引きつけて考えていきます。

そして国内外のさまざまな取り組みを通じて、「ダイバーシティ」「内なる国際化」とは何かについて考察し、「ジェンダー」「エスニシティ」「マイノリティ」の問題について、グローバルな視点から分析できるようにします。そして、現在の全世界の状況に目を向けながら、「コロナ後の世界」を一緒に考えてみましょう。

初回のガイダンスを通じて受講生の興味・関心を把握し、講義に反映させる予定です。

【到達目標】

1. 国際社会における

日本や海外の事例を通じて「多文化共生」「エスニシティ」「内なる国際化」「ジェンダー」「マイノリティ」といったテーマについて、自分の身にひきつけて考察します。そして、社会教育・生涯教育の意義について、日本社会の状況と海外を比較しながら理解し、ディスカッションを重ね、思考を深めていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月21日（火）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

また、現在世界が大変な状況にあります。コロナ時代における課題を考えながら、授業を進めていきたいと思っています。詳細は学習支援システムで確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 「コロナの時代」において何を考えるのか	自己紹介、今後の授業の予定、授業の進め方、評価などについて。
2	ジェンダーとは何か	ジェンダーの定義。女性を取り巻く状況、「フェミニズム」「ジェンダー」について。
3	エスニシティとは何か	エスニシティの定義。日本における「多文化共生」の現状
4	セクシャルマイノリティと社会教育	セクシュアリティ、LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender) とは何か、そしてそれに関するムーブメントについて紹介し、考察する。
5	<人権>と社会教育	憲法で保障されている<人権>、関連する法律などを確認し、日常のなかの<人権意識>について考察する。
6	<ことば>のもつ意味と識字教育	差別を助長する<ことば>、配慮のある<ことば>について考える。
7	しくみ（法律、制度）について考えてみる	意識変容を促す<制度>とは
8	地域における実践の考察①	日本の<地域>について調べてみる。
9	地域における実践の考察②	日本の<地域>について調べてみる。
10	世界の実践の考察①	世界の取り組みについて調べてみる
11	世界の実践の考察②	世界の取り組みについて調べてみる
12	まとめ：意見交換	「コロナ後の社会」を見据えて、ジェンダー、エスニシティ、マイノリティが大切にされる社会をつくっていくために
13	省略	省略
14	省略	省略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時資料を配布したり紹介したりするので、授業の前に目を通してきて下さい。

【テキスト（教科書）】

講義に関連したプリントを配布するため、テキストは指定しません。

【参考書】

■富坂キリスト教センター 在日朝鮮人の生活と住民自治研究会編『在日外国人の住民自治』（新幹社,2007）

■移住労働者と連帯する全国ネットワーク・入管法対策会議／在留カードに異議あり！NGO 実行委員会編集・発行『改定入管法 中長期在留者のための Q&A』、『改定入管法 非正規滞在者・難民申請者のための Q&A』、『改定入管特例法 特別永住者のための Q&A』（2011）
 ■ソーシャルデザイン会議実行委員会（著、編集）『希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン』（宣伝会議、2013）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。毎回の課題提出 60%、期末レポート 40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言する機会を増やし、ディスカッションなどを通じて考察を深める機会を増やしていきます。

【その他の重要事項】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will learn about minority issues through various social education activities.

Also for a sustainable society, will consider about issues, of "diversity", "gender", "ethnicity" and so on.

【2016 年度以前入学者用】社会教育活動Ⅱ

佛木 完

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火 6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者の社会教育活動の具体的な事例や歴史を説明し、活動の背景にある時代状況を知ると共に、青年自身の悩み、要求と、活動を通して仲間や社会にどう関わってきたのかを学びます。具体的な学習素材としては、地域の「青年団活動」を例にとり、社会状況と活動内容を知ると共に、若者たちが地域活動や仲間集団を通して、学習し、人間関係を築き、社会に発信し、主体的な生き方を形成する様子を見ていきます。そして、現代の若者の課題と、社会教育や青年活動が果たす役割について考察します。

【到達目標】

地域青年団の性格や活動状況を理解しつつ、青年活動によって若者が成長する姿を学ぶと共に、その時代背景と青年活動や社会教育活動の意義について考察を深めます。

あわせて、雇用・労働環境、地域共同体や人間のコミュニケーションの变容の中で、若者が自己の価値観を形成し、多様な人間関係に向き合い、社会に能動的に働きかけながら主体的に生きる姿勢と視点を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回、テーマに応じたレジュメや資料、活動に携わった当事者の若者が書いたレポート、関連のビデオや映像などを用意し、それらを読み進めながら、地域青年団の活動や社会的な背景、若者が果たす役割などについて解説を加えていきます。あわせて、学生との意見交換も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域青年団の概要と授業概説	地域青年団の歴史、性格や目的、その活動内容について概説し、あわせて授業全体を通して目指したいことを説明します。
第 2 回	青年団と歴史背景の概観	戦後の荒廃の中から全国的に青年団が再結成されていく 50 年代から、高度経済成長政策を経て変貌する地域や社会、現在に向かっての変化と青年団の位置を考えます。
第 3 回	映画「同胞」に見る青年	過疎の村で劇団公演に取り組む青年団を描いた山田洋次監督の映画「同胞」から、地域で活動する若者の姿、若者集団が果たす役割について考えます。
第 4 回	若者たちの課題と学び	青年団の共同学習運動と青年問題研究集会を例に、若者たちが時代の中で生活上の課題をどのように捉え、何をどんな方法で学び、実践したのかを解説します。
第 5 回	青年団の地域活動	青年が地域の各層や他世代とどのようににかかわり、地域社会や生活課題に対してどんな働きかけをしていったのか、地域活動の系譜や各地でさまざまな繰り広げられる青年団の地域活動の具体的事例について学びます。
第 6 回	若者とスポーツ・文化活動	地域で青年団が取り組むスポーツ・文化活動から「全国青年大会」に至る過程で、青年たちが活動を通して編む人間関係、共感の形成を考えます。
第 7 回	青年団と地域文化	地域で継承されてきた祭りや文化事業、郷土芸能などに青年団がどのようににかかわっているかを学び、そこで果たす若者の役割について考えます。
第 8 回	青年団の社会活動	青年団の平和運動や女性活動など、平和・環境・国際関係・男女共同参画・子どもなどの問題に取り組む「社会活動」を通して、若者が学んできたことや社会に果たした役割について考えます。
第 9 回	青年団の平和運動（その 1）	青年団は社会活動の一つとして長年にわたって原水爆禁止運動など平和運動に取り組んできました。その原点となる戦争、広島、長崎の被爆の実相を学ぶ具体的な活動を解説します。

第 10 回	青年団の平和運動（その 2）	青年団の平和運動を通じて若者が学ぶものの、広義の平和に関してこれからの自分ができることについて考えます。
第 11 回	若者と子どもや他世代とのかかわり	子どもが育っていく社会環境の変化をふり返り、子どもたちの課題と、若者が他世代にかかわりながら若者自身が成長することを考えます。
第 12 回	現代の生きづらさと青年運動	貧困の問題、自殺、児童虐待、DV、介護など各世代を通じた現代の生きづらさ、人間の相互扶助と青年運動の果たす役割を考えます。
第 13 回	青年問題と青年運動	若者の雇用不安や自立の困難さ、孤立や疎外を越えて今後の展望をどう考えるのか。青年の問題と青年運動の果たす役割を考えます。
第 14 回	まとめ	これまで学んだことをふり返り、これからの社会の中で自分の生き方、共に支える人間関係のあり方、青年運動、社会教育について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた活動事例に関連する時代状況や社会的背景をできるだけ自己学習して、青年の置かれた環境や状況と社会の関係への理解を深め、疑問点は授業の中で再度確認をしてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せずに、授業の中でその都度、レジメや資料、青年たちの活動レポートなどを配布し、適宜、ビデオも活用し、参考文献を紹介します。

【参考書】

特に指定しませんが、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の終了前に提示したテーマに沿って、レポートを提出していただきます。授業への積極的な姿勢と授業で学んだことの考察のされ方を参考に、レポートを採点します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

若者たちはいつの時代も、進路や仕事、人間関係での模索、どう生きていくかという葛藤を抱えています。それを同世代の青年たちで共有し、社会に向けて何らかの発信をしていながら、若者は自分自身をも形成していくものです。若者は、社会の未来を創造する主体者でもあります。そんな若者の活動や生き方を共に考えてみたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about social education activities conducted by the youth of every era in our history ;the circumstances surrounding young people, their own anxieties, demands, and how they have been in contact with their colleagues and the society.
As for lecture materials, we will study about "Seinendan(Japanese traditional youth organization)" activities carried out by the youth throughout Japan. We will learn about how young people have been learning, making up relationships with others, communicating with the society and forming the way to live independently. Let's consider about modern youth's problems and the role played by social education and youth activities.

社会教育活動Ⅱ

佛木 完

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者の社会教育活動の具体的な事例や歴史を説明し、活動の背景にある時代状況を知ると共に、青年自身の悩み、要求と、活動を通して仲間や社会にどう関わってきたのかを学びます。具体的な学習素材としては、地域の「青年団活動」を例にとり、社会状況と活動内容を知ると共に、若者たちが地域活動や仲間集団を通して、学習し、人間関係を築き、社会に発信し、主体的な生き方を形成する様子を見ていきます。そして、現代の若者の課題と、社会教育や青年活動が果たす役割について考察します。

【到達目標】

地域青年団の性格や活動状況を理解しつつ、青年活動によって若者が成長する姿を学ぶと共に、その時代背景と青年活動や社会教育活動の意義について考察を深めます。

あわせて、雇用・労働環境、地域共同体や人間のコミュニケーションの変容の中で、若者が自己の価値観を形成し、多様な人間関係に向き合い、社会に能動的に働きかけながら主体的に生きる姿勢と視点を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回、テーマに応じたレジメや資料、活動に携わった当事者の若者が書いたレポート、関連のビデオや映像などを用意し、それらを読み進めながら、地域青年団の活動や社会的な背景、若者が果たす役割などについて解説を加えていきます。あわせて、学生との意見交換も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域青年団の概要と授業概説	地域青年団の歴史、性格や目的、その活動内容について概説し、あわせて授業全体を通して目指したいことを説明します。
第 2 回	青年団と歴史背景の概観	戦後の荒廃の中から全国的に青年団が再結成されていく 50 年代から、高度経済成長政策を経て変貌する地域や社会、現在に向かっての変化と青年団の位置を考えます。
第 3 回	映画「同胞」に見る青年	過疎の村で劇団公演に取り組む青年団を描いた山田洋次監督の映画「同胞」から、地域で活動する若者の姿、若者集団が果たす役割について考えます。
第 4 回	若者たちの課題と学び	青年団の共同学習運動と青年問題研究集会を例に、若者たちが時代の中で生活上の課題をどのように捉え、何をどんな方法で学び、実践したのかを解説します。
第 5 回	青年団の地域活動	青年が地域の各層や他世代とどのようににかかわり、地域社会や生活課題に対してどんな働きかけをしていったのか、地域活動の系譜や各地でさまざまな繰り広げられる青年団の地域活動の具体的な事例について学びます。
第 6 回	若者とスポーツ・文化活動	地域で青年団が取り組むスポーツ・文化活動から「全国青年大会」に至る過程で、青年たちが活動を通して編む人間関係、共感の形成を考えます。
第 7 回	青年団と地域文化	地域で継承されてきた祭りや文化事業、郷土芸能などに青年団がどのようににかかわっているかを学び、そこで果たす若者の役割について考えます。
第 8 回	青年団の社会活動	青年団の平和運動や女性活動など、平和・環境・国際関係・男女共同参画・子どもなどの問題に取り組む「社会活動」を通して、若者が学んできたことや社会に果たした役割について考えます。
第 9 回	青年団の平和運動（その 1）	青年団は社会活動の一つとして長年にわたって原水爆禁止運動など平和運動に取り組んできました。その原点となる戦争、広島、長崎の被爆の実相を学ぶ具体的な活動を解説します。
第 10 回	青年団の平和運動（その 2）	青年団の平和運動を通じて若者が学ぶものの、広義の平和に関してこれからの自分ができることについて考えます。

単位：2 単位 | 開講セメスター：年間

社会教育施設等において定期的にわたり日働し実習を行う場合 (A) や、宿泊形態により短期間で行う場合 (B)、半日程度の実習を数カ月にわたり行う場合 (C) など、多様な実施形態が考えられ、実習先についても公民館や青少年施設のほか、地域や施設の事情を踏まえ、社会教育主事の職務遂行に求められる実践的な能力の養成に効果的な取組を行う。社会教育施設等において実習を行う。実習にあたっては、事前授業において社会教育主事等の役割をとその意義を理解する。事後授業においては、実習の反省とまとめを各自の発表（実習報告）のもとに行う。

地域や施設の事情を踏まえ、社会教育主事の職務に求められる実践ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会教育施設等に一定期間にわたり日勤し実習を行う場合 (A) や、宿泊形態により短期間で行う場合 (B)、半日程度の実習を数カ月にわたり行う場合 (C) から選択して実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

あり / Yes

回	テーマ	内容
講義	ガイダンス	過去の実習報告を読む
実習	社会教育施設実習＜選択型＞	A タイプ＝社会教育施設等に一定期間にわたり日勤し実習を行う場合 B タイプ＝宿泊形態により短期間で行う場合 C タイプ＝半日程度の実習を数カ月にわたり行う場合（約 9 日間）

実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	社会教育関連施設体験実	トヨタ白川郷自然学校（9/6～9予定）

実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
実習	同上	同上
講義	ふりかえり	実習報告の共有

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

日本環境教育学会監修「知る・わかる・伝える SDGs」シリーズ第1巻から第3巻のうちの何か1冊（学文社）（トヨタ白川郷自然学校（9/6～9）の参加費に含まれる）

隨時紹介する。

実習報告書（選択実習及び社会教育関連施設体験）の提出と内容によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
開講初年度のため、次年度からアンケートの結果を踏まえて改善する予定である。

【Outline and objectives】

This course will focus on activities that cultivate practical abilities required to accomplish tasks as social education supervisor. Activities can be practiced in various ways, which will be taken place such as community center and youth education facilities and will be proceeded regarding to circumstances of local community and social education institution.

In the preparation class, participants will understand the role and meaning of social education supervisors. In the follow-up class, participants will review and evaluate their work by making presentation for the class.

【2016 年度以前入学者用】ミュージアム資料保存論

今野 農

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：土 4 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における基本的な機能の1つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】

講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得できる。これら一連の講義を経過して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤を形成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 25 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第 2 回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第 3 回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第 4 回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第 5 回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
配布資料	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。このテーマについては、資料の配布のみで代替とする。
第 6 回	温湿度による劣化と対策	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第 7 回	有害物質、および光による劣化と対策	有害物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第 8 回	生物による劣化と対策	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、I P M（総合的有害生物管理）について解説する。
第 9 回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第 10 回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第 11 回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
配布資料	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。このテーマについては、資料の配布のみで代替とする。
第 12 回	試験・まとめと解説	これまでの講義のまとめとして、博物館資料の保存に対する学芸員の役割を解説し、今後の課題を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・博物館に関する情報を Web など積極的に収集し、多くの館が開館された後は、資料保存の観点から、資料や、館の立地、建築、設備、展示手法、博物館建築などを観察する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

・石崎武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画
・金山喜昭・他（監修）（2020.1）『博物館を支える学芸員の仕事』第1巻 資料の収集と保管（DVD）

【成績評価の方法と基準】

春オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的には、平常点：70%程度、最終レポート：30%程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

知識の習熟の項目や小テストの試みが高評価であったため、講義内容や構成は維持しつつ、予習・復習等、日頃の学習活動に対して積極的に取り組めるような課題づくりを心掛ける。配布資料のレイアウト（余白）については、必要があれば、各自でメモ用のノートを用意しておくこと。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

博物館資料保存論

今野 農

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における基本的な機能の1つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに對する意識の向上を目指す。

【到達目標】

講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤を形成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月25日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第2回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第3回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第4回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第5回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
配布資料	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。このテーマについては、資料の配布のみで代替とする。
第6回	温湿度による劣化と対策	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第7回	有害物質、および光による劣化と対策	有害物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第8回	生物による劣化と対策	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、IPM（総合的有害生物管理）について解説する。
第9回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第10回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第11回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
配布資料	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。このテーマについては、資料の配布のみで代替とする。
第12回	試験・まとめと解説	これまでの講義のまとめとして、博物館資料の保存に対する学芸員の役割を解説し、今後の課題を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・博物館に関する情報を Web など積極的に収集し、多くの館が開館された後は、資料保存の観点から、資料や、館の立地、建築、設備、展示手法、博物館建築などを観察する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

・石崎武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社

・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
 ・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画
 ・金山喜昭・他（監修）（2020.1）『博物館を支える学芸員の仕事』第1巻 資料の収集と保管（DVD）

【成績評価の方法と基準】

春オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的には、平常点：70%程度、最終レポート：30%程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

知識の習熟の項目や小テストの試みが高評価であったため、講義内容や構成は維持しつつ、予習・復習等、日頃の学習活動に対して積極的に取り組めるような課題づくりを心掛ける。配布資料のレイアウト（余白）については、必要があれば、各自でメモ用のノートを用意しておくこと。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

【2016 年度以前入学者用】ミュージアム資料保存論

清水 玲子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：金 3 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】

博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。
 到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に着けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には講義形式であるが、資格取得の為の授業であっても、聞くという受身ではなく、自ら考える姿勢が学芸員には必須な素養であることから、ワークショップと発表を実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義	オリエンテーション・博物館資料とは何か	講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明
講義	資料保存の意義	博物館が資料を蒐集し、保存することについて様々な角度からその意義について考える
講義	資料の梱包と輸送	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について
講義	保存の諸条件 1（温・湿度）	資料を保存する環境について、劣化要因として温度と湿度に関して
講義	保存の諸条件 2（光）	資料を展示する際の環境を中心に、劣化要因となる光について
講義	生物被害と IPM	資料における生物の被害と、総合的病害虫管理（IPM：Integrated Pest Management）について
講義	保存の諸条件 3（その他）	温湿度、光、生物以外の劣化要因と留意点について
講義	収蔵と展示	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について
講義	自然災害と資料保存	災害の多い日本において、資料を守るための対策と被災後の対応について
講義	修復・修理	美術資料を中心に修復の方法とこれまで修復された文化財を見ていく
講義	文化財の保存と活用	文化財の保護から活用へ社会的な位置づけが大きく変わった中で、未来へ資料を受け継ぐ為の対策や課題を考えていく
ワークシ ョップ	地域資源の保全と博物館の役割	地域の文化財保護における博物館の役割と、博物館の在るべき姿をみんなで考える。
ワークシ ョップ	博物館の役割とは何か	前回のワークショップのまとめと発表
講義	まとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・多種多様な博物館を見学する。
 ・ただ、見学するのではなく、自ら疑問点を見つける。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】

『歴史を未来につなぐ：「3・11 からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019 年 5 月
 金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017 年 3 月
 奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会（地域づくりの基礎知識 1）』神戸大学出版会、2018 年 1 月

吉田 正人『世界遺産を問い直す』山と溪谷社、2018 年 8 月
*その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）通常レポート（講義内課題提示）（40%）平常点（10%）及び出席状況、授業態度などから総合的に評価する。
資格取得の為の授業ではあるが、到達目標に書いた通り、学生自身が自ら考えることを求めているので、「自ら考え、自ら言葉で語っているか」を評価基準とする。

* 14 回の講義の内、数回の課題を課す予定。

*詳細は、第 1 回目の講義で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・協力を得ることができれば、「野上記念法政大学能楽研究所」における見学を実施したいと考えている。履修者の状況などを考慮し、確定予定である。
・授業スライドの写真撮影は許可しない。筆記することが望ましいが、間に合わない場合などは対応するので申し出て欲しい。

【Outline and objectives】

Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

博物館資料保存論

清水 玲子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】

博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。

到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に着けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には講義形式であるが、資格取得の為の授業であっても、聞くという受身ではなく、自ら考える姿勢が学芸員には必須な素養であることから、ワークショップと発表を実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義	オリエンテーション・博物館資料とは何か	講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明
講義	資料保存の意義	博物館が資料を蒐集し、保存することについて様々な角度からその意義について考える
講義	資料の梱包と輸送	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について
講義	保存の諸条件 1（温・湿度）	資料を保存する環境について、劣化要因として温度と湿度に関して
講義	保存の諸条件 2（光）	資料を展示する際の環境を中心に、劣化要因となる光について
講義	生物被害と IPM	資料における生物の被害と、総合的病害虫管理（IPM：Integrated Pest Management）について
講義	保存の諸条件 3（その他）	温湿度、光、生物以外の劣化要因と留意点について
講義	収蔵と展示	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について
講義	自然災害と資料保存	災害の多い日本において、資料を守るための対策と被災後の対応について
講義	修復・修理	美術資料を中心に修復の方法とこれまで修復された文化財を見ていく
講義	文化財の保存と活用	文化財の保護から活用へ社会的な位置づけが大きく変わった中で、未来へ資料を受け継ぐ為の対策や課題を考えていく
ワークシ ョップ	地域資源の保全と博物館の役割	地域の文化財保護における博物館の役割と、博物館の在るべき姿をみんなで考える。
ワークシ ョップ	博物館の役割とは何か	前回のワークショップのまとめと発表
講義	まとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・多種多様な博物館を見学する。
・ただ、見学するのではなく、自ら疑問点を見つける。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】

『歴史を未来につなぐ：「3・11 からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019 年 5 月
金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017 年 3 月
奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会（地域づくりの基礎知識 1）』神戸大学出版会、2018 年 1 月
吉田 正人『世界遺産を問い直す』山と溪谷社、2018 年 8 月

*その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）通常レポート（講義内課題提示）（40%）平常点（10%）及び出席状況、授業態度などから総合的に評価する。

資格取得の為の授業ではあるが、到達目標に書いた通り、学生自身が自ら考えることを求めているので、「自ら考え、自ら言葉で語っているか」を評価基準とする。

* 14 回の講義の内、数回の課題を課す予定。

*詳細は、第 1 回目の講義で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・協力を得ることができれば、「野上記念法政大学能楽研究所」における見学を実施したいと考えている。履修者の状況などを考慮し、確定予定である。
・授業スライドの写真撮影は許可しない。筆記することが望ましいが、間に合わない場合などは対応するので申し出て欲しい。

【Outline and objectives】

Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

【2016 年度以前入学者用】ミ
ュージアム展示論

渡邊 尚樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木 4 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニクについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的评价を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップを取り入れることで、さらに興味を持たせる工夫が必要と感じた。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

博物館展示論

渡邊 尚樹

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニクについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップを取り入れることで、さらに興味を持たせる工夫が必要と感じた。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

【2016 年度以前入学者用】ミュージアム展示論

渡邊 尚樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：土 1 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

学習支援システムで授業が開始されるのは4月25日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ、展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
4	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
5	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
6	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ、物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
7	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
8	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
9	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
10	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
11	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
12	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %（講義再開後）、課題 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップを取り入れることで、さらに興味を持たせる工夫が必要と感じた。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

博物館展示論

渡邊 尚樹

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。
学習支援システムで授業が開始されるのは4月25日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ、展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
4	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間の作り方を学ぶ
5	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
6	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ、物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
7	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
8	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
9	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
10	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
11	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
12	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的评价を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %（講義再開後）、課題 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップを取り入れることで、さらに興味を持たせる工夫が必要と感じた。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

【2016 年度以前入学者用】ミュージアム情報・メディア論

柏女 弘道

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火 1 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】

博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は 4 月 28 日（火）を初回授業開始日とする。
本授業は学習支援システムにレジュメ等を掲示し、それに対して課題を課す等でオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 博物館における情報	【オンラインで実施】 授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	【第 2 回以降は今後適宜修正を行う】	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	ICT 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化①	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化②	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化③	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 10 回	博物館情報の管理と公開	情報管理や情報公開の方法を説明するとともに、情報の整備・管理・発信時における課題や、博物館情報を支える人々についても触れる。
第 11 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 12 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 13 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、如何に知的財産として整備していくのかについても触れる。
第 14 回	まとめ	市民が自らの学習成果、生き方や活動を発信したり、交流をする場としての地域博物館のあり方を、実際の地域博物館の活動を事例に紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013 年）
K. マックリーン著、井島真知・芦谷美奈子訳『博物館をみせる-人々のための
展示プランニング-』（玉川大学出版部、2003 年）

日本展示学会編『展示論—博物館の展示をつくる—』（雄山閣、2010 年）
大堀哲、水島英治編『博物館学 III — 博物館情報・メディア論・博物館経営
論』（学文社、2012 年）

金山喜昭著『公立博物館を NPO に任せたら—市民・自治体・地域の連携—』（同成社、2012 年）

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 55 %、レポート 45 %。詳しくは初回授業の 4 月 28 日（火）にガイ
ダンス資料を学習支援システムに掲載し、説明を行う。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

博物館について日ごろから興味関心を持ち、各自授業外の学習活動を積極的
に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信す
るためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自
出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline and objectives】

Think about how to make use of information in museums

博物館情報・メディア論

柏女 弘道

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】

博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博
物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は 4 月 28 日（火）を初回授業開始日とする。

本授業は学習支援システムにレジュメ等を掲載し、それに対して課題を課す
等でオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 博物館における情報	【オンラインで実施】 授業ガイダンスとともに、博物館にお ける情報とは何かについて概説し、そ の意義と重要性を伝える。
第 2 回	【第 2 回以降は今後適宜 修正を行う】	視聴覚メディアの発展について説明す るとともに、博物館のメディアとして の役割について解説する。
第 3 回	ICT 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情 報倫理、さらには学校や図書館、研究 機関とのネットワークなどを、現在の 博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化①	博物館の調査研究活動における情報の 活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化②	博物館の展示活動における情報の活用 と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化③	博物館の教育普及活動や学習活動にお ける情報の活用と展開について紹介す る。
第 7 回	資料のドキュメンテー ションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータ ベース化の手順や、博物館における実 施状況、活用・展開事例について説明 する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現 状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれている デジタルアーカイブ事業を概説する とともに、今後の可能性と課題につい て説明する。
第 9 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明す るとともに、映像の活用事例に触れな がら、その特徴や課題などを取り上げ る。
第 10 回	博物館情報の管理と公開	情報管理や情報公開の方法を説明する とともに、情報の整備・管理・発信時 における課題や、博物館情報を支える 人々についても触れる。
第 11 回	博物館における情報機器 の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器 の活用という観点から、現在の博物館 や今後の可能性について解説する。
第 12 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインター ネットの活用状況を説明するととも に、今後の展開についても解説する。
第 13 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報な ど、博物館情報の構築・発信に伴う権 利や法令などについて伝えるととも に、如何に知的財産として整備してい くのかについても触れる。
第 14 回	まとめ	市民が自らの学習成果、生き方や活動 を発信したり、交流をする場としての 地域博物館のあり方を、実際の地域博 物館の活動を事例で紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージで
きるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サ
イトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネッ
ト、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活
動を行う。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013 年）
K. マックリーン著、井島真知・芦谷美奈子訳『博物館をみせる-人々のための展示プランニング-』（玉川大学出版部、2003 年）
日本展示学会編『展示論—博物館の展示をつくる—』（雄山閣、2010 年）
大堀哲、水島英治編『博物館学 III — 博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012 年）
金山喜昭著『公立博物館を NPO に任せたら—市民・自治体・地域の連携—』（同成社、2012 年）
全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 55 %、レポート 45 %。詳しくは初回授業の 4 月 28 日（火）にガイダンス資料を学習支援システムに掲載し、説明を行う。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

博物館について日ごろから興味関心を持ち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline and objectives】

Think about how to make use of information in museums

【2016 年度以前入学者用】ミュージアム情報・メディア論

石川 貴敏

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：金 5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いので、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。

【到達目標】

将来、博物館に関連する仕事を志す者に対しては、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける事を目指します。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す者に対しては、博物館における情報の活用方法などを伝え、博物館の賢い利用者、理解者となるよう、ミュージアム・リテラシーを高めることも目標の一つに据えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。講義毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に受講者の意見を踏まえながら講義内容の工夫を図っていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	I C T 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化＜調査研究活動＞	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化＜展示活動＞	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化＜教育普及活動・学習活動＞	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 10 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 11 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 12 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、情報の整備・管理・発信時における課題についても触れる。
第 13 回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。
第 14 回	博物館における情報・メディア戦略（まとめ）	博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日的課題を通して、今、求められている博物館情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けるつもりです。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知っていないと内容が理解できないかもしれません。各自、授業外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、授業時に配布します。

【参考書】

『博物館学 III ― 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著、学文社、2012 年）
『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（西岡貞一・篠田謙一編著、放送大学教育振興会、2013 年）
『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（稲村哲也・近藤智嗣編著、放送大学教育振興会、2018 年）
『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編、ぎょうせい、2013 年）
『展示論－博物館の展示をつくる－』（日本展示学会編、雄山閣、2010 年）
『博物館展示論（K S 理工学専門書）』（黒沢浩編著、講談社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

期末にレポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えています）を提示します。「平常点」と「レポート課題（与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを判断します）」で総合的に評価します。「平常点 40 %（40 点）」「レポート課題 60 %（60 点）」の配分（合計 100 点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本講義に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せています。国からも新たな施策や指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、受講者と意見を交わしていけたらと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

本講義では、講義資料（パワーポイント等）・配布資料（授業時に配布します）とともに、インターネットを介した個別の事例（取組）を紹介します。インターネットにアクセスできる情報機器（スマートフォン等）は準備できると望ましいです。また、各回の内容を復習できるように、講義資料や講義で紹介した事例（取組）の URL は授業支援システムを利用して掲載することを考えています。

【その他の重要事項】

ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、約 30 年間の実務経験を有しています。そのうち 20 年以上にわたって、情報部門の責任者を務めてきました。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当したり、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業に従事しました。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline and objectives】

We will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also present about the present situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, we will try to devise new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments.

博物館情報・メディア論

石川 貴敏

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。

【到達目標】

将来、博物館に関連する仕事を志す者に対しては、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける事を目指します。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す者に対しては、博物館における情報の活用方法などを伝え、博物館の賢い利用者、理解者となるよう、ミュージアム・リテラシーを高めることも目標の一つに据えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。講義毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に受講者の意見を踏まえながら講義内容の工夫を図っていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	I C T 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化＜調査研究活動＞	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化＜展示活動＞	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化＜教育普及活動・学習活動＞	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 10 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 11 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 12 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、情報の整備・管理・発信時における課題についても触れる。
第 13 回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。
第 14 回	博物館における情報・メディア戦略（まとめ）	博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日の課題を通して、今、求められている博物館情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けるつもりです。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知っていないと内容が理解できないかもしれません。各自、授業外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、授業時に配布します。

【参考書】

『博物館学 III ― 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著、学文社、2012 年）
『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（西岡貞一・篠田謙一編著、放送大学教育振興会、2013 年）
『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（稲村哲也・近藤智嗣編著、放送大学教育振興会、2018 年）
『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編、ぎょうせい、2013 年）
『展示論－博物館の展示をつくる－』（日本展示学会編、雄山閣、2010 年）
『博物館展示論（K S 理工学専門書）』（黒沢浩編著、講談社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

期末にレポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えています）を提示します。「平常点」と「レポート課題（与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを判断します）」で総合的に評価します。「平常点 40 %（40 点）」「レポート課題 60 %（60 点）」の配分（合計 100 点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本講義に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せています。国からも新たな施策や指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、受講者と意見を交わしていけたらと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

本講義では、講義資料（パワーポイント等）・配布資料（授業時に配布します）とともに、インターネットを介した個別の事例（取組）を紹介します。インターネットにアクセスできる情報機器（スマートフォン等）は準備できると望ましいです。また、各回の内容を復習できるように、講義資料や講義で紹介した事例（取組）の URL は授業支援システムを利用して掲載することを考えています。

【その他の重要事項】

ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、約 30 年間の実務経験を有しています。そのうち 20 年以上にわたって、情報部門の責任者を務めてきました。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当したり、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業に従事しました。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline and objectives】

We will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also present about the present situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, we will try to devise new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments.

【2016 年度以前入学者用】博物館実習 I

田中 裕二

単位数：2 単位 | 開講セメスター：年間

曜日・時限：土 2 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館学芸員として必要な実務に係る諸技能を実習で学ぶ。

【到達目標】

博物館に係る実務に則しながら、学芸員としての心得や技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるが、その中でも資料の取り扱い方や、資料の記録・整理・展示を中心に、博物館運営に関わる実践的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期は 4 月 2 5 日（土）から学習支援システムを利用してオンラインでの授業を開始する予定。詳細については学習支援システムを参照のこと。後期は各種資料の取り扱いや資料の展示方法を学び、博物館活動の基礎となる実務を修得するため実習形式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	実習全体の事前指導を行うガイダンス。博物館学芸員の仕事・実務について概観する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：風）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（風）の整理・実測（1）
第 4 回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（風）の整理・実測（2）
第 5 回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（風）の整理・実測（3）
第 6 回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（風）の整理・実測（4）
第 7 回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料（風）の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第 8 回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 9 回	博物館資料の取り扱いⅦ	文書類の調査・観察・記録（1）
第 10 回	博物館資料の取り扱いⅧ	文書類の調査・観察・記録（2）
第 11 回	博物館資料の取り扱いⅨ	文書類の調査・観察・記録（3）
第 12 回	博物館資料の取り扱いⅩ	文書類の調査・観察・記録（4）
第 13 回	博物館資料の取り扱いⅪ	文書類の調査・観察・記録（5）
第 14 回	博物館見学会	実地調査。東京及び関東近郊の博物館で学芸員から解説を受け、実態を理解する。
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する
第 16 回	コレクション調査（調査報告）	I 夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査（調査報告）	II 夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査（調査報告）	III 夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査（調査報告）	IV 夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理Ⅰ	収集した資料のクリーニング。
第 21 回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の梱包	資料の梱包資材・梱包作業
第 24 回	博物館資料の展示実技Ⅰ	美術資料（掛軸・卷子・画帳）の取り扱いと展示作業
第 25 回	博物館資料の展示実技Ⅱ	美術資料（掛軸・卷子・画帖）の取り扱いと展示作業
第 26 回	パネルの作成	I 解説文を書き、パネルを作成する。

第 27 回	パネルの作成 II	作成したパネルを展示する。
第 28 回	事後指導	実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み期間中に資料の収集調査をしてもらいます。実地調査に必要な旅費交通費や入館料など各自の負担となります。収集調査した結果は授業内で発表してもらう予定です。詳細については授業内で周知します。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50 %) と課題の提出 (50 %) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業で希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は授業内で指示するが、資格課程実習準備室の掲示などを適宜確認すること。

【Outline and objectives】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at a museum.

博物館実習 I

田中 裕二

単位：2 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館学芸員として必要な実務に係る諸技能を実習で学ぶ。

【到達目標】

博物館に係る実務に則しながら、学芸員としての心得や技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるが、その中でも資料の取り扱い方や、資料の記録・整理・展示を中心に、博物館運営に関わる実践的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期は 4 月 25 日（土）から学習支援システムを利用してオンラインでの授業を開始する予定。詳細については学習支援システムを参照のこと。後期は各種資料の取り扱いや資料の展示方法を学び、博物館活動の基礎となる実務を修得するため実習形式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	実習全体の事前指導を行うガイダンス。博物館学芸員の仕事・実務について概観する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：風）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（風）の整理・実測（1）
第 4 回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（風）の整理・実測（2）
第 5 回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（風）の整理・実測（3）
第 6 回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（風）の整理・実測（4）
第 7 回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料（風）の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第 8 回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 9 回	博物館資料の取り扱いⅦ	文書類の調査・観察・記録（1）
第 10 回	博物館資料の取り扱いⅧ	文書類の調査・観察・記録（2）
第 11 回	博物館資料の取り扱いⅨ	文書類の調査・観察・記録（3）
第 12 回	博物館資料の取り扱いⅩ	文書類の調査・観察・記録（4）
第 13 回	博物館資料の取り扱いⅪ	文書類の調査・観察・記録（5）
第 14 回	博物館見学会	実地調査。東京及び関東近郊の博物館で学芸員から解説を受け、実態を理解する。
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する
第 16 回	コレクション調査（調査報告）	I 夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査（調査報告）	II 夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査（調査報告）	III 夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査（調査報告）	IV 夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理Ⅰ	収集した資料のクリーニング。
第 21 回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の梱包	資料の梱包資材・梱包作業
第 24 回	博物館資料の展示実技Ⅰ	美術資料（掛軸・巻子・画帳）の取り扱いと展示作業
第 25 回	博物館資料の展示実技Ⅱ	美術資料（掛軸・巻子・画帖）の取り扱いと展示作業
第 26 回	パネルの作成Ⅰ	解説文を書き、パネルを作成する。
第 27 回	パネルの作成Ⅱ	作成したパネルを展示する。

第 28 回 事後指導 実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み期間中に資料の収集調査をしてもらいます。実地調査に必要な旅費交通費や入館料など各自の負担となります。収集調査した結果は授業内で発表してもらう予定です。詳細については授業内で周知します。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50 %) と課題の提出 (50 %) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業で希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は授業内で指示するが、資格課程実習準備室の掲示などを適宜確認すること。

【Outline and objectives】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at a museum.

【2016 年度以前入学者用】博物館実習 I

金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：年間

曜日・時限：木 3 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の実務に関わる業務を実習する。

【到達目標】

博物館にかかわる実務を中心に学習しながら、学芸員としての心構えや技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるものであり、博物館の役割や機能に応じた活動が求められる。実務実習として、実際に資料を取り扱い、資料の観察・記録・整理・展示のほか、博物館運営に関わる実践的能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の授業の開始は 5 月 7 日にする。以後、7 月 9 日までの毎週木曜日の授業時間内 (3 時限) に資料や課題を学習支援システムにアップするので、次週の授業時間までに課題を提出する。宿題は、毎回の授業時までに提出する。それ以降の課題の提出は認められない。課題レポート (1 回) のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。7 月 16 日までに提出する。平常点は毎回授業で出題する宿題の提出をもってそれにあてる。また、シラバスの内容を 10 回の授業回数に集約するため、授業の進行は必ずしもシラバスに示した順序に従うものではない。後期には各種の資料の取り扱いや資料の製作を学ぶなど、博物館活動の基礎となる実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い (実務実習のための指導)	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：風）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	学芸員の仕事	映像学習
第 4 回	学芸員の仕事	映像学習
第 5 回	学芸員の仕事	映像学習
第 6 回	学芸員の仕事	映像学習
第 7 回	学芸員の仕事	映像学習
第 8 回	学芸員の仕事	映像学習
第 9 回	学芸員の仕事	映像学習
第 10 回	学芸員の仕事	映像学習
第 11 回	学芸員の仕事	映像学習
第 12 回	学芸員の仕事	映像学習
第 13 回	学芸員の仕事	映像学習
第 14 回	総括	春学期の授業内容を整理する。
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する
第 16 回	コレクション調査 (調査報告)	I 夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査 (調査報告)	II 夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査 (調査報告)	III 夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査 (調査報告)	IV 夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理 I	拓本（実習）
第 21 回	博物館資料の整理 II	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理 III	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の整理 IV	博物館関連講座の取材・記録・資料化
第 24 回	博物館資料の梱包	資料の梱包・運搬
第 25 回	博物館資料の展示実技	美術資料（掛軸・画帖）の取り扱いと展示体験
第 26 回	教材製作実習・篆刻 I	篆刻・文字・落款の解説、製作
第 27 回	教材製作実習・篆刻 II	篆刻の製作
第 28 回	事後指導	課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み中に資料収集をすることや、篆刻はホームワークとする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と課題レポートの提出（60％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は25名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline and objectives】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at the museum.

博物館実習Ⅰ

金山 喜昭

単位：2単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の実務に関わる業務を実習する。

【到達目標】

博物館にかかわる実務を中心に学習しながら、学芸員としての心構えや技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるものであり、博物館の役割や機能に応じた活動が求められる。実務実習として、実際に資料を取り扱い、資料の観察・記録・整理・展示のほか、博物館運営に関わる実践的能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の授業の開始は5月7日にする。以後、7月9日までの毎週木曜日の授業時間内（3時限）に資料や課題を学習支援システムにアップするので、次週の授業時間までに課題を提出する。宿題は、毎回の授業時までに出す。それ以降の課題の提出は認められない。課題レポート（1回）のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。7月16日までに提出する。平常点は毎回授業で出題する宿題の提出をもってそれにあてる。また、シラバスの内容を10回の授業回数に集約するため、授業の進行は必ずしもシラバスに示した順序に従うものではない。後期には各種の資料の取り扱いや資料の製作を学ぶなど、博物館活動の基礎となる実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第2回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：風）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第3回	学芸員の仕事	映像学習
第4回	学芸員の仕事	映像学習
第5回	学芸員の仕事	映像学習
第6回	学芸員の仕事	映像学習
第7回	学芸員の仕事	映像学習
第8回	学芸員の仕事	映像学習
第9回	学芸員の仕事	映像学習
第10回	学芸員の仕事	映像学習
第11回	学芸員の仕事	映像学習
第12回	学芸員の仕事	映像学習
第13回	学芸員の仕事	映像学習
第14回	総括	春学期の授業内容を整理する。
第15回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する
第16回	コレクション調査（調査報告）	I 夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第17回	コレクション調査（調査報告）	II 夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第18回	コレクション調査（調査報告）	III 夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第19回	コレクション調査（調査報告）	IV 夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第20回	博物館資料の整理Ⅰ	拓本（実習）
第21回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第22回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第23回	博物館資料の整理Ⅳ	博物館関連講座の取材・記録・資料化
第24回	博物館資料の梱包	資料の梱包・運搬
第25回	博物館資料の展示実技	美術資料（掛軸・画帖）の取り扱いと展示体験
第26回	教材製作実習・篆刻Ⅰ	篆刻・文字・落款の解説、製作
第27回	教材製作実習・篆刻Ⅱ	篆刻の製作
第28回	事後指導	課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み中に資料収集をすることや、篆刻はホームワークとする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）と課題レポートの提出（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline and objectives】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at the museum.

【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅱ

小西 雅徳

単位数：2 単位 | 開講セメスター：年間

曜日・時限：月 3 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館は奥の深い世界です。学芸員のスタンスとして博物館活動の花形である企画展実施過程の手法を学んでいきます。日本の博物館ではコレクションの関係や館規模、組織等の問題から、集客性に重点を置いた企画展を重視する傾向があります。これは世界的にみても特異な現象ですが、企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、個人の企画力やグループ討議を通じて企画展実施のノウハウを学びながら、博物館の裏方を支える学芸員の世界をのぞいてみましょう。今年はコロナウイルスの関係で前期は学習支援システムからの教材提供と授業内容確認となりますが、規制が解除となった時点で講義へと移行します。

【到達目標】

日本の博物館活動では企画展あるいは特別展と呼ばれる集客性を重視した企画が必要とされます。そのため学芸員も企画展を前提に活動を行うことが求められています。企画展を実施するには、多様な価値観や専門性に加え基本となる企画展実施の工程・過程を学ぶ必要があり、この授業では 1 年間を通じて企画展実施までの様々な手法やその時々の流行を捉え、博物館現場の実践をシミュレーションして学んでいきます。博物館学という基礎能力の構築と同時に豊かな企画展創造への個々人のスタイルと発想力を引き出していきます。個人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想・発表し到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業内容は、前期と後期とを通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程と手順、③グループ発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが博物館の展示状況をスライドで紹介し、後期はグループ発表準備にあてます。個々人の企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制をグループワークを通じて模擬体験します。発表はパワーポイントとなります。レポート課題を随時課していきます。前期は学習支援システムからの講義資料配布となりますが、規制解除後は講義となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 博物館展示と学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や実情を紹介し
第 2 回	博物館展示の時代的、地域的推移について（概説）	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証しつつ、海外と日本の学芸員のスタイルについて紹介します。
第 3 回	日本と海外の企画展の違いについて	日本と海外における企画展の実態を紹介します。国内の企画展数は約 1 万件近くに上る一方で、海外で時間をかけた展示が多いようです。
第 4 回	スライド（海外博物館の展示状況）	欧米博物館・美術館の展示状況をスライドで解説します。
第 5 回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順－その 1－展示のための素材探し、種・ヒントの探し方を考える。
第 6 回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみる	企画展実施までの工程手順－その 2－成功した企画展例を基に、自分なりにシミュレーションしてみる。
第 7 回	展示構想と企画書 企画展を構想する①	展示構想の内容と要点について説明し、盛り込む内容を整理する。課題として企画書を作成する。
第 8 回	レポート課題	前回までの展示の進め方を参考に自分が取り組んでみたい企画展を構想し提出してください。
第 9 回	展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示室の空間やケースの配置、照明計画のあり方を説明する。
第 10 回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員存在理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。ライターとしての学芸員像を提示する。
第 11 回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。またサイン作成も重要。
第 12 回	展示図録・パンフレット等の作成手順	図録やポスター等の印刷物作成手順を学ぶ。

発行日：2020/5/1

第 13 回	借用交渉と調査	学芸員の力量は資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。資料をみて調査を作成する。
第 14 回	資料保存修復の仕方について	展示を実施する際に資料の修復等を行うことがある。どのような状況で行うのかその実際例を紹介する。
第 15 回	資料目録の作成手順	展示の第一歩は出展目録の作成にある。展示資料の 1 次候補から 2 次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始める。
第 16 回	企画展を構想する②	学生自身で企画展を構想提示し発表する。優れた企画案について議論を深める。
第 17 回	情報端末導入について	大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。
第 18 回	企画展実施① グループ紹介と自己の主張について	5 人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第 19 回	企画展実施② グループ企画展から発表題を絞り込む	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第 20 回	企画展実施③ 展示企画の具体像を提示していく	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 21 回	企画展実施④ 展示企画の具体像の作文化	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 22 回	企画展実施⑤ 教育普及と観覧者の希望する展示とは何かを考える	企画展における教育普及のあり方を考え、更に集客方法や展示の仕方と広がりを考える。
第 23 回	中間発表－まとめ	グループ発表の仮題目を決め中間発表を行う。展示構想を具体化していく。
第 24 回	企画展実施⑥ 発表に向けた準備	発表内容の構成やポイントを整理する。パワーポイント情報への整理を行う。
第 25 回	企画展実施⑦ ミュージアムグッズについて	博物館の魅力の一つとしてグッズがある。独自のグッズを考えてみよう。
第 26 回	企画展実施⑧ 最終発表に向けた調整を行う	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。パワポ内容やレジュメ原稿を整理する。
第 27 回	発表 グループ数が多い場合は、発表順を決め 2 回に分けて実施する場合がある	各グループが 1 5 分程度で発表する。パワーポイントやペーパーを用いて発表する。1 年間の成果を問う。
第 28 回	発表評価と企画展の将来的展望について（まとめ）	発表案について評価すると共に、日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。企画展発表のためにはいろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を最低 3 回程度課します。最新の展示状況を俯瞰し自分の企画展発表のシーズ（種）を探してください。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業時に配布します。

【参考書】

特別展図録や展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】

出席 7 割以上確認の上、成績を課題発表等から評価する。学生自身のオリジナリティを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。前期の出席や評価については適宜課題等を通じて確認していきます。

【学生の意見等からの気づき】

机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけて欲しいです。

【学生が準備すべき機器他】

グループ討議では☑を用意していただきます。個人用に加え、必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有として☑を活用してほしいですが、最近ではスマートフォンでやり取りするケースも多く、実際の使用を認めています。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline and objectives】

Learn how to organize exhibitions at the museum. In the first half the lesson, you will learn various steps based on the text. In the second half, we will organize a group and present a special exhibition. At the same time, learn about the differences between the world and Japan in their approach to museum activities.

博物館実習Ⅱ

小西 雅徳

単位：2 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館は奥の深い世界です。学芸員のスタンスとして博物館活動の花形である企画展実施過程の手法を学んでいきます。日本の博物館ではコレクションの関係や館規模、組織等の問題から、集客性に重点を置いた企画展を重視する傾向があります。これは世界的にみても特異な現象ですが、企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、個人の企画力やグループ討議を通じて企画展実施のノウハウを学びながら、博物館の裏方を支える学芸員の世界をのぞいてみましょう。今年はコロナウイルスの関係で前期は学習支援システムからの教材提供と授業内容確認となりますが、規制が解除となった時点で講義へと移行します。

【到達目標】

日本の博物館活動では企画展あるいは特別展と呼ばれる集客性を重視した企画が必要とされます。そのため学芸員も企画展を前提に活動を行うことが求められています。企画展を実施するには、多様な価値観や専門性に加え基本となる企画展実施の工程・過程を学ぶ必要があり、この授業では 1 年間を通じて企画展実施までの様々な手法やその時々流行を捉え、博物館現場の実践をシミュレーションして学んでいきます。博物館学という基礎能力の構築と同時に豊かな企画展創造への個々人のスタイルと発想力を引き出していきます。個人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想・発表し到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業内容は、前期と後期を通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程と手順、③グループ発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが博物館の展示状況をスライドで紹介し、後期はグループ発表準備にあてます。個々人の企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制をグループワークを通じて模擬体験します。発表はパワーポイントとなります。レポート課題を随時課していきます。前期は学習支援システムからの講義資料配布となりますが、規制解除後は講義となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 博物館展示と学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や実情を紹介しします。
第 2 回	博物館展示の時代的、地域的推移について（概説）	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証しつつ、海外と日本の学芸員のスタイルについて紹介しします。
第 3 回	日本と海外の企画展の違いについて	日本と海外における企画展の実態を紹介しします。国内の企画展数は約 1 万件近くに上る一方で、海外で時間をかけた展示が多いようです。
第 4 回	スライド（海外博物館の展示状況）	欧米博物館・美術館の展示状況をスライドで解説します。
第 5 回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順－その 1－展示のための素材探し、種・ヒントの探し方考える。
第 6 回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみる	企画展実施までの工程手順－その 2－成功した企画展例を基に、自分なりにシミュレーションしてみる。
第 7 回	展示構想と企画書 企画展を構想する①	展示構想の内容と要点について説明し、盛り込む内容を整理する。課題として企画書を作成する。
第 8 回	レポート課題	前回までの展示の進め方を参考に自分が取り組んでみたい企画展を構想し提出してください。
第 9 回	展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示室の空間やケースの配置、照明計画のあり方を説明する。
第 10 回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員存在理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。ライターとしての学芸員像を提示する。
第 11 回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。またサイン作成も重要。
第 12 回	展示図録・パンフレット等の作成手順	図録やポスター等の印刷物作成手順を学ぶ。
第 13 回	借用交渉と調査	学芸員の力量は資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。資料をみて調査を作成する。

第 14 回	資料保存修復の仕方について	展示を実施する際に資料の修復等を行うことがある。どのような状況で行うのかその実際例を紹介する。
第 15 回	資料目録の作成手順	展示の第一歩は出展目録の作成にある。展示資料の 1 次候補から 2 次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始める。
第 16 回	企画展を構想する②	学生自身で企画展を構想提示し発表する。優れた企画案について議論を深める。
第 17 回	情報端末導入について	大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。
第 18 回	企画展実施① グループ紹介と自己の主張について	5 人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第 19 回	企画展実施② グループ企画展から発表題を絞り込む	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第 20 回	企画展実施③ 展示企画の具体像を提示していく	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 21 回	企画展実施④ 展示企画の具体像の作文化	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 22 回	企画展実施⑤ 教育普及と観覧者の希望する展示とは何かを考える	企画展における教育普及のあり方を考え、更に集客方法や展示の仕方と広がりを考える。
第 23 回	中間発表－まとめ	グループ発表の仮題目を決め中間発表を行う。展示構想を具体化していく。
第 24 回	企画展実施⑥ 発表に向けた準備	発表内容の構成やポイントを整理する。パワーポイント情報への整理を行う。
第 25 回	企画展実施⑦ ミュージアムグッズについて	博物館の魅力の一つとしてグッズがある。独自のグッズを考えてみよう。
第 26 回	企画展実施⑧ 最終発表に向けた調整を行う	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。パワポ内容やレジュメ原稿を整理する。
第 27 回	発表 グループ数が多い場合は、発表順を決め 2 回に分けて実施する場合がある	各グループが 1 5 分程度で発表する。パワーポイントやペーパーを用いて発表する。1 年間の成果を問う。
第 28 回	発表評価と企画展の将来的展望について（まとめ）	発表案について評価すると共に、日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。企画展発表のためにはいろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を最低 3 回程度課します。最新の展示状況を俯瞰し自分の企画展発表のシーズ（種）を探してください。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業時に配布します。

【参考書】

特別展図録や展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】

出席 7 割以上確認の上、成績を課題発表等から評価する。学生自身のオリジナリティを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。前期の出席や評価については適宜課題等を通じて確認していきます。

【学生の意見等からの気づき】

机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけて欲しいです。

【学生が準備すべき機器他】

グループ討議では☑を用意していただきます。個人用に加え、必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有として☑を活用してほしいですが、最近ではスマートフォンでやり取りするケースも多く、実際その使用を認めています。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline and objectives】

Learn how to organize exhibitions at the museum. In the first half the lesson, you will learn various steps based on the text. In the second half, we will organize a group and present a special exhibition. At the same time, learn about the differences between the world and Japan in their approach to museum activities.

【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅱ

杉山 享司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：年間

曜日・時限：土 6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画からフライヤー（展覧会チラシ）の制作までを通して、学芸員の仕事の実践について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】

この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を企画して展覧会概要にまとめ、最終的にはそれをフライヤー（展覧会チラシ）として完成させ発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要な知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 9 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館実習の目的・方法	授業の内容や目的、その進め方について説明する
2	展覧会と学芸員	学芸員の役割と展覧会の意義について解説する
3	展覧会からたどる博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、日本の博物館がどのように発展していったのかを解説する。
4	私立美術館における展示活動の紹介	日本民藝館の概要と展示活動について紹介する
5	公立美術館における展示活動の紹介	静岡県立芹沢鈺介美術館の概要と展示活動について紹介する
6	国立博物館における展示活動の紹介	東京国立博物館の概要と展示活動について紹介する
7	動物園施設における展示活動の紹介	旭山動物園の概要と展示活動について紹介する
8	海外の博物館における展示活動の紹介	大英博物館の概要と展示活動について紹介する。
9	企画展の開催とその意義について	企画展の持つ意味やそれを開催するための方法等について解説する。
10	展覧会実施までのプロセス①	企画書の立案から作成までの過程を解説する
11	展覧会実施までのプロセス②	企画書の作成からプレゼンテーションまでの過程を解説する
12	展覧会実施までのプロセス③	展示の準備から展覧会実施までの過程を解説する
13	出品交渉の心得について	作品の借用交渉について説明する
14	展示の方法や種類について	展示方法の紹介やその作業について解説する
15	展覧会企画に向けて	春学期授業の内容確認と、展覧会の企画書の作成方法について説明する。
16	受講生による 1 回目の展覧会企画の発表	受講生による 1 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。
17	前回発表の振り返りと、受講生による 2 回目の発表	受講生による 2 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、特に展示内容とその構成の仕方について解説する
18	前回発表の振り返りと、受講生による 3 回目の発表	受講生による 3 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では特に展覧会会場の設定に関して解説する
19	前回発表の振り返りと、受講生による 4 回目の発表	受講生による 4 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、料金設定の仕組みについて解説する

20	前回発表の振り返りと、受講生による 5 回目の発表	受講生による 5 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、開館時間や休館日の設定に関して解説する
21	前回発表の振り返りと、受講生による 6 回目の発表	受講生による 6 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、プレゼンテーションの仕方について解説する
22	展覧会企画の発表の総括	受講生各自の発表を基に、問題点や課題を整理し、企画内容の充実化を図る
23	展覧会見学	学芸員の案内による東京都内の美術館見学を行う
24	受講生によるフライヤーを用いた 1 回目の本発表	企画書を基にして作成したフライヤー（展覧会チラシ）の 1 回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
25	前回発表の総評と、受講生による 2 回目の本発表	展示内容に意識しながら 2 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
26	前回発表の総評と、受講生による 3 回目の本発表	フライヤー（展覧会チラシ）のデザイン面に留意しながら 3 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
27	前回発表の総評と、受講生による 4 回目の本発表	プレゼンテーションの仕方を意識しながら 4 回目の本発表を行い、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
28	前回発表の総評と、受講生による 5 回目の本発表	企画者としてのメッセージに留意しながら 5 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するように心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】

レジュメを授業中に配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、秋授業では各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

An exhibition which is one of the basic items of curator's activities. In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

博物館実習Ⅱ

杉山 享司

単位：2 単位 | 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画からフライヤー（展覧会チラシ）の制作までを通して、学芸員の仕事の実践について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】

この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を企画して展覧会概要にまとめ、最終的にはそれをフライヤー（展覧会チラシ）として完成させ発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要な知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 9 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館実習の目的・方法	授業の内容や目的、その進め方について説明する
2	展覧会と学芸員	学芸員の役割と展覧会の意義について解説する
3	展覧会からたどる博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、日本の博物館がどのように発展していったのかを解説する。
4	私立美術館における展示活動の紹介	日本民藝館の概要と展示活動について紹介する
5	公立美術館における展示活動の紹介	静岡市立芹沢銈介美術館の概要と展示活動について紹介する
6	国立博物館における展示活動の紹介	東京国立博物館の概要と展示活動について紹介する
7	動物園施設における展示活動の紹介	旭山動物園の概要と展示活動について紹介する
8	海外の博物館における展示活動の紹介	大英博物館の概要と展示活動について紹介する。
9	企画展の開催とその意義について	企画展の持つ意味やそれを開催するための方法等について解説する。
10	展覧会実施までのプロセス①	企画書の立案から作成までの過程を解説する
11	展覧会実施までのプロセス②	企画書の作成からプレゼンテーションまでの過程を解説する
12	展覧会実施までのプロセス③	展示の準備から展覧会実施までの過程を解説する
13	出品交渉の心得について	作品の借用交渉について説明する
14	展示の方法や種類について	展示方法の紹介やその作業について解説する
15	展覧会企画に向けて	春学期授業の内容確認と、展覧会の企画書の作成方法について説明する。
16	受講生による 1 回目の展覧会企画の発表	受講生による 1 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。
17	前回発表の振り返りと、受講生による 2 回目の発表	受講生による 2 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、特に展示内容とその構成の仕方について解説する
18	前回発表の振り返りと、受講生による 3 回目の発表	受講生による 3 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では特に展覧会会場の設定に関して解説する
19	前回発表の振り返りと、受講生による 4 回目の発表	受講生による 4 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、料金設定の仕組みについて解説する

20	前回発表の振り返りと、受講生による 5 回目の発表	受講生による 5 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、開館時間や休館日の設定に関して解説する
21	前回発表の振り返りと、受講生による 6 回目の発表	受講生による 6 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、プレゼンテーションの仕方について解説する
22	展覧会企画の発表の総括	受講生各自の発表を基に、問題点や課題を整理し、企画内容の充実化を図る
23	展覧会見学	学芸員の案内による東京都内の美術館見学を行う
24	受講生によるフライヤーを用いた 1 回目の本発表	企画書を基にして作成したフライヤー（展覧会チラシ）の 1 回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
25	前回発表の総評と、受講生による 2 回目の本発表	展示内容に意識しながら 2 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
26	前回発表の総評と、受講生による 3 回目の本発表	フライヤー（展覧会チラシ）のデザイン面に留意しながら 3 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
27	前回発表の総評と、受講生による 4 回目の本発表	プレゼンテーションの仕方を意識しながら 4 回目の本発表を行い、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
28	前回発表の総評と、受講生による 5 回目の本発表	企画者としてのメッセージに留意しながら 5 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するように心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】

レジュメを授業中に配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、秋授業では各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

An exhibition which is one of the basic items of curator's activities. In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

博物館実習Ⅲ

金山 喜昭

単位：2 単位 ｜ 開講セメスター：年間

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは、博物館の実務実習である。博物館で働く学芸員に触れることで、専門的で多様な技能を身につけることをめざす。

【到達目標】

博物館に関する基礎知識や基本的な技能をベースに、博物館での館務体験を通して、博物館の業務を理解するとともに、学芸員として求められる実践的能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講前年度までに「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」の 9 科目全てを取得した者のみを対象に、2 週間（10 日間）以上の館務実習を実施する。実習先としては、(1) 全国の博物館における館園実習コース及び (2) 法政大学博物館展示施設での展示実習コースを選択する。受け入れ先の博物館の都合により、実習日数が 10 日を満たない場合は、不足分を秋学期に学内での学芸員実務で補う。このほか、実習前後に計 5 回の事前（実習ガイダンス）・事後（実習発表会）の指導のほか、個別の面接指導・課題指導等を実施する。（全員が対象）

なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、今後の予定や、変更等が生じた場合は資格課程準備室等からメール等で連絡をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	博物館実習Ⅲ（館務実習）の事前指導。概要、受講条件・年間スケジュール、受講及び応募に向けての準備学習を指導。
第 2 回	個別指導	受講生の志望に即した実習計画の設定、応募施設の選択等に関する面談指導。
第 3 回	個別指導	実習計画を踏まえた博物館学芸員実習希望登録書・身上書等の作成・提出。
第 4 回	事前指導	「博物館実習Ⅲ」の履修登録手続等の確認、学内学外実習の応募先の決定、実習計画・関連書類の整備。
第 5 回	事前指導	博物館実習の事前指導。（実務実習の方針、実習にのぞむ心構え・姿勢、事前準備・予習事項）
第 6 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（実習日数は、合計 10 日以上であること。実習内容の詳細は、各博物館での実習内容・日程に従う）
第 7 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 8 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 9 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 10 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 11 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 12 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 13 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 14 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 15 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 16 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 17 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 18 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 19 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 20 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 21 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 22 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 23 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 24 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 25 回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第 26 回	事後指導	事後指導ガイダンス。実習を終えての礼状、実習成果報告及びプレゼンテーションに関する指導。
第 27 回	個別指導	実習成果・考察を明示した報告課題（実習日誌・実習レポート・年度報告書用レジュメ）とプレゼンテーション用電子資料のまとめ・提出。
第 28 回	事後指導	受講者全員による実習成果の発表会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を事前に読むこと。
実習する館を事前に下調べする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

随時指示する

【成績評価の方法と基準】

実習先での評価（50%）。
ガイダンスを含めた平常点（20%）
課題提出物（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

その他の重要事項

*第 1 回ガイダンス【受講準備】（前年度 12 月）

*個別指導【施設選択、希望実習館への問い合わせ、提出書類作成、応募】

*第 2 回ガイダンス【登録、学内・学外実習先の決定】（4 月）

*第 3 回ガイダンス【事前指導】（7 月）

*実地実習

*実習先への礼状の送付

*第 4 回ガイダンス【報告準備】（10 月）

*事後指導・実習報告会および情報交換会（12 月上旬に市ヶ谷キャンパスで開催予定）形式：各自制作のレジュメおよびパワーポイントによる成果発表。
なお、本講座に関する指示・通知に関しては、各ガイダンスならびに資格課程実習準備室の掲示板等で常に確認するようにしてください。

【学内実習】

学内実習の実務実習は、春学期（6 月）及び秋学期（10 月～11 月）にそれぞれ 10 日間実地する。学外の各博物館の都合で実習日数が 10 日に満たない場合、不足分を秋学期の学内実習で補う。

【Outline and objectives】

The theme of this course is a practicum for practical operations at a museum. This course aims to learn communication skills as a member of society as well as professional and diverse skills by training with the professionals at a museum.

ミュージアム資料保存論

今野 農

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における基本的な機能の 1 つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】

講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤を形成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 25 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第 2 回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第 3 回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第 4 回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第 5 回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
配布資料	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。このテーマについては、資料の配布のみで代替とする。
第 6 回	温湿度による劣化と対策	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第 7 回	有害物質、および光による劣化と対策	有害物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第 8 回	生物による劣化と対策	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、I P M（総合的有害生物管理）について解説する。
第 9 回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第 10 回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第 11 回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
配布資料	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。このテーマについては、資料の配布のみで代替とする。
第 12 回	試験・まとめと解説	これまでの講義のまとめとして、博物館資料の保存に対する学芸員の役割を解説し、今後の課題を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・博物館に関する情報を Web など積極的に収集し、多くの館が開館された後は、資料保存の観点から、資料や、館の立地、建築、設備、展示手法、博物館建築などを観察する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

・石崎武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社

・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
 ・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画
 ・金山喜昭・他（監修）（2020.1）『博物館を支える学芸員の仕事』第1巻 資料の収集と保管（DVD）

【成績評価の方法と基準】

春オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的には、平常点：70%程度、最終レポート：30%程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

知識の習熟の項目や小テストの試みが高評価であったため、講義内容や構成は維持しつつ、予習・復習等、日頃の学習活動に対して積極的に取り組めるような課題づくりを心掛ける。配布資料のレイアウト（余白）については、必要があれば、各自でメモ用のノートを用意しておくこと。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

ミュージアム資料保存論

清水 玲子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】

博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。
 到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に着けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には講義形式であるが、資格取得の為の授業であっても、聞くという受身ではなく、自ら考える姿勢が学芸員には必須な素養であることから、ワークショップと発表を実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義	オリエンテーション・博物館資料とは何か	講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明
講義	資料保存の意義	博物館が資料を蒐集し、保存することについて様々な角度からその意義について考える
講義	資料の梱包と輸送	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について
講義	保存の諸条件 1（温・湿度）	資料を保存する環境について、劣化要因として温度と湿度に関して
講義	保存の諸条件 2（光）	資料を展示する際の環境を中心に、劣化要因となる光について
講義	生物被害と IPM	資料における生物の被害と、総合的病害虫管理（IPM：Integrated Pest Management）について
講義	保存の諸条件 3（その他）	温湿度、光、生物以外の劣化要因と留意点について
講義	収蔵と展示	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について
講義	自然災害と資料保存	災害の多い日本において、資料を守るための対策と被災後の対応について
講義	修復・修理	美術資料を中心に修復の方法とこれまで修復された文化財を見ていく
講義	文化財の保存と活用	文化財の保護から活用へ社会的な位置づけが大きく変わった中で、未来へ資料を受け継ぐ為の対策や課題を考えていく
ワークシ ョップ	地域資源の保全と博物館の役割	地域の文化財保護における博物館の役割と、博物館の在るべき姿をみんなで考える。
ワークシ ョップ	博物館の役割とは何か	前回のワークショップのまとめと発表
講義	まとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・多種多様な博物館を見学する。
 ・ただ、見学するのではなく、自ら疑問点を見つける。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】

『歴史を未来につなぐ：「3・11 からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019 年 5 月
 金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017 年 3 月
 奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会（地域づくりの基礎知識 1）』神戸大学出版会、2018 年 1 月
 吉田 正人『世界遺産を問い直す』山と溪谷社、2018 年 8 月

*その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）通常レポート（講義内課題提示）（40%）平常点（10%）及び出席状況、授業態度などから総合的に評価する。

資格取得の為の授業ではあるが、到達目標に書いた通り、学生自身が自ら考えることを求めているので、「自ら考え、自ら言葉で語っているか」を評価基準とする。

* 14 回の講義の内、数回の課題を課す予定。

*詳細は、第 1 回目の講義で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・協力を得ることができれば、「野上記念法政大学能楽研究所」における見学を実施したいと考えている。履修者の状況などを考慮し、確定予定である。
・授業スライドの写真撮影は許可しない。筆記することが望ましいが、間に合わない場合などは対応するので申し出て欲しい。

【Outline and objectives】

Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

ミュージアム展示論

渡邊 尚樹

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総合的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップを取り入れることで、さらに興味を持たせる工夫が必要と感じた。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

ミュージアム展示論

渡邊 尚樹

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

学習支援システムで授業が開始されるのは4月25日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ、展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
4	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
5	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
6	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ、物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
7	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
8	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
9	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
10	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
11	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
12	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的评价を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %（講義再開後）、課題 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップを取り入れることで、さらに興味を持たせる工夫が必要と感じた。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

ミュージアム情報・メディア論

柏女 弘道

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】

博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は 4 月 28 日（火）を初回授業開始日とする。

本授業は学習支援システムにレジュメ等を掲示し、それに対して課題を課す等でオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 博物館における情報	【オンラインで実施】 授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	【第 2 回以降は今後適宜修正を行う】	視聴覚メディアの発展について説明する
第 3 回	ICT 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化①	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化②	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化③	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 10 回	博物館情報の管理と公開	情報管理や情報公開の方法を説明するとともに、情報の整備・管理・発信時における課題や、博物館情報を支える人々についても触れる。
第 11 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 12 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 13 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、如何に知的財産として整備していくのかについても触れる。
第 14 回	まとめ	市民が自らの学習成果、生き方や活動を発信したり、交流をする場としての地域博物館のあり方を、実際の地域博物館の活動を事例に紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013 年）
K. マックリーン著、井島真知・芦谷美奈子訳『博物館をみせる-人々のための展示プランニング-』（玉川大学出版部、2003 年）
日本展示学会編『展示論—博物館の展示をつくる—』（雄山閣、2010 年）
大堀哲、水島英治編『博物館学 III — 博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012 年）
金山喜昭著『公立博物館を NPO に任せたら—市民・自治体・地域の連携—』（同成社、2012 年）
全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 55 %、レポート 45 %。詳しくは初回授業の 4 月 28 日（火）にガイダンス資料を学習支援システムに掲載し、説明を行う。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

博物館について日ごろから興味関心を持ち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline and objectives】

Think about how to make use of information in museums

ミュージアム情報・メディア論

石川 貴敏

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。

【到達目標】

将来、博物館に関連する仕事を志す者に対しては、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける事を目指します。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す者に対しては、博物館における情報の活用方法などを伝え、博物館の賢い利用者、理解者となるよう、ミュージアム・リテラシーを高めることも目標の一つに据えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。講義毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に受講者の意見を踏まえながら講義内容の工夫を図っていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	I C T 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化＜調査研究活動＞	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化＜展示活動＞	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化＜教育普及活動・学習活動＞	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 10 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 11 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 12 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えけるとともに、情報の整備・管理・発信時における課題についても触れる。
第 13 回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。
第 14 回	博物館における情報・メディア戦略（まとめ）	博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日的課題を通して、今、求められている博物館情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けるつもりです。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知っていないと内容が理解できないかもしれません。各自、授業外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、授業時に配布します。

【参考書】

『博物館学 III — 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著、学文社、2012 年）
 『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（西岡貞一・篠田謙一編著、放送大学教育振興会、2013 年）
 『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（稲村哲也・近藤智嗣編著、放送大学教育振興会、2018 年）
 『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編、ぎょうせい、2013 年）
 『展示論－博物館の展示をつくる－』（日本展示学会編、雄山閣、2010 年）
 『博物館展示論（KS 理工学専門書）』（黒沢浩編著、講談社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

期末にレポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えています）を提示します。「平常点」と「レポート課題（与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを判断します）」で総合的に評価します。「平常点 40 %（40 点）」「レポート課題 60 %（60 点）」の配分（合計 100 点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本講義に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せています。国からも新たな施策や指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、受講者と意見を交わしていけたらと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

本講義では、講義資料（パワーポイント等）・配布資料（授業時に配布します）とともに、インターネットを介した個別の事例（取組）を紹介します。インターネットにアクセスできる情報機器（スマートフォン等）は準備できると望ましいです。また、各回の内容を復習できるように、講義資料や講義で紹介した事例（取組）の URL は授業支援システムを利用して掲載することを考えています。

【その他の重要事項】

ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、約 30 年間の実務経験を有しています。そのうち 20 年以上にわたって、情報部門の責任者を務めてきました。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当したり、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業に従事しました。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline and objectives】

We will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also present about the present situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, we will try to devise new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments.

